Ibaraki University 2027

茨城大学
Ibaraki University

2027

令和９年度
（２０２７年度）

入学者選抜要項

令和９年度（2027年度）茨城大学入学者選抜関係日程

総合型選抜	学校推薦型選抜 （一般推薦・専門高校推薦）	私費外国人 留学生選抜	一般選抜	
			前期日程	後期日程
・教育学部（一部のコース又は選修） ・工学部（都市システム工学科のみ） ・農学部（地域総合農学科地域共生コースのみ） ・地域未来共創学環	全学部 （理学部の総合理学コースを除く）	全学部 （教育学部の一部を除く） 及び 地域未来共創学環	全学部 及び 地域未来共創学環	全学部 （教育学部の一部を除く）

９月

10月

- 出願期間：９月30日（水）～10月２日（金）
- 試験期日：10月17日（土）
  ※地域未来共創学環のみ10月18日（日）にも実施

11月

- 合格者発表：11月１日（日）
- 入学手続：11月９日（月）～12日（木）

- 出願期間：11月３日（火）～５日（木）
- 試験期日：11月21日（土）

12月

- 合格者発表：12月４日（金）
- 入学手続：12月17日（木）～22日（火）

１月

- 出願期間：１月19日（火）～21日（木）
- 大学入学共通テスト：１月16日（土）、17日（日）
- 出願期間：１月25日（月）～２月３日（水）

２月

- 試験期日：２月13日（土）
- 合格者発表：２月19日（金）
- 試験期日：２月25日（木）
  教育学部の一部のコース・選修等及び地域未来共創学環のみ２月26日（金）にも実施

３月

- 入学手続：２月25日（木）～３月１日（月）
- 合格者発表：３月６日（土）
- 入学手続：３月８日（月）～15日（月）
- 試験期日：３月12日（金）
- 合格者発表：３月20日（土）
- 入学手続：３月22日（月）～27日（土）

≪お知らせ≫

この冊子で説明している「令和９年度（2027年度）入学者選抜」は、令和９年（2027年）４月入学者が対象です。

■令和９年度入学者選抜における教科・科目に関する試験の名称の変更について

教科・科目に関する試験の名称は、全て「教科・科目に係る個別テスト（以下、「個別テスト」）」に統一し、それぞれ対応する教科・科目等の名称を明示します。

■こども性暴力防止法の施行に係る留意点について

本学では、「こども性暴力防止法」（令和8年12月25日施行）および関係通知を踏まえ、教育実習等、こどもと接する活動において性犯罪前科の有無の確認が求められる場合があること、また、その結果によっては教育実習の履修、教員免許等の資格取得、卒業（修了）に影響が生じる可能性があります。詳細は以下の資料にてお知らせしています。

▶ 「本学に出願（入学）予定の皆様へ（重要なお知らせ）」
https://www.ibaraki.ac.jp/m/generalinfo/information/2026/01/30014492.html

■令和９年度総合型選抜について

令和８年度に実施する令和９年度総合型選抜から、「総合型選抜Ⅰ」と「総合型選抜Ⅱ」を統合し、全ての「総合型選抜」を10月に実施します。共通テストは課しません。

「総合型選抜」で不合格となった場合は、11月に実施する「学校推薦型選抜」に出願することが可能です。

「総合型選抜」を実施する学部・学環等は以下のとおりです。

【総合型選抜（10月実施）】

教育学部

学校教育教員養成課程の教育実践科学コース、教科教育コースの一部（言語・社会教育系英語選修、理数教育系理科選修、技術教育系技術選修）及び特別支援教育コース

工学部

都市システム工学科（建築デザインプログラム）

農学部

地域総合農学科 地域共生コース

地域未来共創学環

■インターネット出願について

本学では、**すべての入学者選抜でインターネット出願を実施しています**。茨城大学「インターネット出願サイト」にアクセスして、出願学部、学科・課程等や志願者情報等を登録し、検定料を支払った後、出願に必要な書類を大学に郵送する方法で出願を受け付けます。インターネット環境が必要となりますので、志願者本人がパソコンやスマートフォン等のインターネット環境を持たない場合は、学校等のインターネット環境を利用して出願してください。

詳細については、今後、本学ホームページで公表する各選抜の学生募集要項等（公表時期等は、裏表紙の裏面）を参照してください。

■不測の事態が発生した場合の対応について

災害や感染症のまん延等の不測の事態が発生した場合は、出願期間や選抜日程、選抜方法等を変更することがあります。

その際は、本学ホームページ【https://www.ibaraki.ac.jp/admission/index.html#support】にて適宜お知らせしますので、出願・受験前等に必ず確認してください。

※　本文中にある「各学部、学科・課程等」などの表現には、「地域未来共創学環」も含まれます。

（このページは空白ページです）

目　次

Ⅰ．茨城大学のアドミッション・ポリシー ･･･ 1

Ⅱ．入学定員（募集人員） ･･･ ２２

Ⅲ．一般選抜 ･･･ ２３

１．選抜日程及び注意事項･･･ ２３

２．出願資格 ･･･ ２３

３．入学者の選抜方法等 ･･･ ２４

（１）入学者選抜の実施教科・科目等 ･･ ２４

１）大学入学共通テストの各教科・科目の注意事項･･････････････････････････････ ２４

２）個別テスト等の各教科・科目等及び出題意図等 ･････････････････････････････ ２８

３）主体性評価 ･･･ ３７

（２）実施教科・科目等の配点 ･･･ ３８

（３）成績評価及び合否判定 ･･･ ５４

（４）理学部、工学部及び農学部の第２志望制について ････････････････････････････ ５４

（５）「入試過去問題活用宣言」への参加について･････････････････････････････････ ５６

４．追加合格及び欠員補充第２次募集 ･･･ ５６

Ⅳ．総合型選抜 ･･･ ５７

Ⅴ．学校推薦型選抜（一般推薦、専門高校推薦）････････････････････････････････ ６５

Ⅵ．私費外国人留学生選抜 ･･･ ９３

Ⅶ．個別の入学資格審査の申請 ･･･ ９８

Ⅷ．災害救助法等の適用地域の被災者に対する入学検定料免除 ･･･････････････････ ９９

Ⅸ．障害等のある入学志願者の事前相談 ･･･････････････････････････････････ １００

Ⅹ．情報提供 ･･･ １０１

Ⅺ．個人情報の取扱い ･･･ １０２

Ⅻ．令和10年度（2028年度）入学者選抜（予告） ･････････････････････････････ １０２

XIII．試験場 ･･･ １０２

XIV．不正行為・迷惑行為 ･･ １０２

Ⅰ．茨城大学のアドミッション・ポリシー

茨城大学では、以下の４つの能力と資質を有する多様な志願者を求めています。能力と資質の詳細は、学部・学科等（課程・コース等）毎に異なっており、志願者に対して、それぞれ適切な方法で選抜を行い入学者を決定します。

◆茨城大学のアドミッション・ポリシー◆

1．（**知識・技能**）大学における専門分野の学修に必要な基礎学力を有していること
2．（**知的関心**）自分の身近な事柄だけでなく、地域の事象、自然環境、国際社会、人間と多様な文化等の広い分野に対する知的関心を有していること
3．（**思考力・判断力・表現力**）これまでの学習と生活において他者と共に課題解決をめざした経験があり、そのための基礎的な思考力・判断力・表現力を有していること、あるいは、それらを身に付ける意欲を有していること
4．（**主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度**）これまでの学習と生活において、多様な人々とコミュニケーションを取りながら協働して主体的に活動した経験があること、あるいはそのような活動をする意欲を有していること

◆各学部・学科等のアドミッション・ポリシー◆

人文社会科学部

［学部として入学者に求める能力・資質（アドミッション・ポリシー）］

人文社会科学部では、文系総合学部としての特徴を生かし、主専攻であるメジャーと副専攻であるサブメジャーの複合による学修を通じて、人間の文化と社会活動に関する専門性を持ちながら、世界のさまざまな「地域」で生き生きと働き、活躍できる人材を育成します。

したがって、人文社会科学部において入学者に求める能力・資質は以下のとおりです。

1．（**知識・技能**）人文社会科学部における専門分野の学修に必要な基礎学力
2．（**知的関心**）
　ア）現代における地域・国際社会とメディア、法律と経済、人間と多様な文化などの広い分野についての知的関心
　イ）大学での学びを通じてこれらを探究し、自らを高め、成長したいという積極的な意欲
3．（**思考力・判断力・表現力**）
　ア）さまざまな課題を他者とともに解決していくための基礎的な思考力、判断力、表現力
　イ）さまざまな問題を深く理解するための読解力や分析力、自分の意見をわかりやすく表現するための記述力などの基礎
4．（**主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度**）自主的・主体的に、さまざまな人々とコミュニケーションを取りながら、協働して活動する意欲

人文社会科学部　現代社会学科	
学科として入学者に求める能力・資質 **（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）**	現代社会学科には「メディア文化メジャー」「国際・地域共創メジャー」があります。そこでは、現代のさまざまなメディアの特質についての学びを通じて表現力・発信力を鍛えるほか、社会学、地理学、政治学、国際学などのアプローチによる国内外の地域課題の調査から、解決策を提案する力を養います。 それにより、多様な人々との対話と協働をとおして現代社会におけるさまざまな課題を見いだし、地域活性化や文化の創造に携わっていけるような人材を育成します。 したがって、現代社会学科において入学者に求める能力・資質は以下のとおりです。 **1．（知識・技能）**現代社会学科における専門分野の学修に必要な基礎学力 **2．（知的関心）** ア）現代社会におけるメディア、地域または国際社会についての広い知的関心 イ）現代社会における諸問題を、社会学、地理学、政治学、国際学などの手法を通じて自ら発見し、解決しようとする積極的な意欲 **3．（思考力・判断力・表現力）** ア）現代社会におけるさまざまな課題を他者とともに解決していくための基礎的な思考力、判断力、表現力 イ）現代社会におけるさまざまな問題を深く理解するための読解力や分析力、自分の意見をわかりやすく表現するための記述力などの基礎 **4．（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）**自主的・主体的に、さまざまな人々とコミュニケーションを取りながら、協働して活動する意欲
入学者選抜において評価する能力・成果	1）専門分野の学修に必要な国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報に関する基礎学力 2）文献・資料の読解のための英語に関する基礎学力 3）現代社会におけるメディア、地域及び国際社会に対する知的関心 4）さまざまな課題を解決していくための基礎的な思考力、判断力、表現力 5）これまでの学習や生活において、主体性をもってさまざまな人々とコミュニケーションを取りながら協働して活動した経験、あるいは探究活動の経験
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書（資格・検定試験含む）　主に1）を評価します。 イ）小論文（英語課題文）　主に2）、3）及び4）を評価します。 ウ）面接　主に3）、4）及び5）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）及び2）を評価します。 イ）個別テスト等（英語）　主に2）及び4）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に5）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）及び2）を評価します。 イ）個別テスト等（英語）　主に2）及び4）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に5）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接（作文含む）　主に1）の一部、3）、4）及び5）を評価します。

人文社会科学部　法律経済学科	
学科として入学者に求める能力・資質 **（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）**	法律経済学科には「法学・行政学メジャー」「経済学・経営学メジャー」があります。そこでは、法学、行政学、経済学、経営学を中心に関連する学問分野を総合的に学び、生活者や企業の抱えるさまざまな問題に法的アプローチによって対応したり、市場の役割・企業活動の意義を認識し経済政策やマネジメントを構想したりすることにより、地域の持続的発展に貢献できる理論的・実践的な課題解決能力を持つ人材を育成します。 したがって、法律経済学科において入学者に求める能力・資質は以下のとおりです。 **1．（知識・技能）**法律経済学科における専門分野の学修に必要な基礎学力 **2．（知的関心）** ア）法、行政、経済、経営が果たす社会的な役割についての広い知的関心 イ）社会における諸問題を、法学、行政学、経済学、経営学などの手法を通じて自ら発見し、解決しようとする積極的な意欲 **3．（思考力・判断力・表現力）** ア）法、行政、経済、経営をめぐるさまざまな課題を他者とともに解決していくための基礎的な思考力、判断力、表現力 イ）法、行政、経済、経営をめぐるさまざまな問題を深く理解するための読解力や分析力、自分の意見をわかりやすく表現するための記述力などの基礎 **4．（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）**自主的・主体的に、さまざまな人々とコミュニケーションを取りながら、協働して活動する意欲
入学者選抜において評価する能力・成果	1）専門分野の学修に必要な国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報に関する基礎学力 2）文献・資料読解のための英語に関する基礎学力 3）法、行政、経済、経営が果たす社会的な役割に対する知的関心 4）さまざまな課題を解決していくための基礎的な思考力、判断力、表現力 5）これまでの学習や生活において、主体性をもってさまざまな人々とコミュニケーションを取りながら協働して活動した経験、あるいは探究活動の経験
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書（資格・検定試験含む）　主に1）を評価します。 イ）小論文（英語課題文）　主に2）、3）及び4）を評価します。 ウ）面接　主に3）、4）及び5）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）及び2）を評価します。 イ）個別テスト等（英語）　主に2）及び4）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に5）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）及び2）を評価します。 イ）個別テスト等（英語）　主に2）及び4）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に5）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接（作文含む）　主に1）の一部、3）、4）及び5）を評価します。

人文社会科学部　人間文化学科	
学科として入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	人間文化学科には「文芸・思想メジャー」「歴史・考古学メジャー」「心理・人間科学メジャー」があります。そこでは、人文諸科学の幅広い学びを基礎とし、心やことばの問題をとおして人間の本質を探究するとともに、日本および世界の諸地域の歴史や文化についての理解を深めることにより、人間とその文化の深層を見抜き、よりよい人生、よりよい社会の構想を提案できる力を身に付けた人材を育成します。 したがって、人間文化学科において入学者に求める能力・資質は以下のとおりです。 **1．（知識・技能）**人間文化学科における専門分野の学修に必要な基礎学力 **2．（知的関心）** ア）文芸や思想、日本を含む世界の歴史、人間の心理や文化についての広い知的関心 イ）人間文化の諸問題を、文学、哲学、言語学、史学、考古学、心理学、文化人類学などの手法を通じて自ら発見し、解決しようとする積極的な意欲 **3．（思考力・判断力・表現力）** ア）人間文化に関わるさまざまな課題を他者とともに解決していくための基礎的な思考力、判断力、表現力 イ）文芸や思想、日本を含む世界の歴史、人間の心理や文化を深く理解するための読解力や分析力、自分の意見をわかりやすく表現するための記述力などの基礎 **4．（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）**自主的・主体的に、さまざまな人々とコミュニケーションを取りながら、協働して活動する意欲
入学者選抜において評価する能力・成果	1）専門分野の学修に必要な国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報に関する基礎学力 2）文献・資料の読解のための英語に関する基礎学力 3）文芸や思想、日本を含む世界の歴史、人間の心理や文化に対する知的関心 4）さまざまな課題を解決していくための基礎的な思考力、判断力、表現力 5）これまでの学習や生活において、主体性をもってさまざまな人々とコミュニケーションを取りながら協働して活動した経験、あるいは探究活動の経験
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書（資格・検定試験含む）　主に1）を評価します。 イ）小論文　主に3）及び4）を評価します。 ウ）面接　主に3）、4）及び5）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）及び2）を評価します。 イ）個別テスト等（英語）　主に2）及び4）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に5）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）及び2）を評価します。 イ）個別テスト等（小論文）　主に1）、3）及び4）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に5）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接（作文含む）　主に1）の一部、3）、4）及び5）を評価します。

教育学部

［学部として入学者に求める能力・資質（アドミッション・ポリシー）］

教育学部では、実践的指導力のある教員を養成することをめざしています。私たちを取りまく世界は目まぐるしく変化しています。このような現代の社会にあって、教員に求められていることは、人間・社会・自然についての知的探求心を基礎にした確かな教育的実践力です。教育学部では、十分な専門的知識と子どもの成長や発達に対応した教育的方法を身に付け、さらに教育に関わる幅広い視野をもった、人としての魅力と実力のある教員を養成します。

したがって、教育学部においては、全学のアドミッション・ポリシーで示される４つの能力ないし資質に加え、以下の能力・資質を入学者に求めます。

１．教員になるための学修に必要な、各教科についての幅広い知識
２．教育への関心と教員になりたいという強い意欲

さらに、学校教育教員養成課程の各コースでは、学部全体で求める能力・資質に加え、それぞれ以下のような資質・能力を身に付けていることを求めます。

- **（教育実践科学コース）学校や子どもを巡る問題についての関心とその探究に必要な思考力・判断力・表現力**
- **（教科教育コース）各選修の教科についての関心とその内容の探究に必要な思考力・判断力・表現力**
- **（特別支援教育コース）障害のある子どもとその教育を巡る問題についての関心とその探究に必要な思考力・判断力・表現力**

また、養護教諭養成課程では、学部全体で求める能力・資質に加え、以下のような資質・能力を身に付けていることを求めます。

- **健康や病気についての関心とその探究に必要な思考力・判断力・表現力**

教育学部　学校教育教員養成課程　教育実践科学コース	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）教員になるための学修に必要な、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、教えることへの関心と教員になりたいという強い意欲 3）学校や子どもを巡る問題の探究に必要な思考力・判断力・表現力 4）協働して活動するためのコミュニケーション能力
評価方法	**【総合型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）プレゼンテーション　主に2）、3）及び4）を評価します。 ウ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）プレゼンテーション　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（集団討論）　主に2）、3）及び４）を評価します。

教育学部　学校教育教員養成課程　教科教育コース　言語・社会教育系　国語選修	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）教員になるための学修に必要な、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、教えることへの関心と教員になりたいという強い意欲 3）国語の内容を深め、活用していくための思考力、判断力、言語表現力 4）協働して活動するためのコミュニケーション能力
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）小論文　主に2）及び3）を評価します。 ウ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（小論文）　主に2）及び3）を評価します。 ウ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。

教育学部　学校教育教員養成課程　教科教育コース　言語・社会教育系　社会選修	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）教員になるための学修に必要な、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、教えることへの関心と教員になりたいという強い意欲 3）社会科・地理歴史科・公民科の内容についての関心とその探究に必要な思考力・判断力・表現力 4）協働して活動するためのコミュニケーション能力
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）小論文　主に3）を評価します。 ウ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（小論文）　主に3）を評価します。 ウ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。

教育学部　学校教育教員養成課程　教科教育コース　言語・社会教育系　英語選修	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）教員になるための学修に必要な、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、教えることへの関心と教員になりたいという強い意欲 3）英語と日本語で他者とコミュニケーションする能力と基礎的な英語力 4）異文化を積極的に理解し学ぼうとする意欲
評価方法	**【総合型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）口述試験　主に2）、3）及び4）を評価します。 ウ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に1）の一部、2）、3）及び4）を評価します。

教育学部　学校教育教員養成課程　教科教育コース　理数教育系　数学選修	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）教員になるための学修に必要な、国語、地理歴史又は公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、教えることへの関心と教員になりたいという強い意欲 3）数学の内容についての関心と、それを探究していくための思考力、判断力、表現力 4）協働して活動するためのコミュニケーション能力
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学）　主に3）を評価します。 ウ）個別テスト等（面接）　主に2）及び4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）及び3）を評価します。 イ）個別テスト等（面接）　主に2）及び4）を評価します。

教育学部　学校教育教員養成課程　教科教育コース　理数教育系　理科選修	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）教員になるための学修に必要な、国語、地理歴史又は公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、教えることへの関心と教員になりたいという強い意欲 3）理科及び周辺教科の内容についての関心と、それを探究していくための思考力、判断力、表現力 4）協働して活動するためのコミュニケーション能力
評価方法	**【総合型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）口述試験　主に2）、3）及び4）を評価します。 ウ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。

教育学部　学校教育教員養成課程　教科教育コース　音楽教育系　音楽選修	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）教員になるための学修に必要な、国語、地理歴史又は公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、教えることへの関心と教員になりたいという強い意欲 3）音楽やその指導・教育を巡る問題についての関心と、それを探究していくための思考力、判断力、表現力 4）協働して活動するためのコミュニケーション能力 5）音楽実技の能力
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）実技検査　主に5）を評価します。 ウ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（実技検査）　主に5）を評価します。 ウ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（実技検査）　主に5）を評価します。 ウ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。

教育学部　学校教育教員養成課程　教科教育コース　美術教育系　美術選修	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）教員になるための学修に必要な、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、教えることへの関心と教員になりたいという強い意欲 3）美術及び美術教育を巡る問題についての関心と、それを探究していくための思考力、判断力、表現力 4）協働して活動するためのコミュニケーション能力 5）美術実技の能力あるいは活動実績
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 ウ）ポートフォリオ・付属資料　主に3）及び5）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（実技資料検査）　主に5）を評価します。 ウ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）、4）及び5）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）、4）及び5）を評価します。

教育学部　学校教育教員養成課程　教科教育コース　保健体育教育系　保健体育選修	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）教員になるための学修に必要な、国語、地理歴史又は公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、教えることへの関心と教員になりたいという強い意欲 3）保健体育についての関心と、保健体育に関する知識・技能を深めていくための思考力、判断力、表現力 4）協働して活動するためのコミュニケーション能力 5）体育実技の能力あるいは活動（競技又は指導等）の実績
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 ウ）運動特技に関する調書　主に5）のうち「特定の運動種目における実技能力」を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（実技検査）　主に5）のうち「全般的な運動実技の能力」を評価します。 ウ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。 エ）運動特技に関する調書　主に5）のうち「特定の運動種目における実技能力」を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）、4）及び5）を評価します。 ウ）運動特技に関する調書　主に5）のうち「特定の運動種目における実技能力」を評価します。

教育学部　学校教育教員養成課程　教科教育コース　技術教育系　技術選修	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）教員になるための学修に必要な、国語、地理歴史又は公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、教えることへの関心と教員になりたいという強い意欲 3）技術科教育についての関心と、それを探究していくための思考力、判断力、表現力 4）協働して活動するためのコミュニケーション能力
評価方法	**【総合型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）口述試験　主に1）のうち数学、理科、外国語（英語）、情報の基礎学力を評価します。 ウ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【学校推薦型選抜（一般）】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）面接　主に1）のうち数学、理科、外国語（英語）の基礎学力並びに2）、3）及び4）を評価します。 **【学校推薦型選抜（専門高校）】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）面接　主に1）のうち数学、理科、外国語（英語）の基礎学力並びに2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。

教育学部　学校教育教員養成課程　教科教育コース　生活科学教育系　家庭選修	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）教員になるための学修に必要な、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、教えることへの関心と教員になりたいという強い意欲 3）生活科学や家庭科の内容についての関心と、それを探究していくための思考力、判断力、表現力 4）協働して活動するためのコミュニケーション能力
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）プレゼンテーション　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。

教育学部　学校教育教員養成課程　特別支援教育コース	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）教員になるための学修に必要な、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、教えることへの関心と教員になりたいという強い意欲 3）障害のある子どもとその教育を巡る問題についての関心とその探究に必要な思考力、判断力、表現力 4）協働して活動するためのコミュニケーション能力
評価方法	**【総合型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）プレゼンテーション　主に2）、3）及び4）を評価します。 ウ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）プレゼンテーション　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（集団活動）　主に4）、同時に2）及び3）を評価します。

教育学部　養護教諭養成課程	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）養護教諭になるための学修に必要な、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）子どもと関わること、子どもの発育・発達や健康への関心と養護教諭になりたいという強い意欲 3）子どもの健康や病気についての基本的な知識とその向上に必要な思考力、判断力、表現力 4）協働して問題解決に取り組むためのコミュニケーション能力
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（プレゼンテーション）　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

理学部

［**学部として入学者に求める能力・資質（アドミッション・ポリシー）**］

理学部は、自然科学に関する真理、原理、理論を論理的、かつ、合理的に理解することを目指す学部です。本学部は、１学科６コース制を導入しており、理学科の中に数学・情報数理、物理学、化学、生物科学、地球環境科学、総合理学の６コースがあります。理学部では、各専門分野の学修を通して得られる高い専門知識だけでなく、幅広い知識と能力を身に付けるとともに、柔軟な思考力及び問題解決能力を有する「理学スペシャリスト」として、社会が直面する諸課題に積極的に取り組み、広く社会の発展に貢献することができる人材の育成を目指しています。

したがって理学部入学者には、以下の能力を求めます。

１．（知識・技能）数学、理科の基礎知識及び論理的思考力を身に付けていること
　国語、外国語、地理歴史又は公民、情報の基礎的な知識も有し、論理的な文章を作成できること
２．（知的関心）自然及び社会に起きている出来事に対する幅広い関心を有していること
３．（思考力・判断力・表現力）これまでの学習と生活において、課題解決をめざして思考力・判断力・表現力を用いた経験がある、あるいはそのような経験をしたいという意欲を有していること
４．（主体性）自然科学の分野において探究活動を行う意欲と主体性を有していること

理学部　理学科　数学・情報数理コース	
コースとして入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	理学科数学・情報数理コースでは、数学を基礎として論理的思考力を養うとともに情報科学の手法も学び、真の分析能力・問題解決能力を持つ人材の育成を目指しています。 したがって、理学部アドミッション・ポリシーの内容に加え、特に数学Ⅲ及び数学Ｃまでの内容をしっかり学んでいることを求めます。表面的な解法パターンを覚えるのではなく、なぜそうなるかを粘り強く考え、その上で他の人に数式を用いて説明できる力を養うことが大切です。このような努力を積むことで数学自体の理解が自然に深まると考えています。
入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、外国語、情報に関する基礎学力。特に、数学、理科を重視します。 2）数学Ⅲ及び数学Cまでの内容の理解度と数式を用いて説明する能力 3）数学・情報数理に対する関心の深さ、思考力、判断力、表現力 4）コースでの学修意欲、大学での学修に必要なコミュニケーション能力、数学や理科に関する課題研究などの経験
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）数学　主に2）及び3）を評価します。 ウ）面接　主に3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学）　主に2）及び3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学）　主に2）及び3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

理学部　理学科　物理学コース	
コースとして入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	物理学は、物質の性質をはじめ、物質のミクロな根源である素粒子からマクロな宇宙まで、幅広い対象を扱います。 したがって、理学部アドミッション・ポリシーの内容に加え、これらを深く学ぶ際の原動力となる、自然に対する幅広い好奇心や柔軟な思考能力を、様々な教科を通じて育んでいることを求めます。また、物理学は、物理現象の定式化とその検証による精密化を通じて発展してきた積み上げ型の学問です。その修得には、目の前の困難に向き合ってねばり強く取り組む姿勢が必要です。
入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、外国語、情報に関する基礎学力。特に、数学、理科を重視します。 2）物理学の基本的知識、基礎的素養及び数学的思考力 3）自然に対する幅広い好奇心や柔軟な思考能力、判断力、表現力 4）コースでの学修意欲、大学での学修に必要なコミュニケーション能力、理科や数学に関する課題研究などの経験

評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学、理科）　主に2）及び3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）及び2）を評価します。 イ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

理学部　理学科　化学コース	
コースとして入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	化学は、原子・分子・化合物など、物質を通して自然現象の理解とその応用を行う学問です。化学コースでは、種々の物質の構造、反応、性質及び自然界における循環などのしくみを化学的に理解し、化学の知識と技術を活かして社会に貢献する意欲を有することを求めます。 したがって、理学部アドミッション・ポリシーの内容に加え、理系科目全般を学び、自然現象に対する論理的思考力と知的好奇心を育んでいることを求めます。化学については基本的な概念や原理を理解し、化学の法則に従って観測される現象を説明できることが求められます。また、自分の考えを正確に伝えるための言語力と表現力を身に付けていることが必要です。
入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、外国語、情報に関する基礎学力。特に、数学、理科を重視します。 2）化学の基本的知識と思考力 3）自然に対する幅広い好奇心や柔軟な思考力、判断力、表現力 4）コースでの学修意欲、大学での学修に必要なコミュニケーション能力、理科や数学に関する課題研究などの経験
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）化学　主に2）及び3）を評価します。 ウ）面接　主に3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（理科）　主に2）及び3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）及び2）を評価します。 イ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

理学部　理学科　生物科学コース	
コースとして入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	今日、社会のいたる所で生物学に関する知識と思考力が求められています。生物科学コースでは、さまざまな生命現象や生物の多様性への強い興味と関心、それらに関する未知の課題に積極的に取り組む姿勢を求めています。また、柔軟な思考力をもち、科学技術や社会の発展に貢献する意欲を有することを求めます。 したがって、入学者には特に、大学での学修に必要な基礎学力と論理的思考力を備えていることを求めます。「生物基礎」の全ての範囲及び「物理」、「化学」、「生物」のいずれかの科目を学び、理学分野の基礎を確実に身に付けていることが必要です。また、論理的思考及びコミュニケーションのために必要な言語力を身に付けていることを求めます。

入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、外国語、情報に関する基礎学力。特に、数学、理科を重視します。 2）理科の基本的知識と思考力 3）自然に対する幅広い好奇心や柔軟な思考力、判断力、表現力 4）コースでの学修意欲、大学での学修に必要なコミュニケーション能力、理科や数学に関する課題研究などの経験
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）論述問題（生物）　主に2）及び3）を評価します。 ウ）面接　主に3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（理科）　主に2）及び3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）及び2）を評価します。 イ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

理学部　理学科　地球環境科学コース	
コースとして入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	理学科地球環境科学コースでは、地球及び太陽系の起源・歴史やそこで生じる様々な現象に加え、社会に直接関係するグローバル及び地域的な環境問題や様々な自然災害などについて学び、研究します。 したがって、入学者には特に、地球・太陽系における様々な現象や環境問題・自然災害に対する強い興味・関心、自ら学んでいく意欲及びそれを理解するために必要となる基礎学力を求めます。さらに、地球環境科学の課題に取り組むためには、論理的思考力・判断力及び広い視野が必要です。また、自分の考えを正確に伝えるための言語力と表現力を身に付けていることが必要です。
入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、外国語、情報に関する基礎学力。特に、数学、理科を重視します。 2）理科の基本的知識と思考力 3）自然に対する幅広い好奇心や柔軟な思考力、判断力、表現力 4）コースでの学修意欲、大学での学修に必要なコミュニケーション能力、理科や数学に関する課題研究などの経験
評価方法	**【学校推薦型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）総合問題（数学、理科）　主に2）及び3）を評価します。 ウ）面接　主に3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（理科）　主に2）及び3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）及び2）を評価します。 イ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

理学部　理学科　総合理学コース	
コースとして入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	自然界の様々な現象は、物理・化学・生物・地学・数学という基本的な学問分野に留まらず、それらの分野の間に横断的に広がっています。総合理学コースでは、複数分野の基礎を幅広く学んだ上で自らの専門を定め学修していくことにより、学際的視点を養いつつ、専門知識を活かして科学の諸問題の解決に挑戦できる能力の育成を目指しています。 したがって、入学者には、幅広い自然科学現象、特に複数の科学領域に関する強い興味・関心、自ら学んでいく意欲及びそれを理解するために必要となる基礎学力が求められます。さらに、科学的な課題に取り組むためには、論理的な思考力・判断力及び広い視野が必要です。また、自分の考えを正確に伝えるための言語力と表現力を身に付けていることも必要です。

入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、外国語、情報に関する基礎学力。特に、数学、理科を重視します。 2）物理、化学、生物、地学のいずれかに関する基本的知識と思考力 3）自然に対する幅広い好奇心や柔軟な思考力、判断力、表現力 4）コースでの学修意欲、大学での学修に必要なコミュニケーション能力、理科や数学に関する課題研究などの経験
評価方法	**【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（理科）　主に2）及び3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）及び2）を評価します。 イ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

工学部

［**学部として入学者に求める能力・資質（アドミッション・ポリシー）**］

工学部では、世界的視野で未来に向かってはばたく科学技術を創造する拠点として絶えず前進しながら、工学系専門技術者として、人々と協働して課題解決をめざし、社会の持続的な発展に貢献し、地域の活性化に自ら進んで取り組む、高度科学技術を実践する人材を育成しています。

したがって、工学部において入学者に求める能力・資質は以下のとおりです。

1．（**知識･技能**）工学部における専門分野での学修に必要な基礎学力
2．（**知的関心**）工学及びその周辺分野における地域から地球に至るまでの様々な規模での社会の課題に対する幅広い知的関心
3．（**思考力・判断力・表現力**）これまでの学習と生活において、工学について他者と共に課題解決をめざした経験及びそのための基礎的な思考力・判断力・表現力を有していること、あるいはそれらを身に付けたいという意欲
4．（**主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度**）これまでの学習と生活において、工学に関して多様な人々とコミュニケーションを取りながら協働して主体的に活動した経験、あるいはそのような活動をしたいという意欲

上記でいう工学には、数学・理科・情報などの工学の基礎も含まれます。

工学部　機械システム工学科	
学科として入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	機械システム工学は従来の機械工学と情報工学の高度な融合により、自動車・鉄道などの交通機械や火力・風力・水力・原子力発電システムなどの社会インフラを支えるエネルギー機械、人工知能・ロボット・医療機器・介護機器などの人の活動を支援する機械、これらの機械を作り出すための材料加工や設計・製造システムなど、わたしたちの生活に役立つ最先端の機械システム技術を創造する学問です。機械システム工学科では、世界で活躍できるこの分野の技術者の育成を目的として教育を行います。 したがって、大学での機械システム工学分野の学修を行うための基礎学力、特に十分な数学、理科、英語の学力を持ち、主体性を持って機械システム工学に関する問題を発見し、解決をめざしていく意欲と思考力・判断力を持つ学生を求めます。自分の考え方を整理して伝える表現力、協働して課題に取り組むコミュニケーション力も身に付けてきてほしいと願います。
入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、英語、情報の基礎学力。特に数学、理科、英語を重視します。 2）機械システム工学に関わる課題に対する関心と学修意欲 3）様々な課題を解決していくための基礎的な思考力・判断力・表現力 4）主体性を持って多様な人々と協働して活動した経験、あるいはそのような活動をしたいという意欲
評価方法	**【学校推薦型選抜（一般）】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）総合問題（数学、理科）　主に1）及び3）を評価します。 ウ）英語資格・検定試験　主に1）及び3）を評価します。 エ）面接（一般枠・女子枠）　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【学校推薦型選抜（専門高校）】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）総合問題（数学、理科）　主に1）及び3）を評価します。 ウ）英語資格・検定試験　主に1）及び3）を評価します。 エ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学、理科、英語）　主に3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学）　主に3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

工学部　電気電子システム工学科	
学科として入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	電気電子システム工学は、目に見えない電子や電磁波を高度にコントロールして、電子デバイスや電気機器の開発・設計、電力や情報の創生・伝送・蓄積・制御などに応用する学問分野です。電気電子システム工学科では、世界で活躍できるこの分野の技術者の育成を目的として教育を行います。 したがって、大学での電気電子システム工学分野の学修を行うための基礎学力、特に十分な数学、理科、英語の学力を持ち、主体性を持って電気電子システム工学に関する問題を発見し、解決をめざしていく意欲と思考力・判断力を持つ学生を求めます。自分の考え方を整理して伝える表現力、協働して課題に取り組むコミュニケーション力も身に付けてきてほしいと願います。
入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、英語、情報の基礎学力。特に数学、理科、英語を重視します。 2）電気電子システム工学に関わる課題に対する関心と学修意欲 3）様々な課題を解決していくための基礎的な思考力・判断力・表現力 4）主体性を持って多様な人々と協働して活動した経験、あるいはそのような活動をしたいという意欲
評価方法	**【学校推薦型選抜（一般）】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）総合問題（数学、理科）　主に1）及び3）を評価します。 ウ）英語資格・検定試験　主に1）及び3）を評価します。 エ）面接（一般枠・女子枠）　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【学校推薦型選抜（専門高校）】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）総合問題（数学、理科）　主に1）及び3）を評価します。 ウ）英語資格・検定試験　主に1）及び3）を評価します。 エ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学、理科、英語）　主に3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学）　主に3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

工学部　物質科学工学科	
学科として入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	物質科学工学科では、金属、有機・無機物質、セラミックス、半導体、高分子、医薬、農薬、生体物質、生体材料、医用材料など多岐にわたる物質の構造と機能を原子・分子レベルで理解することで、新しい物質や材料の設計・製造およびハイブリッド化への応用を可能にし、世界で活躍できるこの分野の技術者の育成を目的として教育を行います。 したがって、大学での物質科学工学分野の学修を行うための基礎学力、特に十分な数学、理科、英語の学力を持ち、主体性を持って物質科学工学に関する問題を発見し、解決をめざしていく意欲と思考力・判断力を持つ学生を求めます。自分の考え方を整理して伝える表現力、協働して課題に取り組むコミュニケーション力も身に付けてきてほしいと願います。
入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、英語、情報の基礎学力。特に数学、理科、英語を重視します。 2）物質科学工学に関わる課題に対する関心と学修意欲 3）様々な課題を解決していくための基礎的な思考力・判断力・表現力 4）主体性を持って多様な人々と協働して活動した経験、あるいはそのような活動をしたいという意欲
評価方法	**【学校推薦型選抜（一般）】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）総合問題（数学、理科）　主に1）及び3）を評価します。 ウ）英語資格・検定試験　主に1）及び3）を評価します。 エ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【学校推薦型選抜（専門高校）】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）総合問題（数学、理科）　主に1）及び3）を評価します。 ウ）英語資格・検定試験　主に1）及び3）を評価します。 エ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。

	イ）個別テスト等（数学、英語）　主に3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学）　主に3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

工学部　情報工学科	
学科として入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	コンピュータとインターネットは流通・金融・製造など社会のさまざまな分野で必要不可欠であり、これらを合理的に扱うためにソフトウェアが必要です。情報工学は、情報の発生・伝達・収集・蓄積・処理を扱い、情報を体系的に管理する総合的な学問です。情報工学科では、世界で活躍できるこの分野の技術者の育成を目的として教育を行います。 したがって、大学での情報工学分野の学修を行うための基礎学力、特に十分な数学、理科、英語の学力を持ち、主体性を持って情報工学に関する問題を発見し、解決をめざしていく意欲と思考力・判断力を持つ学生を求めます。自分の考え方を整理して伝える表現力、協働して課題に取り組むコミュニケーション力も身に付けてきてほしいと願います。
入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、英語、情報の基礎学力。特に数学、理科、英語を重視します。 2）情報工学に関わる課題に対する関心と学修意欲 3）様々な課題を解決していくための基礎的な思考力・判断力・表現力 4）主体性を持って多様な人々と協働して活動した経験、あるいはそのような活動をしたいという意欲
評価方法	**【学校推薦型選抜（一般）】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）総合問題（数学、理科）　主に1）及び3）を評価します。 ウ）英語資格・検定試験　主に1）及び3）を評価します。 エ）面接（一般枠・女子枠）　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【学校推薦型選抜（専門高校）】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）総合問題（数学、理科）　主に1）及び3）を評価します。 ウ）英語資格・検定試験　主に1）及び3）を評価します。 エ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学、理科、英語）　主に3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学）　主に3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

工学部　都市システム工学科	
学科として入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	理想の都市は「安全」で「環境」に優しく「快適」な空間であることが望まれます。都市システム工学科では、この「安全」「環境」「快適」の３要素をシステムとして扱うため、土木工学、環境工学、建築学および都市計画学などを学修します。そして、地域から世界まで幅広い分野で活躍できる技術者の育成を目指した教育を行います。 したがって、大学での都市システム工学分野の学修を行うための基礎学力、特に十分な数学、理科、英語の学力を持ち、主体性を持って都市システム工学に関する問題を発見し、解決をめざしていく意欲と思考力・判断力を持つ学生を求めます。自分の考え方を整理して伝える表現力、協働して課題に取り組むコミュニケーション力も身に付けてきてほしいと願います。

入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、英語、情報の基礎学力。特に数学、理科、英語を重視します。 2）都市システム工学に関わる課題に対する関心と学修意欲 3）様々な課題を解決していくための基礎的な思考力・判断力・表現力 4）主体性を持って多様な人々と協働して活動した経験、あるいはそのような活動をしたいという意欲
評価方法	**【総合型選抜】** ア）英語資格・検定試験　主に1）及び3）を評価します。 イ）プレゼンテーション　主に2）、3）及び4）を評価します。 ウ）口頭試問　主に1）及び3）を評価します。 エ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【学校推薦型選抜（一般）】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）総合問題（数学、理科）　主に1）及び3）を評価します。 ウ）英語資格・検定試験　主に1）及び3）を評価します。 エ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【学校推薦型選抜（専門高校）】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）総合問題（数学、理科）　主に1）及び3）を評価します。 ウ）英語資格・検定試験　主に1）及び3）を評価します。 エ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学、理科、英語）　主に3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学）　主に3）を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

【参考】

都市システム工学科では、２年次に「社会基盤デザインプログラム」及び「建築デザインプログラム」のどちらかを選択することになります。総合型選抜及び学校推薦型選抜の合格者は、以下の表のとおり２年次のプログラム選択において優先して選択できます。

都市システム工学科の学校推薦型選抜・総合型選抜における志望について

	社会基盤デザインプログラムでの勉学を志望する者	**建築デザインプログラムでの勉学を志望する者**
学校推薦型選抜	○	
総合型選抜		○

なお、一般選抜（前期日程・後期日程）、私費外国人留学生選抜は、社会基盤デザインプログラム、建築デザインプログラムのどちらを志望する者でも出願することができます。

農学部

［**学部として入学者に求める能力・資質（アドミッション・ポリシー）**］

農学部では、グローバル社会における農業・食料問題を理解して、国際的な視点から食料・食品の高度化、農業を核とした新産業の創出に主体的かつ意欲的に取り組み、地域の農業と地域コミュニティの活性化を支える実務型農学系人材を育成します。

したがって、農学部において入学者に求める能力・資質は以下のとおりです。

1．**（知識・技能）**農学部における専門分野での学修に必要な基礎学力
2．**（知的関心）**農学及びその周辺分野のみならず、社会の課題全般に対する幅広い知的関心
3．**（思考力・判断力・表現力）**これまでの学習と生活において、農業、環境、食料の課題について他者と共に課題解決を目指した経験があり、そのための基礎的な思考力・判断力・表現力を有していること、あるいは、それらを身に付ける意欲を有していること
4．**（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）**これまでの学習と生活において、農業体験やボランティア活動などに参加し、世代や国籍を超えた多様な人々と協働して主体的に活動した経験があること、あるいはそのような活動をする意欲を有していること

農学部　食生命科学科	
学科として入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	食生命科学科では、生命科学や食品の加工、流通、安全性に関する知識や技能を修得し、食料・食品分野で国際的に活躍できる人材を育成します。 したがって、食品科学と生命機能を学ぶ基礎学力を持ち、農業、環境、食料についての課題を理解し、主体性を持って解決へ導く意欲を持つ学生を求めます。国内外の多様な人々と協働しながらグローバルな視点で課題を探究する場もありますので、自分の考え方を整理して伝える力と英語力を身に付けてきてほしいと願います。
入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、英語、情報の基礎学力 2）専門分野の学修に必要な生物・化学、英語における十分な学力 3）安全な食の実現と生命機能の解明に対する関心と学修意欲 4）農業にかかわる多様な課題を総合的に理解するための論理的思考力と判断力 5）グループで課題と向き合う協働体験や意欲 6）主体性を持って多様な人々と協働して活動した経験、あるいはそのような活動をしたいという意欲
評価方法	**【学校推薦型選抜（一般）】** ア）総合問題（生物、化学）　主に1）及び2）の一部、並びに4）を評価します。 イ）面接　主に3）から6）までを評価します。 **【学校推薦型選抜（専門高校）】** ア）生物又は化学　主に1）及び2）の一部、並びに4）を評価します。 イ）面接　主に3）から6）までを評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（英語）　主に2）の一部を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に6）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（英語）　主に2）の一部を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に6）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に3）から6）までを評価します。

農学部　地域総合農学科　応用植物科学コース	
コースとして入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	地域総合農学科応用植物科学コースでは、農作物の栽培や品種改良、病気や害虫の防除に関する知識や技能を主に修得し、農産物の国際競争力の強化や高品質・高付加価値生産などに対応した、新しい時代の植物生産技術の発展に貢献する人材を育成します。 したがって、生物学を中心とした幅広い基礎学力を持ち、地域の発展や農業の国際化に、主体的に取り組む意欲を持った学生を求めています。世代や国境を超え人々と議論しながらの実践的な学びもありますので、自分の考えを伝える表現力と英語力を身に付けてきてほしいと願います。

入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、英語、情報の基礎学力 2）専門分野の学修に必要な生物又は化学、英語における十分な学力 3）地域の発展に貢献する新しい時代の農業技術に対する関心と学修意欲 4）農業にかかわる多様な課題を総合的に理解するための論理的思考力と判断力 5）グループで課題に向き合う協働体験や意欲 6）主体性を持って多様な人々と協働して活動した経験、あるいはそのような活動をしたいという意欲
評価方法	**【学校推薦型選抜（一般）】** ア）生物　主に1）及び2）の一部、並びに4）を評価します。 イ）面接　主に3）から6）までを評価します。 **【学校推薦型選抜（専門高校）】** ア）生物　主に1）及び2）の一部、並びに4）を評価します。 イ）面接　主に3）から6）までを評価します。 ウ）英語資格・検定試験　主に1）及び2）の一部を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（英語）　主に2）の一部を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に6）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（英語）　主に2）の一部を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に6）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に3）から6）までを評価します。

農学部　地域総合農学科　地域共生コース	
コースとして入学者に求める能力・資質（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ・ﾎﾟﾘｼｰ）	地域総合農学科地域共生コースでは、美しい農村の景観をまもり、地域・農産物のブランド力を高め、災害に強い地域をデザインする技術や政策に関する知識・技能を修得し、豊かな地域の未来を創造できる人材を育成します。 したがって、理系科目、文系科目を問わない幅広い基礎学力・興味を持ち、未来に向けた地域づくりと、世界に羽ばたく農業の実現に意欲を持つグローカル志向の学生を求めます。世代や国境を超えた人々と議論や協働をおこなう学びもありますので、自分の考えを伝える表現力と英語力を身に付けてきてほしいと願います。
入学者選抜において評価する能力・成果	1）国語、地理歴史又は公民、数学、理科、英語、情報の基礎学力 2）専門分野の学修に必要な物理又は化学又は生物、英語における十分な学力 3）地域の発展に貢献する技術や政策に対する幅広い関心と学修意欲 4）農業にかかわる多様な課題を総合的に理解するための論理的思考力と判断力 5）グループで課題に向き合う協働体験や意欲 6）主体性を持って多様な人々と協働して活動した経験、あるいはそのような活動をしたいという意欲
評価方法	**【総合型選抜】** ア）面接　主に3）から6）までを評価します。 イ）集団討論　主に3）から6）までを評価します。 **【学校推薦型選抜（一般）】** 面接　主に3）から6）までを評価します。 **【学校推薦型選抜（専門高校）】** ア）面接　主に3）から6）までを評価します。 イ）英語資格・検定試験　主に1）及び2）の一部を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（英語）　主に2）の一部を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に6）を評価します。 **【一般選抜（後期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（英語）　主に2）の一部を評価します。 ウ）個別テスト等（主体性評価）　主に6）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に3）から6）までを評価します。

地域未来共創学環

［**学環として入学者に求める能力・資質（アドミッション・ポリシー）**］

地域未来共創学環では、ビジネスとデータサイエンスを中心とした分野・文理横断の学びから、地域課題の解決や、新たな価値創出に挑戦する実践的な人材を育成します。
したがって、地域未来共創学環において入学者に求める能力・資質は以下のとおりです。

1．（**知識・技能**）地域未来共創学環における分野・文理横断的な学修に必要な基礎学力を有していること
2．（**知的関心**）社会や地域における様々な課題の背景や解決に対する知的関心を有していること
3．（**思考力・判断力・表現力**）これまでの学習と生活において、多様な人々と共に課題解決をめざした経験があり、そのための基礎的な思考力・判断力・表現力を有していること、あるいは、それらを身に付ける意欲を有していること
4．（**主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度**）これまでの学習と生活において、多様な人々とコミュニケーションを積極的に行い、地域課題の解決を意識して主体的に活動した経験があること、あるいは地域課題の解決に向けて探究する意欲を有していること

地域未来共創学環	
入学者選抜において評価する能力・成果	1）分野・文理横断的な学修に必要な国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語、情報の基礎学力 2）社会や地域における様々な課題の背景や解決に対する関心と学修意欲 3）多様な人々と協働して地域課題を解決していくための基礎的な思考力・判断力・表現力、あるいは、それらを身に付ける意欲 4）多様な人々と協働するために必要なコミュニケーション能力と、地域課題の解決を意識して主体的に活動した経験、あるいは地域課題の解決に向けて探究する意欲
評価方法	**【総合型選抜】** ア）調査書　主に1）を評価します。 イ）集団活動　主に3）及び4）を評価します。 ウ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【一般選抜（前期日程）】** ア）大学入学共通テスト　主に1）を評価します。 イ）個別テスト等（数学又は英語）　主に1）の一部を評価します。 ウ）個別テスト等（面接）　主に2）、3）及び4）を評価します。 **【私費外国人留学生選抜】** ア）日本留学試験　主に1）の一部を評価します。 イ）面接　主に2）、3）及び4）を評価します。

（このページは空白ページです）

Ⅱ．入学定員（募集人員）

（単位：人）

学部	学科・課程等				入学定員	募集人員						
						一般選抜		総合型選抜	学校推薦型選抜			私費外国人留学生選抜
						前期日程	後期日程		一般推薦		専門高校推薦	
									一般枠	女子枠		
人文社会科学部	現代社会学科				130	65	31	-	30	-	-	4
	法律経済学科				120	65	26	-	25	-	-	4
	人間文化学科				110	60	22	-	25	-	-	3
	計				360	190	79	-	80	-	-	11
教育学部	学校教育教員養成課程	教育実践科学コース			240	13	-	8	5	-	-	-
		教科教育コース	言語・社会教育系	国語選修		17	5	-	4	-	-	-
				社会選修		13	5	-	5	-	-	-
				英語選修		5	-	6	5	-	-	若干名
			理数教育系	数学選修		17	5	-	4	-	-	-
				理科選修		15	-	6	3	-	-	-
			音楽教育系	音楽選修		5	3	-	5	-	-	-
			美術教育系	美術選修		5	3	-	4	-	-	-
			保健体育教育系	保健体育選修		8	5	-	5	-	-	-
			技術教育系	技術選修		11	-	3	3	-	若干名	-
			生活科学教育系	家庭選修		8	2	-	4	-	-	-
		特別支援教育コース				15	-	7	3	-	-	-
		小計				132	28	30	50	-	-	-
	養護教諭養成課程				35	17	10	-	8	-	-	若干名
	計				275	149	38	30	58	-	若干名	若干名
理学部	理学科	数学・情報数理コース			205	15	12	-	8	-	-	若干名
		物理学コース				20	7	-	8	-	-	若干名
		化学コース				20	7	-	8	-	-	若干名
		生物科学コース				20	7	-	8	-	-	若干名
		地球環境科学コース				20	7	-	8	-	-	若干名
		総合理学コース				20	10	-	-	-	-	若干名
	計				205	115	50	-	40	-	-	若干名
工学部	機械システム工学科				130	70	40	-	14	6	若干名	若干名
	電気電子システム工学科				125	70	38	-	13	4	若干名	若干名
	物質科学工学科				110	60	35	-	15	-	若干名	若干名
	情報工学科				90	55	20	-	10	5	若干名	若干名
	都市システム工学科				60	30	17	5	8	-	若干名	若干名
	計				515	285	150	5	60	15	若干名	若干名
農学部	食生命科学科				80	46	12	-	20	-	若干名	4
	地域総合農学科	応用植物科学コース			80	24	4	-	10	-	1	
		地域共生コース				19		10	10	-	若干名	
	計				160	89	16	10	40	-	1	4
地域未来共創学環					40	28	14（数） 14（外）	-	12	-	-	-	若干名
合計					1,555	856	333	57	278	15	1	15

（備考）

1．学校推薦型選抜、教育学部、農学部及び地域未来共創学環の総合型選抜並びに人文社会科学部及び農学部の私費外国人留学生選抜において、入学手続者が募集人員（若干名は除く）に満たなかった場合は、一般選抜前期日程の合格者で補充します。

2．工学部の総合型選抜において、入学手続者が募集人員に満たなかった場合は、一般選抜後期日程の合格者で補充します。

3．地域未来共創学環の一般選抜前期日程は個別テストで選択する教科で選抜区分を設け、募集人員（28人）の内訳を数学選択者（14人）、外国語（英語）選択者（14人）とします。

Ⅲ．一般選抜

１．選抜日程及び注意事項

本学は、全学部・学環とも分離・分割方式により次の日程で試験を実施します。ただし、教育学部 学校教育教員養成課程 教育実践科学コース、教科教育コースの一部（言語・社会教育系英語選修、理数教育系理科選修、技術教育系技術選修）及び特別支援教育コース、並びに地域未来共創学環では、一般選抜（後期日程）は実施しません。

	前期日程	後期日程
出願期間	令和９年１月25日（月）から２月３日（水）まで	
個別テスト等実施日	令和９年２月25日（木） ※教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育コースの一部及び地域未来共創学環のみ２月26日（金）にも実施します。	令和９年３月12日（金） ※理学部 理学科では、数学・情報数理コースのみ個別テストを実施します。
合格者発表日	令和９年３月６日（土）	令和９年３月20日（土）

【注意事項】

（１）志願者は、「前期日程」で試験を実施する大学・学部等から一つ、「後期日程」で試験を実施する大学・学部等から一つ、合計二つまで出願することができます。
（２）本学では、同一学部、異なる学部、学科・課程等を問わず、「前期日程」と「後期日程」に併願することができます。
（３）本学では、全ての学部、学科・課程等で２段階選抜は実施しません。
（４）本学では、大学入学共通テストの過年度成績は利用しません。
（５）前期日程及び後期日程の理学部 理学科（数学・情報数理コースを除く）への出願にあたっては、同学部内で第１志望・第２志望のどちらかに総合理学コースを選択する場合は、第１志望とするコースの他に第２志望のコースを選択し出願することができます。（詳細はp.54～55参照）。
（６）後期日程の工学部及び農学部への出願にあたっては、同学部内で第１志望とする学科の他に第２志望の学科を選択し出願することができます。（詳細はp.56参照）。

２．出願資格

次の各号のいずれかに該当する者で、令和９年度大学入学共通テストの教科・科目のうち、本学が指定した教科・科目（p.24～53参照）をすべて受験した者とします。

なお、**本学が指定した教科・科目を一つでも受験しなかった者は無資格者となり、本学に出願することはできません。**

（１）高等学校又は中等教育学校（以下、「高等学校等」という）を卒業した者及び令和９年３月卒業見込みの者
（２）通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和９年３月修了見込みの者
（３）外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び令和９年３月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
（４）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び令和９年３月31日までに修了見込みの者
（５）専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和９年３月31日までに修了見込みの者
（６）文部科学大臣の指定した者
（７）高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者及び令和９年３月31日までに合格見込みの者（同規則附則の規定による廃止前の大学入学資格検定規程により大学入学資格検定に合格した者を含む）
（８）学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、高等学校卒業程度認定審査規則による高等学校卒業程度認定審査に合格したもの（高等学校卒業と同等の法的地位を与えられた者）
（９）学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、個別の入学資格審査により、本学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
（10）本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和９年３月31日までに18歳に達するもの

※上記出願資格（９）、（10）で出願する者は、本学における個別入学資格審査が必要となりますので、p.98を参照してください。

３．入学者の選抜方法等

（１）入学者選抜の実施教科・科目等

１）大学入学共通テストの各教科・科目の注意事項

●全学部・学環共通の注意事項

＜教科・科目名の表記＞

大学入学共通テストの出題教科・科目名は、次のように示しています。

○国語→国

『国語』→『国』

○地理歴史→地歴

『地理総合、地理探究』→『地総、地探』

『歴史総合、日本史探究』→『歴総、日探』

『歴史総合、世界史探究』→『歴総、世探』

『地理総合／歴史総合／公共』→『地総／歴総／公共』

○公民→公民

『公共、倫理』→『公共、倫理』

『公共、政治・経済』→『公共、政治・経済』

○数学→数

『数学Ⅰ』→『数Ⅰ』

『数学Ⅰ、数学Ａ』→『数Ⅰ、数Ａ』

『数学Ⅱ、数学Ｂ、数学Ｃ』→『数Ⅱ、数Ｂ、数Ｃ』

○理科→理

『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』→『物基／化基／生基／地基』

『物理』→『物』

『化学』→『化』

『生物』→『生』

『地学』→『地』

○外国語→外

『英語』→『英』

『ドイツ語』→『独』

『フランス語』→『仏』

『中国語』→『中』

『韓国語』→『韓』

○情報→情

『情報Ⅰ』→『情Ⅰ』

＜教科・科目毎の注意事項＞

地理歴史、公民

1）大学入学共通テストの「地理歴史」及び「公民」において、2科目を選択する場合は、下表の「○」で示す組合せから選択してください。「×」**で示す同一名称を含む科目の組合せは選択できません。**

		地総、地探	歴総、日探	歴総、世探	地総／歴総／公共			公共、倫理	公共、政治・経済
					地総及び歴総	地総及び公共	歴総及び公共		
地総、地探			○	○	×	×	○	○	○
歴総、日探		○		○	×	○	×	○	○
歴総、世探		○	○		×	○	×	○	○
地総／歴総／公共	地総 及び歴総	×	×	×				○	○
	地総 及び公共	×	○	○				×	×
	歴総 及び公共	○	×	×				×	×
公共、倫理		○	○	○	○	×	×		×
公共、政治・経済		○	○	○	○	×	×	×	

2）「地理歴史、公民」において２科目を受験する場合、試験時間130分（うち解答時間120分）の前半に受験した科目を“第１解答科目”、後半に受験した科目を“第２解答科目”とします。

3）「地理歴史、公民」で１科目のみに配点する学部、学科・課程等において、２科目を受験した場合は、“第１解答科目”として受験した科目の成績を利用します。（**“第２解答科目”の成績は利用できません。**）

数学

「数学」において、学部、学科・課程等が指定する科目数を超えて受験した場合には、高得点科目の成績を利用します。

理科

1）「理科」において、「同一名称を含む科目同士」とは、以下の組み合わせをいいます。

「物理基礎」と「物理」、「化学基礎」と「化学」、
「生物基礎」と「生物」、「地学基礎」と「地学」

2）『物基／化基／生基／地基』を選択した場合は選択した２つの科目の合計得点を利用します。

3）「理科」において２科目を受験する場合、試験時間130分（うち解答時間120分）の前半に受験した科目を“第１解答科目”、後半に受験した科目を“第２解答科目”とします。

4）「理科」において、１科目のみに配点する学部、学科・課程等において、２科目を受験した場合は、“第１解答科目”として受験した科目の成績を利用します。（**“第２解答科目”の成績は利用できません。**）

5）「理科」において、２科目を受験した際、同一名称を含む科目同士を選択した場合は、“第１解答科目”として受験した科目の成績を利用します。（**“第２解答科目”の成績は利用できません。**）

外国語（英語）

1）「外国語」の『英語』には、その一領域として実施される「リスニング」を含みます。ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの100点のみを学部、学科・課程等が指定する配点に換算します。

2）「外国語」の『英語』の配点は、リーディング（100点）、リスニング（100点）の合計200点を学部、学科・課程等が指定する配点へ換算します。ただし、人文社会科学部人間文化学科の後期日程並びに理学部理学科全コースの前期日程及び後期日程においては、リーディング（100点）を200点に、リスニング（100点）を50点にした後（合計250点）、それを学部、学科・課程等が指定する配点に換算します。

情報Ⅰ

全学部・学環の大学入学共通テストの利用教科・科目において、全員に『情報Ⅰ』を課します。配点は全学部・学環で100点とします。ただし、人文社会科学部人間文化学科の前期日程及び後期日程においては、50点とします。

●人文社会科学部の注意事項

数学及び理科

1）現代社会学科及び法律経済学科の前期日程において、**「理科」で同一名称を含む科目同士を選択した場合は、“第１解答科目”の成績のみが有効となるため、「数学」を２科目選択する必要があります。**

2）現代社会学科及び法律経済学科の前期日程において、「数学」及び「理科」で合計４科目を選択した際の成績は以下のとおり利用します。

受験者が選択した科目数		合否判定に利用する成績
数学	理科	
2	2	・数学①と数学②の高得点科目の成績 ・理科の“第１解答科目”の成績 ・数学の低得点科目と理科の“第２解答科目”のうち、高得点の成績（※） ※理科において同一名称を含む科目同士を選択した場合は、数学の成績を利用します。

外国語

1）全学科の前期日程及び後期日程において、「外国語」の『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』のいずれかを受験した場合の配点は、筆記の200点のみを学科が指定する配点に換算します。

2）人文社会科学部人間文化学科の後期日程において、「外国語」の『英語』は、リーディング（100点）を200点に、リスニング（100点）を50点にした後（合計250点）、指定する配点（300点）に換算します。

［**換算式**］「250点」を「300点」に換算：250点×1.2＝300点
「リーディング」：100点×2×1.2＝240点（2.4倍）
「リスニング」　：100点×0.5×1.2＝60点（0.6倍）

情報Ⅰ

人文社会科学部人間文化学科の前期日程及び後期日程において、『情報Ⅰ』の配点を50点とします。

●教育学部の注意事項

理科

1）理科選修の前期日程において、**「理科」で同一名称を含む科目同士を選択することはできません。「理科」で同一名称を含む科目同士を選択した場合は“第１解答科目”として受験した科目の成績しか利用できないため、受験することができません。**

外国語

全課程・コース・選修の前期日程及び後期日程において、「外国語」の『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』のいずれかを受験した場合の配点は、筆記の200点のみを課程・コース等が指定する配点に換算します。ただし、英語選修の前期日程においては、**「外国語」の『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』は選択できません。**

●理学部の注意事項

理科

全コースの前期日程及び後期日程において、**「理科」で同一名称を含む科目同士を選択することはできません。「理科」で同一名称を含む科目同士を選択した場合は“第１解答科目”として受験した科目の成績しか利用できないため、受験することができません。**

外国語

1）全コースの前期日程及び後期日程において、「外国語」の『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』のいずれかを受験した場合の配点は、筆記の200点のみを学科・コース等が指定する配点に換算します。

2）全コースの前期日程及び後期日程において、「外国語」の『英語』は、リーディング（100点）を200点に、リスニング（100点）を50点にした後（合計250点）、指定する配点（前期：250点、後期：200点）に換算します。

［**換算式**］「250点」を「250点」に換算：250点×1＝250点
「リーディング」：100点×2×1＝200点（2倍）
「リスニング」　：100点×0.5×1＝50点（0.5倍）
［**換算式**］「250点」を「200点」に換算：250点×0.8＝200点
「リーディング」：100点×2×0.8＝160点（1.6倍）
「リスニング」　：100点×0.5×0.8＝40点（0.4倍）

●工学部の注意事項

理科

1）全学科の前期日程及び後期日程において、**「理科」で『物基／化基／生基／地基』を選択することはできません。**

2）機械システム工学科、電気電子システム工学科、情報工学科、都市システム工学科の前期日程及び後期日程において、**「理科」の２科目のうち１科目は『物理』を選択していないと出願することはできません。**

3）物質科学工学科の前期日程及び後期日程において、**「理科」で『地学』を選択することはできません。**

●農学部の注意事項

地域総合農学科地域共生コースの前期日程は、**文系パターン**と**理系パターン**の２つのパターンに分かれており、出願時にいずれかのパターンを選択します。パターンごとに**利用教科・科目及び配点が異なり、それぞれ指定した科目を受験していないと出願することはできません**。

理科

全学科の前期日程及び後期日程において、**「理科」で『物基／化基／生基／地基』を選択することはできません。**ただし、地域総合農学科地域共生コース（文系パターン）の前期日程においてのみ、「理科」で『物基／化基／生基／地基』を選択することができます。

●地域未来共創学環の注意事項

地理歴史、公民及び理科

前期日程において、「地理歴史、公民」と「理科」をそれぞれ１科目以上、合計３科目の成績を利用します。

1）「理科」で同一名称を含む科目同士を選択した場合は、“第１解答科目”の成績のみが有効となるため、「地理歴史、公民」を２科目選択する必要があります。

2）「地理歴史、公民」及び「理科」で合計４科目を選択した際の成績は以下のとおり利用します。

受験者が選択した科目数		**合否判定に利用する成績**
地理歴史、公民	**理科**	
2	2	・「地理歴史、公民」の“第１解答科目”の成績 ・「理科」の“第１解答科目”の成績 ・「地理歴史、公民」の“第２解答科目”と理科の”第２解答科目”のうち、高得点の成績（※） ※理科において同一名称を含む科目同士を選択した場合は、「地理歴史、公民」の成績を利用します。

外国語

前期日程において、「外国語」の『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』のいずれかを受験した場合の配点は、筆記の200点をそのまま利用します。

2）個別テスト等の各教科・科目等及び出題意図等

○前期日程

<table>
<tr><th>学部</th><th colspan="4">学科・課程等</th><th>個別テスト等</th><th>出題意図</th></tr>
<tr><td>人文社会科学部</td><td colspan="4">現代社会学科
法律経済学科
人間文化学科</td><td>外国語
（英語）
※１</td><td>英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰの範囲内で出題します。ある程度まとまった英語の文章の読解力と英語による基礎的な表現力などを身に付けているかどうかをみます。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">教育学部</td><td rowspan="7">学校教育教員養成課程</td><td colspan="3">教育実践科学コース</td><td>集団討論</td><td>高等学校等卒業程度に求められる教育に関するテーマに対して１グループ10人程度（受験者数により変更する場合があります）で30分程度（テーマについて個人が考える３分を含む）の集団討論を行った後、討論で得た知見を400字以内で記述してもらいます。
記述の時間は30分とします。本コースで学ぶために必要な能力（思考・判断・表現力、コミュニケーション能力）並びに教職への意欲・適性を総合的に評価します。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">教科教育コース</td><td rowspan="4">言語・社会教育系</td><td rowspan="2">国語選修</td><td>小論文</td><td>教育学部で学ぶのに必要な日本語の基礎的能力（読解力、表記能力、表現力など）及び論理的思考力をみることを主眼とします。併せて教育に関する興味、関心、姿勢などについて論述させます。字数は800字程度です。</td></tr>
<tr><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、教育・国語教育に対する関心、学習意欲、表現力などをみることを主眼とします。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">社会選修</td><td>小論文</td><td>社会科（地理歴史科・公民科を含む）に関連する資料を提示し、課題を与えて論述させます。社会選修で学ぶのに必要な能力（教科についての関心とその内容の探究に必要な思考力・判断力・表現力等）をみることを主眼とします。字数は800字程度です。</td></tr>
<tr><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、教育・社会科教育に対する関心、学習意欲などをみることを主眼とします。なお、履修した地理歴史科・公民科の学習内容についての質疑応答を含みます。</td></tr>
<tr><td>英語選修</td><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、学習意欲、表現力、国際理解に関する関心等をみることを主眼とします。なお、質疑応答は日本語で行います。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">理数教育系</td><td rowspan="2">数学選修</td><td>数学
※２</td><td>数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ａ（図形の性質、場合の数と確率）、数学Ｂ（数列）、数学C（ベクトル）を出題範囲とし、高等学校数学についての基礎的な知識と問題解決力、論理的思考力、表現力、記述力などを評価する問題を出題します。</td></tr>
<tr><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、表現力、数学教育に対する学習意欲などをみることを主眼とします。</td></tr>
<tr><td>理科選修</td><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、表現力、理科及び理科教育に対する知識・関心、学習意欲などをみることを主眼とします。</td></tr>
</table>

※１ 前期日程における人文社会科学部、工学部、農学部及び地域未来共創学環『外国語（英語）選択』の個別テストで課す「外国語（英語）」は、共通の試験問題です。

※２ 前期日程における教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース理数教育系数学選修と地域未来共創学環『数学選択』の個別テストで課す「数学」は、共通の試験問題です。

<table>
<tr><th>学部</th><th colspan="4">学科・課程等</th><th>個別テスト等</th><th>出題意図</th></tr>
<tr><td rowspan="11">教育学部</td><td rowspan="10">学校教育教員養成課程</td><td rowspan="9">教科教育コース</td><td rowspan="2">音楽教育系</td><td rowspan="2">音楽選修</td><td>実技検査（音楽）</td><td>共通課題を課すとともに、各人の希望する選択課題を課します。課題については、p.30に示します。音楽の基礎的能力と表現力をみることを主眼とします。</td></tr>
<tr><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、意欲、適性、将来性、コミュニケーション能力等をみることを主眼とします。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">美術教育系</td><td rowspan="2">美術選修</td><td>実技資料検査（美術）</td><td>美術の表現力に関わる基礎的資質をみることを主眼とします。課題については、p.30～31に示します。</td></tr>
<tr><td>面接</td><td>個人面接（15分程度）で行います。志願理由、意欲、適性、将来性、コミュニケーション能力、高等学校等での学習状況をみることを主眼とします。
また、実技資料検査作品をもとにした質問を含みます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">保健体育教育系</td><td rowspan="3">保健体育選修</td><td>実技検査（体育）</td><td>「基礎的身体能力テスト」を実施し、基礎的体力・スキルを総合的に評価します。課題については、p.31に示します。</td></tr>
<tr><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、保健体育教育に関わる知識、学習意欲等をみることを主眼とします。</td></tr>
<tr><td>運動特技に関する調書</td><td>体育実技の能力あるいは活動の実績をみることを主眼とします。提出方法については、p.31に示します。</td></tr>
<tr><td>技術教育系</td><td>技術選修</td><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、技術教育に対する関心、学習意欲、表現力などについて、自分の考えや取り組んできたことなどを的確に伝えることができるかという点を重視して評価します。</td></tr>
<tr><td>生活科学教育系</td><td>家庭選修</td><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、家庭科教育に対する関心、学習意欲などをみるとともに、衣食住、家族・子ども、消費生活・環境など家庭科に関する知識について、その内容をどの程度理解しているか、また自分の考えを的確に表現できるかという点を重視して評価します。
なお、出願時に「調査・研究活動に関する報告書」の提出を求め、面接の参考資料とします。提出方法については、p.31に示します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">特別支援教育コース</td><td>集団活動</td><td>1グループ50分程度で課題について集団で活動を行います。高等学校等卒業程度に求められる国内外の様々な事象について課題を課し、本コースで学ぶために必要な能力（分析力、表現力及びコミュニケーション能力）並びに特別支援学校教諭としての適性をみることを主眼とします。集団活動は6～8人程度で行います。ただし、受験者数により変更する場合があります。</td></tr>
<tr><td colspan="4">養護教諭養成課程</td><td>プレゼンテーション</td><td>課題に対して15分で発表メモを作成し、順番に発表してもらいます。発表時間は3分程度とし、正式な時間は試験当日に指示します。全員の発表を聞いた後に、発表課題に関連した課題を提示し400字程度（30分）で記述させます。高等学校等卒業程度に求められる課題を課し、養護教諭に対する強い志向と本課程で学ぶために必要な能力（自己を表現する力、豊かな感性、聞く力、共感的理解力など）を総合的に評価します。</td></tr>
</table>

＜教育学部実技検査等の課題＞

お問い合わせは、裏表紙の「その他の問い合わせ先（教育学部実技検査等について）」をご確認ください。

◇学校教育教員養成課程 教科教育コース 音楽教育系 音楽選修　〔前期日程〕

音楽の基礎的能力と表現力をみることを主眼とします。
課題は以下のとおりとします。

1．共通課題（全員受験すること。楽譜を見て演奏してもよい）	
1）ソルフェージュ	ア）聴音　８小節の単旋律を書き取らせる。 イ）コールユーブンゲン第１巻原書番号31番から71番中、当日２曲を指定する。ただし、数字譜及び音階練習は除く。唱法は、移動ド唱法又は固定ド唱法とする。
2）ピアノ練習曲	ア）ピアノ練習曲１（「２．選択課題」からＢ、Ｃ、Ｄ、Ｅを選んだ者） 「ツェルニー30番練習曲 作品849」より18番変ホ長調、26番ト短調の２曲中、任意の１曲を演奏する。 イ）ピアノ練習曲２（「２．選択課題」からＡを選んだ者） 「クラーマー=ビューロー60練習曲」より10番ハ長調、24番ト長調の２曲中、任意の１曲を演奏する。
2．選択課題（次のＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅのいずれか一つを選択し、暗譜で演奏する）	
Ａ．ピアノ	ハイドン　作曲　ソナタ　ヘ長調　Hob.XVI-23　第１楽章 モーツァルト　作曲　ソナタ　イ短調　K.310　第１楽章 ベートーヴェン　作曲　ソナタ　ト長調　Op.14-2　第１楽章 ベートーヴェン　作曲　ソナタ　変ロ長調　Op.22　第１楽章 ベートーヴェン　作曲　ソナタ　ニ長調　Op.28　第１楽章 以上５曲中、任意の１曲を演奏する。
Ｂ．声楽	Ａ．スカルラッティ　作曲　Son tutta duolo　ト短調 山田　耕筰　作曲　この道　ホ長調 信時　潔　作曲　北秋の　ニ長調 以上３曲中、任意の１曲を歌うこと。ただし、調子は指定のものとし、歌詞は原語とする。伴奏は本学で用意する。
Ｃ．管楽器	楽器はフルート、オーボエ、クラリネット、サキソフォーン、ファゴット、トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバの中より、一つを選択すること。 ５分程度の任意の楽曲を１曲演奏する。伴奏はつけない。 ※楽器は当日各自持参すること。楽譜（パート譜が望ましい）は、氏名及び楽器名を１頁目の余白に明記し、A3横置き判１部（コピー可）を出願書類と併せて提出すること。
Ｄ．弦楽器	楽器はヴァイオリン又はチェロのいずれかを選択すること。 ５分程度の任意の楽曲を１曲演奏する。伴奏はつけない。 ※楽器は当日各自持参すること。楽譜（パート譜が望ましい）は、氏名及び楽器名を１頁目の余白に明記し、A3横置き判１部（コピー可）を出願書類と併せて提出すること。
Ｅ．打楽器	楽器はマリンバとする。 ５分程度の任意の楽曲を１曲演奏する。伴奏はつけない。 ※マリンバ（Ｆ～Ｆの５オクターヴ）は本学で用意するが、マレットは当日各自持参すること。楽譜は、氏名を１頁目の余白に明記し、A3横置き判１部（コピー可）を出願書類と併せて提出すること。

（注意）１．共通課題及び選択課題は、曲の一部の省略を求めることがあります。
なお、繰り返しは省略します。
２．入学後、選択課題と同一の研究分野を引き続き履修できるとは限りません。

◇学校教育教員養成課程 教科教育コース 美術教育系 美術選修　〔前期日程〕

実技資料３点（デッサン作品２点、美術作品１点）を出願時に提出してください。

デッサン作品は、モチーフ等の描画対象は問いません。また、作品サイズや紙・描画材等は指定しませんが、梱包して送付、移動が可能なものに限ります。

美術作品は絵画、彫刻、工芸、デザインのいずれかの領域に属する成果物とします。また、作品の大きさ

や重さ及び素材の規定はありません。ただし、梱包して送付、移動が可能なものとします。提出作品に直接ガムテープ等を貼らないようご注意ください。

梱包後、３辺合計260cm又は重さ25kgを超える場合は、必ずA4サイズの写真で提出してください。

平面作品の場合は、全体と部分（ディテール）の２枚、立体作品の場合は、全体３方向（正面と他の２方向）と部分（ディテール）の４枚を提出してください。

送付、移動の際に破損の恐れのある作品の場合、また、安全管理及び保健衛生上支障のある作品の場合は、大きさを問わず写真で提出してください。その他、送付、移動が困難な作品であると判断する場合は、写真で提出して構いません。

なお、写真の提出により不利になることはありません。

◇学校教育教員養成課程 教科教育コース 保健体育教育系 保健体育選修　〔前期日程〕

＜運動特技に関する調書＞

「運動特技に関する調書」を出願時に提出してください。なお、「運動特技に関する調書」は、志願者の運動特技について出身学校の担当者（保健体育主任又は担当顧問教員等の指導的な立場にある者）が責任をもって記入してください。ただし、やむをえず出身学校の担当者に調書を記入してもらえない場合は、志願者が調書に記入してもかまいません。その場合、志願者本人が出身学校の担当者に調書を記入してもらえない理由を明記した書類（任意様式）を作成の上、添付してください。

また、競技経験等のうち競技成績を裏付ける客観的な資料を添付してください。ここでの運動特技は志願者本人のプレーヤーとしての競技実績（＊）を指し、マネージャーやアシスタントコーチといったサポートスタッフ等としての貢献は運動特技に含みません。

（＊）団体競技などチームで行う活動の場合は、チームの競技実績に加え、チーム内における志願者本人の役割・実績等を具体的に記入してください。

＜基礎的身体能力テスト＞

以下の領域をすべて受験してください。

領域	課題
体つくり運動	**〈立幅跳〉**両足を揃えた状態から水平に跳躍した距離を測定する。 **〈往復走〉**20m区間を３分間で往復した回数を測定する。
器械運動	開脚前転と伸膝後転の２種目を実施する。
ボール運動	卓球ボールを、口径約6.5cm、長さ約38.5cmの筒（バドミントンのシャトルケース）でキャッチする。受験者は筒の中央を持ち、バレーボールのネットを越えて飛んできたボールを、右手で４回、左手で４回キャッチする。
表現運動	約60秒のリズムダンスを行う。受験者は当日に課題を与えられ、10分の練習の後に試験を実施する。

（注意）１．運動に適した服装を持参してください。なお、学校名や氏名がプリントされている服等は着用しないでください。着用している場合には、脱いでもらうことがあります。

２．必ず屋内用の運動靴を持参してください。

◇学校教育教員養成課程 教科教育コース 生活科学教育系 家庭選修　〔前期日程〕

「調査・研究活動に関する報告書」を出願時に提出してください。

「調査・研究活動に関する報告書」とは、志願者による家庭科の内容に関わる調査や研究等の活動をまとめたものです。表紙を含めて**A4サイズ３ページ以内**でまとめてください。図表、写真などを用いてわかりやすく作成し、内容に応じたタイトルを付けてください。文章が中心となる場合には１ページ1,000字程度を基準としてください。

なお、表紙には、タイトル、氏名を記載してください。

※上記「調査・研究活動」とは、志願者の高等学校内外（授業等を含む）での諸活動を指します。家庭科に関連する調査・研究活動であれば、志願者個人で自主的に取り組んだ活動のほか、授業や夏休みの課題などで取り組んだ活動でも構いません。ただし、グループや組織による活動の場合は、志願者個人が果たした役割・成果等を具体的に記入してください。

<table>
<tr><th>学部</th><th colspan="2">学科・課程等</th><th>個別テスト等</th><th>出題意図</th></tr>
<tr><td rowspan="6">理学部</td><td rowspan="6">理学科</td><td>数学・情報数理コース</td><td rowspan="2">数学
※3</td><td rowspan="2">数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）を出題範囲とし、理学部の専門教育の修得に必要な基礎学力、論理的思考力などを評価する問題を出題します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">物理学コース</td></tr>
<tr><td>理科
（物理）</td><td>p.33の《理学部及び工学部の前期日程で課す個別テスト「理科」の出題意図》に示します。</td></tr>
<tr><td>化学コース</td><td>理科
（化学）</td><td>p.33の《理学部及び工学部の前期日程で課す個別テスト「理科」の出題意図》に示します。</td></tr>
<tr><td>生物科学コース</td><td>理科
物理
化学
生物
から1科目選択</td><td>物理、化学、生物のうち、出願時に届け出た1科目について解答させます。
なお、各科目の出題意図については、p.33の《理学部及び工学部の前期日程で課す個別テスト「理科」の出題意図》に示します。</td></tr>
<tr><td>地球環境科学コース
総合理学コース</td><td>理科
物理
化学
生物
地学
から1科目選択</td><td>物理、化学、生物、地学のうち、出願時に届け出た1科目について解答させます。
なお、各科目の出題意図については、p.33の《理学部及び工学部の前期日程で課す個別テスト「理科」の出題意図》に示します。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">工学部</td><td colspan="2" rowspan="3">機械システム工学科
電気電子システム工学科
情報工学科
都市システム工学科</td><td>数学
※4</td><td>数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）を出題範囲とし、工学部における専門教育の修得に必要な計算力及び論理的思考力を評価する問題を出題します。</td></tr>
<tr><td>理科
（物理）</td><td>p.33の《理学部及び工学部の前期日程で課す個別テスト「理科」の出題意図》に示します。</td></tr>
<tr><td>外国語
（英語）
※1</td><td>英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰの範囲内で出題します。ある程度まとまった英語の文章の読解力と英語による基礎的な表現力などを身に付けているかどうかをみます。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">物質科学工学科</td><td>数学
※4</td><td>数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）を出題範囲とし、工学部における専門教育の修得に必要な計算力及び論理的思考力を評価する問題を出題します。</td></tr>
<tr><td>外国語
（英語）
※1</td><td>英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰの範囲内で出題します。ある程度まとまった英語の文章の読解力と英語による基礎的な表現力などを身に付けているかどうかをみます。</td></tr>
</table>

※1　前期日程における人文社会科学部、工学部、農学部及び地域未来共創学環『外国語（英語）選択』の個別テストで課す「外国語（英語）」は、共通の試験問題です。
※3　理学部（前期日程）の個別テストで課す「数学」は、理学部内で共通の試験問題です。
※4　工学部（前期日程）の個別テストで課す「数学」は、工学部内で共通の試験問題です。

<table>
<tr><th>学部</th><th colspan="2">学科・課程等</th><th>個別テスト等</th><th>出題意図</th></tr>
<tr><td rowspan="3">農学部</td><td colspan="2">食生命科学科</td><td rowspan="3">外国語（英語）
※1</td><td rowspan="3">英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰの範囲内で出題します。ある程度まとまった英語の文章の読解力と英語による基礎的な表現力などを身に付けているかどうかをみます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">地域総合農学科</td><td>応用植物科学コース</td></tr>
<tr><td>地域共生コース</td></tr>
<tr><td colspan="3">地域未来共創学環</td><td>数学
※2
外国語（英語）
※1
から1教科選択</td><td>数学、外国語（英語）のうち、出願時に届け出た1教科について解答させます。

・数学
数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列）、数学C（ベクトル）を出題範囲とし、高等学校数学についての基礎的な知識と問題解決力、論理的思考力、表現力、記述力などを評価する問題を出題します。

・外国語（英語）
英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰの範囲内で出題します。ある程度まとまった英語の文章の読解力と英語による基礎的な表現力などを身に付けているかどうかをみます。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、本学環で学ぶことへの学習意欲、社会や地域の課題への関心などをみることを主眼とします。</td></tr>
</table>

※1 前期日程における人文社会科学部、工学部、農学部及び地域未来共創学環『外国語（英語）選択』の個別テストで課す「外国語（英語）」は、共通の試験問題です。

※2 前期日程における教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース理数教育系数学選修と地域未来共創学環『数学選択』の個別テストで課す「数学」は、共通の試験問題です。

《理学部及び工学部の前期日程で課す個別テスト「理科」の出題意図》

「理科」は、それぞれの科目を課す学部・学科等間で共通の試験問題です。学部の専門教育の修得に必要な基礎学力、論理的思考力などを評価する問題を出題します。出題範囲は以下のとおりです。

科目	出題範囲
物理	物理基礎、物理の全内容
化学	化学基礎、化学の全内容
生物	生物基礎、生物の全内容
地学	地学基礎、地学の全内容

○後期日程

<table>
<tr><th>学部</th><th colspan="5">学科・課程等</th><th>個別テスト等</th><th>出題意図</th></tr>
<tr><td rowspan="2">人文社会科学部</td><td colspan="5">現代社会学科
法律経済学科</td><td>外国語（英語）
※５</td><td>英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰの範囲内で出題します。ある程度まとまった英語の文章の読解力と英語による基礎的な表現力などを身に付けているかどうかをみます。</td></tr>
<tr><td colspan="5">人間文化学科</td><td>小論文</td><td>人間文化学科で学ぶために必要な日本語の基礎的能力（読解力、表記能力、表現力など）及び論理的思考力をみることを主眼とします。ひろく人文科学に関連するまとまった内容をもつ文章等を示し、それについてのいくつかの設問に解答させます。解答は合計600～800字程度です。</td></tr>
<tr><td rowspan="11">教育学部</td><td rowspan="10">学校教育教員養成課程</td><td rowspan="10">教科教育コース</td><td rowspan="2">言語・社会教育系</td><td>国語選修</td><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、教育・国語教育に対する関心、学習意欲、表現力などをみることを主眼とします。</td></tr>
<tr><td>社会選修</td><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、教育・社会科教育に対する関心、学習意欲などをみることを主眼とします。なお、履修した地理歴史科・公民科の学習内容についての質疑応答を含みます。</td></tr>
<tr><td>理数教育系</td><td>数学選修</td><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、表現力、数学教育に対する学習意欲などをみることを主眼とします。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">音楽教育系</td><td rowspan="2">音楽選修</td><td>実技検査（音楽）</td><td>共通課題を課すとともに、各人の希望する選択課題を課します。課題については、p.35に示します。音楽の基礎的能力と表現力をみることを主眼とします。</td></tr>
<tr><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、意欲、適性、将来性、コミュニケーション能力等をみることを主眼とします。</td></tr>
<tr><td>美術教育系</td><td>美術選修</td><td>面接</td><td>個人面接（15分程度）で行います。志願理由、意欲、適性、将来性、コミュニケーション能力、高等学校等での学習状況をみることを主眼とします。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育教育系</td><td rowspan="2">保健体育選修</td><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、学習意欲、保健体育教育に関わる知識や運動技能を問うとともに、これまで取り組んできた競技経験等について、的確に伝えることができるかという点を重視して評価します。</td></tr>
<tr><td>運動特技に関する調書</td><td>体育実技の能力あるいは活動の実績をみることを主眼とします。提出方法については、p.35～36に示します。</td></tr>
<tr><td>生活科学教育系</td><td>家庭選修</td><td>面接</td><td>個人面接（10分程度）で行います。志望動機、家庭科教育に対する関心、学習意欲などをみるとともに、衣食住、家族・子ども、消費生活・環境など家庭科に関する知識について、その内容をどの程度理解しているか、また自分の考えを的確に表現できるかという点を重視して評価します。</td></tr>
<tr><td colspan="5">養護教諭養成課程</td><td>面接</td><td>集団面接（１グループ50分程度）で課題についての討論と質疑を行います。高等学校等卒業程度に求められる国内外の自然的、人間的及び社会的諸事象に関する課題を課し、本課程で学ぶのに必要な能力（分析力、判断力、論理構成力、表現力、コミュニケーション能力）及び養護教諭としての適性をみることを主眼とします。集団面接は４～８人程度で行います。ただし、受験者数により変更する場合があります。</td></tr>
</table>

※５　人文社会科学部及び農学部（後期日程）の個別テストで課す「外国語（英語）」は、２学部共通の試験問題です。

＜教育学部実技検査等の課題＞

お問い合わせは、裏表紙の「その他の問い合わせ先（教育学部実技検査等について）」をご確認ください。

◇学校教育教員養成課程 教科教育コース 音楽教育系 音楽選修 〔後期日程〕

音楽の基礎的能力と表現力をみることを主眼とします。
課題は以下のとおりとします。

1．共通課題（全員受験すること。楽譜を見て演奏してもよい）	
1）ソルフェージュ	ア）聴音　８小節の単旋律を書き取らせる。 イ）コールユーブンゲン第１巻原書番号31番から71番中、当日２曲を指定する。ただし、数字譜及び音階練習は除く。唱法は、移動ド唱法又は固定ド唱法とする。
2）ピアノ練習曲	ア）ピアノ練習曲１（「２．選択課題」からＢ、Ｃ、Ｄ、Ｅを選んだ者） 「ツェルニー30番練習曲 作品849」より18番変ホ長調、26番ト短調の２曲中、任意の１曲を演奏する。 イ）ピアノ練習曲２（「２．選択課題」からＡを選んだ者） 「クラーマー=ビューロー60練習曲」より10番ハ長調、24番ト長調の２曲中、任意の１曲を演奏する。
2．選択課題（次のＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅのいずれか一つを選択し、暗譜で演奏する）	
Ａ．ピアノ	ハイドン　作曲　ソナタ　ヘ長調　Hob.XVI-23　第１楽章 モーツァルト　作曲　ソナタ　イ短調　K.310　第１楽章 ベートーヴェン　作曲　ソナタ　ト長調　Op.14-2　第１楽章 ベートーヴェン　作曲　ソナタ　変ロ長調　Op.22　第１楽章 ベートーヴェン　作曲　ソナタ　二長調　Op.28　第１楽章 以上５曲中、任意の１曲を演奏する。
Ｂ．声楽	Ａ．スカルラッティ　作曲　Son tutta duolo　ト短調 山田　耕筰　作曲　この道　ホ長調 信時　潔　作曲　北秋の　二長調 以上３曲中、任意の１曲を歌うこと。ただし、調子は指定のものとし、歌詞は原語とする。伴奏は本学で用意する。
Ｃ．管楽器	楽器はフルート、オーボエ、クラリネット、サキソフォーン、ファゴット、トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバの中より、一つを選択すること。 ５分程度の任意の楽曲を１曲演奏する。伴奏はつけない。 ※楽器は当日各自持参すること。楽譜（パート譜が望ましい）は、氏名及び楽器名を１頁目の余白に明記し、A3横置き判１部（コピー可）を出願書類と併せて提出すること。
Ｄ．弦楽器	楽器はヴァイオリン又はチェロのいずれかを選択すること。 ５分程度の任意の楽曲を１曲演奏する。伴奏はつけない。 ※楽器は当日各自持参すること。楽譜（パート譜が望ましい）は、氏名及び楽器名を１頁目の余白に明記し、A3横置き判１部（コピー可）を出願書類と併せて提出すること。
Ｅ．打楽器	楽器はマリンバとする。 ５分程度の任意の楽曲を１曲演奏する。伴奏はつけない。 ※マリンバ（Ｆ～Ｆの５オクターヴ）は本学で用意するが、マレットは当日各自持参すること。楽譜は、氏名を１頁目の余白に明記し、A3横置き判１部（コピー可）を出願書類と併せて提出すること。

（注意）１．共通課題及び選択課題は、曲の一部の省略を求めることがあります。
なお、繰り返しは省略します。
２．入学後、選択課題と同一の研究分野を引き続き履修できるとは限りません。

◇学校教育教員養成課程 教科教育コース 保健体育教育系 保健体育選修 〔後期日程〕

＜運動特技に関する調書＞

「運動特技に関する調書」を出願時に提出してください。なお、「運動特技に関する調書」は、志願者の運動特技について出身学校の担当者（保健体育主任又は担当顧問教員等の指導的な立場にある者）が責任をもって記入してください。ただし、やむをえず出身学校の担当者に調書を記入してもらえない場合は、志願者が調書に記入してもかまいません。その場合、志願者本人が出身学校の担当者に調書を記入しても

らえない理由を明記した書類（任意様式）を作成の上、添付してください。
　また、競技経験等のうち競技成績を裏付ける客観的な資料を添付してください。ここでの運動特技は志願者本人のプレーヤーとしての競技実績（＊）を指し、マネージャーやアシスタントコーチといったサポートスタッフ等としての貢献は運動特技に含みません。
（＊）団体競技などチームで行う活動の場合は、チームの競技実績に加え、チーム内における志願者本人の役割・実績等を具体的に記入してください。

学部	学科・課程等		個別テスト等	出題意図
理学部	理学科	数学・情報数理コース ※６	数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ（図形の性質、場合の数と確率）、数学Ｂ（数列）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）を出題範囲とし、数学・情報数理コースの専門教育の修得に必要な基礎学力、論理的思考力などを評価する問題を出題します。
工学部	機械システム工学科 電気電子システム工学科 物質科学工学科 情報工学科 都市システム工学科		数学 ※７	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ（図形の性質、場合の数と確率）、数学Ｂ（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）を出題範囲とし、工学部における専門教育の修得に必要な計算力及び論理的思考力を評価する問題を出題します。
農学部	食生命科学科		外国語（英語） ※５	英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰの範囲内で出題します。ある程度まとまった英語の文章の読解力と英語による基礎的な表現力などを身に付けているかどうかをみます。
	地域総合農学科	応用植物科学コース 地域共生コース		

※５　人文社会科学部及び農学部（後期日程）の個別テストで課す「外国語（英語）」は、２学部共通の試験問題です。
※６　理学部 理学科 物理学コース、化学コース、生物科学コース、地球環境科学コース及び総合理学コースの後期日程では、個別テストは課していません。大学入学共通テスト及び主体性評価の結果を総合して評価します。
※７　工学部（後期日程）の個別テストで課す「数学」は、工学部内で共通の試験問題です。

3）主体性評価

学力の３要素の一つである「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」について、本学ではすべての受験者に対し、次のように評価します。

①面接等を実施しない場合は、受験者の自己申告による主体性評価チェックシートを提出させ、段階的に評価し点数化します。その配点は全学共通で50点とします。

※主体性評価チェックシートにある「高校（中等教育学校後期課程）時代」について、高校に相当する学校等に在籍していない（していなかった）者又は卒業から相当年数が経過している者等は、出願から遡って３年程度の期間に最も学びに向き合ったものを一つ選んで入力してください。

②面接等を実施する場合は、その中で評価します。その際、調査書も参考にします。

主体性評価チェックシート

茨城大学では、学生一人ひとりが主体的に学びに向き合い、振り返りによって学びを改善しながら成長する「学びのプロセス」を大変重視しています。このような考え方に基づき、大学入学者選抜の「面接等を課さない一般選抜」では、以下の方法により主体性評価を行います。

受験者には、提出書類の一つとしてインターネット出願時にWeb上で主体性評価チェックシート（以下、チェックシート）を入力してもらいます。高校（中等教育学校後期課程）時代に最も熱心に学びに向き合ったものを一つだけ選択した上で、その学びに関する振り返り等について、受験者自身の考えに従って入力してください。

なお、同時にポートフォリオ等の提出は求めることはせず、このチェックシートのみで主体性を50点満点で段階的に評価します。

チェックシートの内容は下記のとおりです。項目（1）から（4）のすべてについて、自分の判断でチェックをつけて、必要事項を入力してください。

（1）あなたが高校（中等教育学校後期課程）時代に、最も熱心に学びに向き合ったものを以下の５つの項目から一つだけ選び、下の例にならって具体的な事柄を一つ記入してください。

【例】
学習活動（ＳＳＨの課題探究活動で、地元の企業に自ら働きかけ、●●●プロジェクトを実現した。）
部活動・ボランティア活動（バレーボール部に所属し、顧問や他の部員と共により効果的な練習メニューについて話し合った。）
生徒会・学校行事等（文化祭の実行委員会に所属し、●●●プロジェクトを成功させた。）
その他の活動（夏休みを利用して、イギリスのマンチェスターに短期英語研修に参加した。）
取得した資格・獲得した賞（英検準１級を高校2年生に取得した。）

１．学習活動　（　　）
２．部活動・ボランティア活動　（　　）
３．生徒会・学校行事等　（　　）
４．その他の活動　（　　）
５．取得した資格・獲得した賞　（　　）

（2）（1）で選択した学びに対して、単に向き合うだけでなく「振り返り」を行うことができましたか。一つ選んでチェックしてください。

１．大いにできた　２．少しできた　３．全くできなかった

（3）［（2）の回答が１か２の場合］振り返りによって、その学びを改善することができましたか。一つ選んでチェックしてください。

１．大いにできた　２．少しできた　３．全くできなかった

（4）その学び全体をとおして、主体性を高め、成長することができましたか。一つ選んでチェックしてください。

１．大いにできた　２．少しできた　３．全くできなかった

注：「振り返り」とは、自分が行った学びについて省みることにより、問題点や改善の方法等について考えること。

（2）実施教科・科目等の配点

学部	学科・課程等	日程	共通テストの利用教科・科目等			個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等											
			教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	小論文	主体性	配点合計
人文社会科学部	現代社会学科	前期	国	『国』	1	外国語	英語（英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ）	共通テスト	300	300（《200》+100）＊3		150＊4			300	100			1,150
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から2 ＊1			個別テスト等							200			50	250
			公民																
			数	①『数Ⅰ』、『数Ⅰ、数A』		その他	主体性	計	300	300		150			500	100		50	1,400
			数	②『数Ⅱ、数B、数C』	[数①②から1]かつ[理から2]から1＊2														
			理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	[数①②から2]かつ[理から1]から1＊2														
			外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1														
			情	『情Ⅰ』	1														
			〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕																
		後期	国	『国』	1	外国語	英語（英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ）	共通テスト	200	200		100	100＊5		200	100			900
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)			個別テスト等							350			50	400
			公民																
			数	①『数Ⅰ』、『数Ⅰ、数A』	から1 (2科目受験した場合は、"高得点科目"を利用します)	その他	主体性	計	200	200		100	100		550	100		50	1,300
			数	②『数Ⅱ、数B、数C』															
			理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)														
			外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1														
			情	『情Ⅰ』	1														
			〔6教科6科目〕又は〔7教科6科目〕																

＊1　「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合、『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。
また、『地総／歴総／公共』を選択した場合は、同一名称を含む科目を選択することはできません。

＊2　「理科」で同一名称を含む科目同士を選択する場合は、「『物基／化基／生基／地基』の合計得点」と「『物』、『化』、『生』、『地』1科目の得点」のうち"第１解答科目"の成績のみが有効となるため、「数学」を2科目選択する必要があります。

＊3　配点は、2科目のうちいずれか高い得点を2倍します。

＊4　配点は、［数学］は1科目50点、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で50（25+25）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目50点とします。

＊5　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で100（50+50）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目100点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等	日程	共通テストの利用教科・科目等				個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等											
			教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	小論文	主体性	配点合計
人文社会科学部	法律経済学科	前期	国	『国』	1		外国語	英語（英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ）	共通テスト	300	300（《200》+100）＊3		150＊4			300	100			1,150
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から2	＊1														
			公民						個別テスト等							200			50	250
			数	①『数Ⅰ』、『数Ⅰ、数A』	[数①②から1]かつ[理から2]から1＊2		その他	主体性	計	300	300		150			500	100		50	1,400
				②『数Ⅱ、数B、数C』																
			理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	[数①②から2]かつ[理から1]																
			外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1															
			情	『情Ⅰ』	1															
			〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕																	
		後期	国	『国』	1		外国語	英語（英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ）	共通テスト	300	300		100		100＊5	300	100			1,200
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1	(2科目受験した場合は、”第1解答科目”を利用します)															
			公民						個別テスト等							300			50	350
			数	①『数Ⅰ』、『数Ⅰ、数A』	から1	(2科目受験した場合は、”高得点科目”を利用します)	その他	主体性	計	300	300		100		100	600	100		50	1,550
				②『数Ⅱ、数B、数C』																
			理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1	(2科目受験した場合は、”第1解答科目”を利用します)															
			外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1															
			情	『情Ⅰ』	1															
			〔6教科6科目〕又は〔7教科6科目〕																	

＊1　「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合、『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。
また、『地総／歴総／公共』を選択した場合は、同一名称を含む科目を選択することはできません。

＊2　「理科」で同一名称を含む科目同士を選択する場合は、「『物基／化基／生基／地基』の合計得点」と「『物』、『化』、『生』、『地』1科目の得点」のうち"第１解答科目"の成績のみが有効となるため、「数学」を2科目選択する必要があります。

＊3　配点は、2科目のうちいずれか高い得点を2倍します。

＊4　配点は、［数学］は1科目50点、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で50（25+25）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目50点とします。

＊5　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で100（50+50）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目100点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等	日程	共通テストの利用教科・科目等				個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等										
			教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	小論文	主体性	配点合計
人文社会科学部	人間文化学科	前期	国	『国』	1		外国語	英語（英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ）	共通テスト	300	300（《200》＋100）＊2		100		100＊3	300	50			1,150
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』	から2	＊1			個別テスト等							200			50	250
			公民				その他	主体性	計	300	300		100		100	500	50		50	1,400
			数	①『数Ⅰ、数A』	から1	（2科目受験した場合は、”高得点科目”を利用します）														
				②『数Ⅱ、数B、数C』																
			理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1	（2科目受験した場合は、”第1解答科目”を利用します）														
			外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1															
			情	『情Ⅰ』	1															
			〔6教科7科目〕又は〔7教科7科目〕																	
		後期	国	『国』	1		その他	小論文	共通テスト	200	200		100		100＊3	300＊4	50			950
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』	から1	（2科目受験した場合は、”第1解答科目”を利用します）		主体性	個別テスト等									200	50	250
			公民						計	200	200		100		100	300	50	200	50	1,200
			数	①『数Ⅰ、数A』	から1	（2科目受験した場合は、”高得点科目”を利用します）														
				②『数Ⅱ、数B、数C』																
			理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1	（2科目受験した場合は、”第1解答科目”を利用します）														
			外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1															
			情	『情Ⅰ』	1															
			〔6教科6科目〕																	

＊1　「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合、『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。

＊2　配点は、2科目のうちいずれか高い得点を2倍します。

＊3　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で100（50+50）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目100点とします。

＊4　「外国語」の『英語』の配点は、「リーディング」を2.4倍して240点、「リスニング」を0.6倍して60点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等	コース	日程	共通テストの利用教科・科目等				個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等												
				教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	面接	小論文	集団討論	配点合計
教育学部	学校教育教員養成課程	教育実践科学	前期	国	『国』	1		その他	集団討論	共通テスト	200	100 ＊2		100		100 ＊3	200	100				800
				地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から2	＊1			個別テスト等											300	300
				公民						計	200	100		100		100	200	100			300	1,100
				数	①『数Ⅰ』、『数Ⅰ、数A』	から1	(2科目受験した場合は、"高得点科目"を利用します)															
					②『数Ⅱ、数B、数C』																	
				理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)															
	学校教育教員養成課程・教科教育コース	言語・社会教育系 国語選修	前期	国	『国』	1		その他	小論文 面接	共通テスト	200	200		100		100 ＊3	200	100				900
				外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1				個別テスト等									100	300		400
				情	『情Ⅰ』	1				計	200	200		100		100	200	100	100	300		1,300
			後期	〔6教科7科目〕又は〔7教科7科目〕				その他	面接	共通テスト	200	200		100		100 ＊3	200	100				900
										個別テスト等									100			100
										計	200	200		100		100	200	100	100			1,000
		言語・社会教育系 社会選修	前期					その他	小論文 面接	共通テスト	200	200		100		100 ＊3	200	100				900
										個別テスト等									100	200		300
										計	200	200		100		100	200	100	100	200		1,200
			後期					その他	面接	共通テスト	200	200		100		100 ＊3	200	100				900
										個別テスト等									200			200
										計	200	200		100		100	200	100	200			1,100
		英語選修	前期	国	『国』	1		その他	面接	共通テスト	200	200		100		100 ＊3	400	100				1,100
				地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から2	＊1			個別テスト等									100			100
				公民						計	200	200		100		100	400	100	100			1,200
				数	①『数Ⅰ』、『数Ⅰ、数A』	から1	(2科目受験した場合は、"高得点科目"を利用します)															
					②『数Ⅱ、数B、数C』																	
				理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)															
				外	『英』	1																
				情	『情Ⅰ』	1																
				〔6教科7科目〕又は〔7教科7科目〕																		

＊1　「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合、『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。
また、『地総／歴総／公共』を選択した場合は、同一名称を含む科目を選択することはできません。

＊2　配点は、［地理歴史、公民］は2科目で100（50+50）点とします。

＊3　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で100（50+50）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目100点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等	日程	共通テストの利用教科・科目等			個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等												
			教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	面接			配点合計
教育学部	学校教育教員養成課程・教科教育コース	前期	国	『国』	1	数学 ＊2	数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		100	100	100 ＊3	200	100				900
	理数教育系		地歴 公民	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)	その他	面接	個別テスト等				300					100			400
	数学選修		数	①『数Ⅰ、数A』	1 計2科目			計	200	100		500		100	200	100	100			1,300
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1															
			理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)															
			外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1															
			情	『情Ⅰ』	1															
			〔6教科7科目〕又は〔7教科7科目〕																	
		後期				その他	面接	共通テスト	200	100		300	300	100 ＊3	200	100				1,300
								個別テスト等									100			100
								計	200	100		600		100	200	100	100			1,400
		前期	国	『国』	1	その他	面接	共通テスト	200	100		100	100	200 ＊3	200	100				1,000
	理科選修		地歴 公民	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)			個別テスト等									100			100
			数	①『数Ⅰ、数A』	1 計2科目			計	200	100		200		200	200	100	100			1,100
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1															
			理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から2 ＊1															
			外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1															
			情	『情Ⅰ』	1															
			〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕																	

＊1　「理科」で同一名称を含む科目を選択することはできません。

＊2　教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース理数教育系数学選修（前期日程）の個別テストで課す「数学」の数A、数B、数Cについては、次のとおり内容を指定します。
【数A（図形の性質、場合の数と確率）】、【数B（数列）】、【数C（ベクトル）】

＊3　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で100（50+50）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目100点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等			日程	共通テストの利用教科・科目等				個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等												
					教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	面接	実技／実技資料検査	運動特技に関する調書	配点合計
教育学部	学校教育教員養成課程・教科教育コース	音楽教育系	音楽選修	前期	国	『国』	1		その他	実技検査（音楽） 面接	共通テスト	200	100		100		100＊4	200	100				800
					地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)			個別テスト等									100	450		550
					公民						計	200	100		100		100	200	100	100	450		1,350
					数	①『数Ⅰ』、『数Ⅰ、数A』	から1	(2科目受験した場合は、"高得点科目"を利用します)															
						②『数Ⅱ、数B、数C』																	
				後期	理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)	その他	実技検査（音楽） 面接	共通テスト	200	100		100		100＊4	200	100				800
					外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1				個別テスト等									150	400		550
					情	『情Ⅰ』	1				計	200	100		100		100	200	100	150	400		1,350
					〔6教科6科目〕又は〔7教科6科目〕																		
		美術教育系	美術選修	前期	国	『国』	1		その他	実技資料検査（美術）＊2 面接	共通テスト	200	200		100		100＊4	200	100				900
					地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から2 ＊1				個別テスト等									200	200		400
					公民						計	200	200		100		100	200	100	200	200		1,300
					数	①『数Ⅰ』、『数Ⅰ、数A』	から1	(2科目受験した場合は、"高得点科目"を利用します)															
						②『数Ⅱ、数B、数C』																	
				後期	理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)	その他	面接	共通テスト	200	200		100		100＊4	200	100				900
					外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1				個別テスト等									200			200
					情	『情Ⅰ』	1				計	200	200		100		100	200	100	200			1,100
					〔6教科7科目〕又は〔7教科7科目〕																		
		保健体育教育系	保健体育選修	前期	国	『国』	1		その他	実技検査（体育） 面接 運動特技に関する調書＊3	共通テスト	200	100		100		100＊4	200	100				800
					地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)			個別テスト等									150	200	150	500
					公民						計	200	100		100		100	200	100	150	200	150	1,300
					数	①『数Ⅰ』、『数Ⅰ、数A』	から1	(2科目受験した場合は、"高得点科目"を利用します)															
						②『数Ⅱ、数B、数C』																	
				後期	理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)	その他	面接 運動特技に関する調書＊3	共通テスト	200	100		100		100＊4	200	100				800
					外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1				個別テスト等									200		300	500
					情	『情Ⅰ』	1				計	200	100		100		100	200	100	200		300	1,300
					〔6教科6科目〕又は〔7教科6科目〕																		

＊1　「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合、『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。
　　また、『地総／歴総／公共』を選択した場合は、同一名称を含む科目を選択することはできません。
＊2　教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース美術教育系美術選修（前期日程）では出願時に「実技資料3点」の提出を求め、評価します。
＊3　教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース保健体育教育系保健体育選修（前・後期日程）では出願時に「運動特技に関する調書」の提出を求め、評価します。
＊4　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で100（50+50）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目100点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等			日程	共通テストの利用教科・科目等				個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等											
					教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	面接			配点合計
教育学部	学校教育教員養成課程・教科教育コース	技術教育系	技術選修	前期	国	『国』	1		その他	面接	共通テスト	200	100		150		150＊3	200	100				900
					地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)			個別テスト等									200			200
					公民						計	200	100		150		150	200	100	200			1,100
					数	①『数Ⅰ』、『数Ⅰ、数A』	から1	(2科目受験した場合は、"高得点科目"を利用します)															
						②『数Ⅱ、数B、数C』																	
					理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)															
					外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1																
					情	『情Ⅰ』	1																
					〔6教科6科目〕又は〔7教科6科目〕																		
		生活科学教育系	家庭選修	前期	国	『国』	1		その他	面接＊2	共通テスト	200	200		100		100＊4	200	100				900
					地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から2	＊1			個別テスト等									200			200
					公民						計	200	200		100		100	200	100	200			1,100
					数	①『数Ⅰ』、『数Ⅰ、数A』	から1	(2科目受験した場合は、"高得点科目"を利用します)															
						②『数Ⅱ、数B、数C』																	
				後期	理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)	その他	面接	共通テスト	200	200		100		100＊4	200	100				900
					外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1				個別テスト等									100			100
					情	『情Ⅰ』	1				計	200	200		100		100	200	100	100			1,000
					〔6教科7科目〕又は〔7教科7科目〕																		

＊1　「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合、『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。
　　また、『地総／歴総／公共』を選択した場合は、同一名称を含む科目を選択することはできません。
＊2　教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース生活科学教育系家庭選修（前期日程）では出願時に「調査・研究活動に関する報告書」の提出を求め、面接の参考資料とします。
＊3　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で150（75+75）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目150点とします。
＊4　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で100（50+50）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目100点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等	日程	共通テストの利用教科・科目等			個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等												
			教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	面接	プレゼンテーション	集団活動	配点合計
教育学部	学校教育教員養成課程 特別支援教育コース	前期	国	『国』	1	その他	集団活動	共通テスト	200	100 ＊2		100		100 ＊3	200	100				800
			地歴 公民	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から2 ＊1			個別テスト等											200	200
								計	200	100		100		100	200	100			200	1,000
			数	①『数Ⅰ』、『数Ⅰ、数A』	から1 (2科目受験した場合は、"高得点科目"を利用します)															
				②『数Ⅱ、数B、数C』																
			理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)															
			外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1															
	養護教諭養成課程	前期	情	『情Ⅰ』	1	その他	プレゼンテーション	共通テスト	200	100 ＊2		100		200 ＊4	200	100				900
			〔6教科7科目〕又は〔7教科7科目〕					個別テスト等										400		400
								計	200	100		100		200	200	100		400		1,300
		後期				その他	面接	共通テスト	200	200		100		200 ＊4	200	100				1,000
								個別テスト等									300			300
								計	200	200		100		200	200	100	300			1,300

＊1　「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合、『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。
また、『地総／歴総／公共』を選択した場合は、同一名称を含む科目を選択することはできません。

＊2　配点は、［地理歴史、公民］は2科目で100（50+50）点とします。

＊3　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で100（50+50）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目100点とします。

＊4　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で200（100+100）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目200点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等	日程	共通テストの利用教科・科目等			個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等										
			教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	主体性	配点合計
理学部	理学科 数学・情報数理コース	前期	国	『国』	1	数学 ＊2	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		100	100	200 ＊4	250 ＊6	100		1,050
			地歴 公民	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	1から1（2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します）	その他	主体性	個別テスト等			500					50	550
			数	①『数Ⅰ、数A』	1			計	200	100		700		200	250	100	50	1,600
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1	数学 ＊2	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	100	50		100	100	200 ＊4	200 ＊7	100		850
		後期	理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	1から2 ＊1	その他	主体性	個別テスト等			800					50	850
			外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	1から1			計	100	50		1,000		200	200	100	50	1,700
	理学科 物理学コース	前期	情	『情Ⅰ』	1	数学 ＊2	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		100	100	200 ＊4	250 ＊6	100		1,050
			〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕			理科 ＊3	物（物理基礎、物理）	個別テスト等				200 《0》 ＊8		300			50	550 《350》 ＊8
						その他	主体性	計	200	100		400 《200》 ＊8		500	250	100	50	1,600 《1,400》 ＊8
		後期				その他	主体性	共通テスト	100	50		100	100	300 ＊5	200 ＊7	100		950
								個別テスト等									50	50
								計	100	50		200		300	200	100	50	1,000
	理学科 化学コース	前期				理科 ＊3	化（化学基礎、化学）	共通テスト	200	100		100	100	200 ＊4	250 ＊6	100		1,050
						その他	主体性	個別テスト等						300			50	350
								計	200	100		200		500	250	100	50	1,400
		後期				その他	主体性	共通テスト	100	50		100	100	300 ＊5	200 ＊7	100		950
								個別テスト等									50	50
								計	100	50		200		300	200	100	50	1,000
	理学科 生物科学コース	前期				理科 ＊3	物（物理基礎、物理） 化（化学基礎、化学） 生（生物基礎、生物） から1科目選択	共通テスト	200	100		100	100	200 ＊4	250 ＊6	100		1,050
								個別テスト等						300			50	350
						その他	主体性	計	200	100		200		500	250	100	50	1,400
		後期				その他	主体性	共通テスト	100	50		100	100	300 ＊5	200 ＊7	100		950
								個別テスト等									50	50
								計	100	50		200		300	200	100	50	1,000

＊1　「理科」で同一名称を含む科目を選択することはできません。

＊2　理学部理学科（前・後期日程）の個別テストで課す「数学」の数A、数B、数Cについては、次のとおり内容を指定します。
【数A（図形の性質、場合の数と確率）】、【数B（数列）】、【数C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）】

＊3　理学部理学科（前期日程）の個別テストで課す「理科」の出題範囲については、次のとおりとします。
［物理］：物理基礎、物理の全内容、［化学］：化学基礎、化学の全内容、［生物］：生物基礎、生物の全内容、［地学］：地学基礎、地学の全内容をそれぞれ出題範囲とします。

＊4　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で100（50+50）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目100点とします。

＊5　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で150（75+75）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目150点とします。

＊6　「外国語」の『英語』の配点は、「リーディング」を2倍して200点、「リスニング」を0.5倍して50点とします。

＊7　「外国語」の『英語』の配点は、「リーディング」を1.6倍して160点、「リスニング」を0.4倍して40点とします。

＊8　前期日程における第２志望制で「総合理学コース」と併せて出願した場合、「総合理学コース」として選考する際は、[物理]の得点のみ使用します。ただし、その場合も[数学]を受験している必要があります。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等	日程	共通テストの利用教科・科目等				個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等										
			教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	主体性	配点合計
理学部	理学科 地球環境科学コース	前期	国	『国』	1		理科＊2	物（物理基礎、物理） 化（化学基礎、化学） 生（生物基礎、生物） 地（地学基礎、地学） から1科目選択	共通テスト	200	100		100	100	200＊3	250＊5	100		1,050
			地歴 公民	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)			個別テスト等						300			50	350
			数	①『数Ⅰ、数A』	1	計2科目	その他	主体性	計	200	100		200		500	250	100	50	1,400
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1														
			理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から2	＊1													
		後期	外	『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』	から1		その他	主体性	共通テスト	100	50		100	100	300＊4	200＊6	100		950
			情	『情Ⅰ』	1				個別テスト等									50	50
			〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕						計	100	50		200		300	200	100	50	1,000
	理学科 総合理学コース	前期					理科＊2	物（物理基礎、物理） 化（化学基礎、化学） 生（生物基礎、生物） 地（地学基礎、地学） から1科目選択	共通テスト	200	100		100	100	200＊3	250＊5	100		1,050
									個別テスト等				*7		300*7			50	350*7
							その他	主体性	計	200	100		200		500	250	100	50	1,400*7
		後期					その他	主体性	共通テスト	100	50		100	100	300＊4	200＊6	100		950
									個別テスト等									50	50
									計	100	50		200		300	200	100	50	1,000

＊1　「理科」で同一名称を含む科目を選択することはできません。

＊2　理学部理学科（前期日程）の個別テストで課す「理科」の出題範囲については、次のとおりとします。
［物理］：物理基礎、物理の全内容、［化学］：化学基礎、化学の全内容、［生物］：生物基礎、生物の全内容、［地学］：地学基礎、地学の全内容をそれぞれ出題範囲とします。

＊3　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で100（50+50）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目100点とします。

＊4　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で150（75+75）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目150点とします。

＊5　「外国語」の『英語』の配点は、「リーディング」を2倍して200点、「リスニング」を0.5倍して50点とします。

＊6　「外国語」の『英語』の配点は、「リーディング」を1.6倍して160点、「リスニング」を0.4倍して40点とします。

＊7　前期日程における第２志望制で「物理学コース」と併せて出願した場合、「総合理学コース」として選考する際は、[物理]の得点のみ使用します。ただし、その場合も[数学]を受験している必要があります。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等	日程	共通テストの利用教科・科目等			個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等									
			教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	主体性	配点合計
工学部	機械システム工学科	前期	国	『国』	1	数学 ＊1	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		300(《200》+100) ＊3		300(《200》+100) ＊4	200	100		1,200
			地歴 公民	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)	理科 ＊2	物（物理基礎、物理）	個別テスト等		300(《200》+100) ＊6					100		50	450
			数	①『数Ⅰ、数A』	1 計2科目	外国語	英語(英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ)											
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1			計	200	100		900			300	100	50	1,650
			理	『物』、『化』、『生』、『地』	『物』かつ『物』以外から1（計2科目）	その他	主体性											
			外	『英』	1													
			情	『情Ⅰ』	1													
		後期	〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕			数学 ＊1	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		300(《200》+100) ＊3		400(《300》+100) ＊5	200	100		1,300
								個別テスト等				300					50	350
						その他	主体性	計	200	100		600		400	200	100	50	1,650
	電気電子システム工学科	前期				数学 ＊1	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		300(《200》+100) ＊3		300(《200》+100) ＊4	200	100		1,200
						理科 ＊2	物（物理基礎、物理）	個別テスト等		300(《200》+100) ＊6					100		50	450
						外国語	英語(英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ)	計	200	100		900			300	100	50	1,650
						その他	主体性											
		後期				数学 ＊1	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		300(《200》+100) ＊3		400(《300》+100) ＊5	200	100		1,300
								個別テスト等				300					50	350
						その他	主体性	計	200	100		600		400	200	100	50	1,650

＊1　工学部機械システム工学科、電気電子システム工学科（前・後期日程）の個別テストで課す「数学」の数A、 数B、 数Cについては、次のとおり内容を指定します。
【数A（図形の性質、 場合の数と確率）】、【数B（数列、 統計的な推測）】、【数C（ベクトル、 平面上の曲線と複素数平面）】

＊2　工学部機械システム工学科、電気電子システム工学科（前期日程）の個別テストで課す「理科」の出題範囲については、次のとおりとします。
［物理］：物理基礎、物理の全内容を出題範囲とします。

＊3　工学部機械システム工学科、電気電子システム工学科（前・後期日程）の配点は、共通テストの「数学①」と「数学②」のいずれか高い得点を2倍して、合計300点とします。

＊4　工学部機械システム工学科、電気電子システム工学科（前期日程）の配点は、共通テストの「理科」の"高得点科目"の成績を2倍して、合計300点とします。

＊5　工学部機械システム工学科、電気電子システム工学科（後期日程）の配点は、共通テストの「理科」の"高得点科目"の成績を3倍して、合計400点とします。

＊6　工学部機械システム工学科、電気電子システム工学科（前期日程）の配点は、個別テストの「数学」と「理科」のいずれか高い得点を2倍して、合計300点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等	日程	共通テストの利用教科・科目等			個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等										
			教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	主体性	配点合計
工学部	物質科学工学科	前期	国	『国』	1	数学 ＊1	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		100	100	400(《300》+100) ＊4	200	100		1,200
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)	外国語	英語(英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ)	個別テスト等				300			100		50	450
			公民															
			数	①『数Ⅰ、数A』	1 計2科目	その他	主体性	計	200	100		500		400	300	100	50	1,650
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1													
			理	『物』、『化』、『生』	から2													
			外	『英』	1													
			情	『情Ⅰ』	1													
			〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕															
		後期				数学 ＊1	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		300(《200》+100) ＊3		400(《300》+100) ＊4	200	100		1,300
								個別テスト等				300					50	350
						その他	主体性	計	200	100		600		400	200	100	50	1,650
	情報工学科	前期	国	『国』	1	数学 ＊1	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		300(《200》+100) ＊3		300(《200》+100) ＊5	200	100		1,200
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)	理科 ＊2	物（物理基礎、物理）	個別テスト等				300(《200》+100) ＊6			100		50	450
			公民															
			数	①『数Ⅰ、数A』	1 計2科目	外国語	英語(英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ)	計	200	100		900			300	100	50	1,650
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1													
			理	『物』、『化』、『生』、『地』	『物』かつ『物』以外から1（計2科目）	その他	主体性											
			外	『英』	1													
			情	『情Ⅰ』	1													
			〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕															
		後期				数学 ＊1	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		300(《200》+100) ＊3		400(《300》+100) ＊4	200	100		1,300
								個別テスト等				300					50	350
						その他	主体性	計	200	100		600		400	200	100	50	1,650

＊1　工学部物質科学工学科、情報工学科（前・後期日程）の個別テストで課す「数学」の数A、 数B、 数Cについては、次のとおり内容を指定します。
【数A（図形の性質、 場合の数と確率）】、【数B（数列、 統計的な推測）】、【数C（ベクトル、 平面上の曲線と複素数平面）】

＊2　工学部情報工学科（前期日程）の個別テストで課す「理科」の出題範囲については、次のとおりとします。
［物理］：物理基礎、物理の全内容を出題範囲とします。

＊3　工学部物質科学工学科（後期日程）、情報工学科（前・後期日程）の配点は、共通テストの「数学①」と「数学②」のいずれか高い得点を2倍して、合計300点とします。

＊4　工学部物質科学工学科（前・後期日程）、情報工学科（後期日程）の配点は、共通テストの「理科」の"高得点科目"の成績を3倍して、合計400点とします。

＊5　工学部情報工学科（前期日程）の配点は、共通テストの「理科」の"高得点科目"の成績を2倍して、合計300点とします。

＊6　工学部情報工学科（前期日程）の配点は、個別テストの「数学」と「理科」のいずれか高い得点を2倍して、合計300点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等	日程	共通テストの利用教科・科目等				個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等										
			教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	主体性	配点合計
工学部	都市システム工学科	前期	国	『国』	1		数学 ＊1	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		300(《200》+100) ＊3		300(《200》+100) ＊4	200	100		1,200
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)	理科 ＊2	物（物理基礎、物理）	個別テスト等				300(《200》+100) ＊6			100		50	450
			公民																
			数	①『数Ⅰ、数A』	1	計2科目	外国語	英語 (英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ)											
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1				計	200	100		900			300	100	50	1,650
			理	『物』、『化』、『生』、『地』	『物』かつ『物』以外から1（計2科目）		その他	主体性											
			外	『英』	1														
			情	『情Ⅰ』	1														
		後期	〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕				数学 ＊1	数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	共通テスト	200	100		300(《200》+100) ＊3		400(《300》+100) ＊5	200	100		1,300
									個別テスト等				300					50	350
							その他	主体性	計	200	100		600		400	200	100	50	1,650

＊1　工学部都市システム工学科（前・後期日程）の個別テストで課す「数学」の数A、 数B、 数Cについては、次のとおり内容を指定します。
【数A（図形の性質、 場合の数と確率）】、【数B（数列、 統計的な推測）】、【数C（ベクトル、 平面上の曲線と複素数平面）】

＊2　工学部都市システム工学科（前期日程）の個別テストで課す「理科」の出題範囲については、次のとおりとします。
［物理］：物理基礎、物理の全内容を出題範囲とします。

＊3　工学部都市システム工学科（前・後期日程）の配点は、共通テストの「数学①」と「数学②」のいずれか高い得点を2倍して、合計300点とします。

＊4　工学部都市システム工学科（前期日程）の配点は、共通テストの「理科」の"高得点科目"の成績を2倍して、合計300点とします。

＊5　工学部都市システム工学科（後期日程）の配点は、共通テストの「理科」の"高得点科目"の成績を3倍して、合計400点とします。

＊6　工学部都市システム工学科（前期日程）の配点は、個別テストの「数学」と「理科」のいずれか高い得点を2倍して、合計300点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等	日程	共通テストの利用教科・科目等			個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等										
			教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	主体性	配点合計
農学部	食生命科学科	前期	国	『国』	1	外国語	英語(英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ)	共通テスト	100	50		100	100	400	200	100		1,050
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)	その他	主体性	個別テスト等							200		50	250
			公民					計	100	50		200		400	400	100	50	1,300
			数	①『数Ⅰ、数A』	から1 計2科目													
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1													
			理	『物』、『化』、『生』、『地』	から2													
			外	『英』	1													
			情	『情Ⅰ』	1													
			〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕															
	応用植物科学コース		国	『国』	1	外国語	英語(英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ)	共通テスト	200	100		100	100	400	200	100		1,200
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)	その他	主体性	個別テスト等							200		50	250
			公民					計	200	100		200		400	400	100	50	1,450
			数	①『数Ⅰ、数A』	1 計2科目													
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1													
			理	『物』、『化』、『生』、『地』	から2													
			外	『英』	1													
			情	『情Ⅰ』	1													
			〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕															
	地域総合農学科 地域共生コース 文系パターン＊1		国	『国』	1	外国語	英語(英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ)	共通テスト	200	200		150	150	100＊3	200	100		1,100
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から2 ＊2	その他	主体性	個別テスト等							200		50	250
			公民					計	200	200		300		100	400	100	50	1,350
			数	①『数Ⅰ、数A』	1 計2科目													
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1													
			理	『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)													
			外	『英』	1													
			情	『情Ⅰ』	1													
			〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕															
	地域総合農学科 地域共生コース 理系パターン＊1		国	『国』	1	外国語	英語(英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ)	共通テスト	200	100		150	150	200	200	100		1,100
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1 (2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)	その他	主体性	個別テスト等							200		50	250
			公民					計	200	100		300		200	400	100	50	1,350
			数	①『数Ⅰ、数A』	1 計2科目													
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1													
			理	『物』、『化』、『生』、『地』	から2													
			外	『英』	1													
			情	『情Ⅰ』	1													
			〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕															

＊1　農学部地域総合農学科地域共生コース（前期日程）は文系パターン、理系パターンのいずれかを出願時に選択します。

＊2　「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合、『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。また、『地総／歴総／公共』を選択した場合は、同一名称を含む科目を選択することはできません。

＊3　配点は、［理科（『物基／化基／生基／地基』）］は2科目で100（50+50）点、［理科（『物』、『化』、『生』、『地』）］は1科目100点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

学部	学科・課程等	日程	共通テストの利用教科・科目等				個別テスト等		共通テスト・個別テスト等の配点等										
			教科	科目名	本学が課す科目数及び科目選択の方法等		教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学①	数学②	理科	外国語	情報	主体性	配点合計
農学部	食生命科学科	後期	国	『国』	1		外国語	英語(英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ)	共通テスト	100	50		200《400》＊1		200《400》＊1	100	100		950
			地歴	『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』	から1	(2科目受験した場合は、"第1解答科目"を利用します)													
			公民				その他	主体性	個別テスト等							200		50	250
			数	①『数Ⅰ、数A』	1	計2科目			計	100	50		200《400》＊1		200《400》＊1	300	100	50	1,200
				②『数Ⅱ、数B、数C』	1														
			理	『物』、『化』、『生』、『地』	から2														
			外	『英』	1														
			情	『情Ⅰ』	1														
			〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕																
	地域総合農学科		応用植物科学コース																
			地域共生コース																

＊1　配点は、共通テストの「数学①と数学②の合計点」と「理科2科目の合計点」のいずれか高い得点を2倍して400点とし、共通テスト合計を950点とします。

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

<table>
<tr><th rowspan="2">学部</th><th rowspan="2">学科・課程等</th><th rowspan="2">日程</th><th colspan="4">共通テストの利用教科・科目等</th><th colspan="2">個別テスト等</th><th colspan="11">共通テスト・個別テスト等の配点等</th></tr>
<tr><th>教科</th><th>科目名</th><th colspan="2">本学が課す科目数及び科目選択の方法等</th><th>教科等</th><th>科目名等</th><th>試験の区分</th><th>国語</th><th>数学①</th><th>数学②</th><th>外国語</th><th>地歴</th><th>公民</th><th>理科</th><th>情報</th><th>面接</th><th>配点合計</th></tr>
<tr><td rowspan="8">地域未来共創学環</td><td rowspan="8">前期</td><td>国</td><td>『国』</td><td colspan="2">1</td><td rowspan="8">数学＊4
外国語
から1教科選択</td><td rowspan="8">数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B、数C
英語(英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ、英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ、論理・表現Ⅰ)</td><td>共通テスト</td><td>200</td><td>100</td><td>100</td><td>200</td><td colspan="3">300
＊6</td><td>100</td><td></td><td>1,000</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数</td><td>①『数Ⅰ、数A』</td><td>1</td><td rowspan="2">計2科目</td><td rowspan="2">個別テスト等</td><td colspan="4">200
＊5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>100</td><td>300</td></tr>
<tr><td>②『数Ⅱ、数B、数C』</td><td>1</td><td colspan="4">600</td><td colspan="3">300</td><td>100</td><td>100</td><td>1,300</td></tr>
<tr><td>外</td><td>『英』、『独』、『仏』、『中』、『韓』</td><td colspan="2">から1</td><td>その他</td><td>面接</td></tr>
<tr><td>地歴</td><td rowspan="2">『地総、地探』、『歴総、日探』、『歴総、世探』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』、『地総／歴総／公共』</td><td rowspan="2">から1又は2＊1</td><td rowspan="3">から3＊3</td></tr>
<tr><td>公民</td></tr>
<tr><td>理</td><td>『物基／化基／生基／地基』、『物』、『化』、『生』、『地』</td><td>から1又は2＊2</td></tr>
<tr><td>情</td><td>『情Ⅰ』</td><td colspan="2">1</td></tr>
<tr><td colspan="5">〔6教科8科目〕又は〔7教科8科目〕</td></tr>
</table>

＊1　「地理歴史、公民」から2科目を受験する場合、『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。
　　また、『地総／歴総／公共』を選択した場合は、同一名称を含む科目を選択することはできません。

＊2　「理科」で同一名称を含む科目同士を選択した場合は、「『物基／化基／生基／地基』の合計得点」と「『物』、『化』、『生』、『地』1科目の得点」のうち"第１解答科目"の成績のみが有効となるため、「地理歴史、公民」を2科目選択する必要があります。

＊3　共通テストで課す「地理歴史、公民」と「理科」をそれぞれ1科目以上、合計3科目の成績を利用します。

＊4　個別テストで課す「数学」の数A、数B、数Cについては、次のとおり内容を指定します。
　　【数A（図形の性質、場合の数と確率）】、【数B（数列）】、【数C（ベクトル）】

＊5　配点は、個別テストの「数学」または「外国語」から選択した1教科を200点とします。

＊6　配点は、次のとおりとします。
　　［地理歴史、公民から1科目かつ理科から2科目を選択の場合］：300(100＋200)点
　　［地理歴史、公民から2科目かつ理科から1科目を選択の場合］：300(200＋100)点

※「3.（1）入学者選抜の実施教科・科目等（p.24 ～ 37）」を必ず確認してください。各学部等で指定する教科・科目等を受験していない場合は、合否判定の対象とはなりません。

（３）成績評価及び合否判定

「（１）入学者選抜の実施教科・科目等」及び「（２）実施教科・科目等の配点」（p.24～53）により、大学入学共通テスト及び一般選抜前期・後期日程の個別テスト等の成績を総合して評価します。

本学の各学部、学科・課程等が課す大学入学共通テストの教科・科目や個別テスト等のうち１つでも受験していない場合は、合否の判定対象になりません。

○個別テスト等は、「３．（１）２）個別テスト等の各教科・科目等及び出題意図等」（p.28～36）に基づき評価します。
○同点者は同順位とし、特定科目の成績を重視したり、特定科目に最低点（いわゆる足きり点）を設けたりすることはありません。
○前期日程の「理科」で選択科目を課す学科、選修において、科目間で著しい平均点差が生じた場合には、得点を調整することがあります。
○後期日程の農学部地域総合農学科は、コース別ではなく学科全体で合否判定を行います。

（４）理学部、工学部及び農学部の第２志望制について

１）理学部の第２志望制

1 一般選抜（前期日程）における第２志望制

①出願に関する留意事項

ア）同学部内で第１志望・第２志望のどちらかに「総合理学コース」を選択する場合は、第１志望とするコースの他に第２志望のコースを選択し出願することができます。コースの組み合わせは下表のとおりです。なお、「数学・情報数理コース」は第２志望制を導入していません。

第１志望コースと第２志望コースの組み合わせ

第１志望コース ＼ 第２志望コース	数学・情報数理コース	物理学コース	化学コース	生物科学コース	地球環境科学コース	総合理学コース
数学・情報数理コース		×	×	×	×	×
物理学コース	×		×	×	×	○（＊）
化学コース	×	×		×	×	○
生物科学コース	×	×	×		×	○
地球環境科学コース	×	×	×	×		○
総合理学コース	×	○（＊）	○	○	○	

（＊）「物理学コース」では、個別テストにおいて『物理』と『数学』を課しているため、「物理学コース」と「総合理学コース」の組み合わせを選択した場合は、**『物理』と『数学』の両方を受験する必要があります**。なお、「総合理学コース」として選考する際は、『物理』の得点のみ使用します。

イ）第２志望まで選択する場合は、第１志望・第２志望の両方のコースにおいて、出願要件（個別テストの受験科目）を満たす必要があります。

（注）個別テストの受験科目に関して、次の表のとおり、第１志望・第２志望の両方のコースの出願要件を満たす科目を選択しなければ出願することはできません。

第２志望コースまで選択する場合における個別テストの選択科目

組み合わせ	個別テストの選択科目
「物理学コース」と「総合理学コース」	『物理』のみ **ただし、選択科目の他、『数学』も受験する必要があります。（＊）**
「化学コース」と「総合理学コース」	『化学』のみ
「生物科学コース」と「総合理学コース」	『物理』、『化学』、『生物』のいずれか
「地球環境科学コース」と「総合理学コース」	『物理』、『化学』、『生物』、『地学』のいずれか

（＊）「物理学コース」では、個別テストにおいて『物理』と『数学』を課しているため、「物理学コース」と「総合理学コース」の組み合わせを選択した場合は、**『物理』と『数学』の両方を受験する必要が**

あります。なお、「総合理学コース」として選考する際は、『物理』の得点のみ使用します。

ウ）第２志望のコースを選択しないこともできます（選択しない場合でも不利益等が生じることはありません）。

②合否判定の方法について

理学部受験者全員（数学・情報数理コースは除く）を成績順に並べ、成績上位者から順に各コースの予定合格者数を充たすまで合格者を選考します。受験者の順位が第１志望とするコースの予定合格者数の範囲内の場合、受験者は当該コースに合格となります。

また、第１志望とするコースの予定合格者数がすでに充たされており、かつ、第２志望とするコースの予定合格者数が充たされていない場合、受験者は第２志望としたコースでの合格となります。

なお、物理学コースの合否の判定においては、『数学』の点数も含めた成績順で判定します。

第２志望制により第１志望又は第２志望で「物理学コース」を選択している場合は、『数学』を受験していないと「総合理学コース」も合否の判定対象になりません。

③第２志望コースに合格した者への注意事項

第２志望コースに合格した者は、入学手続期間終了時において第１志望コースの入学手続完了者が募集人員に満たなかった場合でも、入学するコースを第１志望コースに変更することはできません。

2 一般選抜（後期日程）における第２志望制

①出願に関する留意事項

ア）同学部内で第１志望・第２志望のどちらかに「総合理学コース」を選択する場合は、第１志望とするコースの他に第２志望のコースを選択し出願することができます。コースの組み合わせは下表のとおりです。なお、「数学・情報数理コース」は第２志望制を導入していません。

第１志望コースと第２志望コースの組み合わせ

第１志望コース ＼ 第２志望コース	数学・情報数理コース	物理学コース	化学コース	生物科学コース	地球環境科学コース	総合理学コース
数学・情報数理コース		×	×	×	×	×
物理学コース	×		×	×	×	○
化学コース	×	×		×	×	○
生物科学コース	×	×	×		×	○
地球環境科学コース	×	×	×	×		○
総合理学コース	×	○	○	○	○	

イ）第２志望まで選択する場合は、第１志望・第２志望の両方のコースにおいて、出願要件を満たす必要があります。

ウ）第２志望のコースを選択しないこともできます（選択しない場合でも不利益等が生じることはありません）。

②合否判定の方法について

理学部受験者全員（数学・情報数理コースは除く）を成績順に並べ、成績上位者から順に各コースの予定合格者数を充たすまで合格者を選考します。受験者の順位が第１志望とするコースの予定合格者数の範囲内の場合、受験者は当該コースに合格となります。

また、第１志望とするコースの予定合格者数がすでに充たされており、かつ、第２志望とするコースの予定合格者数が充たされていない場合、受験者は第２志望としたコースでの合格となります。

③第２志望コースに合格した者への注意事項

第２志望コースに合格した者は、入学手続期間終了時において第１志望コースの入学手続完了者が募集人員に満たなかった場合でも、入学するコースを第１志望コースに変更することはできません。

2）工学部の第２志望制（後期日程）

①出願に関する留意事項

ア）後期日程の工学部への出願にあたっては、同学部内において第１志望とする学科の他に第２志望の学科を選択し出願することができます。

イ）第２志望の学科を選択する場合でも、出願資格の判断は第１志望の学科の要件で行います。

（注）大学入学共通テストの受験教科・科目に関しては、第１志望の学科において指定する出願要件を満たしていれば、第２志望の学科における出願要件を満たしていない場合でも、当該第２志望の学科を選択することができます。

ウ）第２志望の学科を選択しないこともできます（選択しない場合でも不利益等が生じることはありません）。

②合否判定の方法について

工学部受験者の成績は、第１志望とした学科における成績をそのまま利用します。

工学部受験者全員を成績順に並べ、成績上位者から順に各学科の予定合格者数を充たすまで合格者を選考します。

受験者の順位が第１志望とする学科の予定合格者数の範囲内の場合、受験者は当該学科に合格となります。

また、第１志望とする学科の予定合格者数がすでに充たされており、かつ、第２志望とする学科の予定合格者数が充たされていない場合、受験者は第２志望とした学科での合格となります。

③第２志望学科に合格した者への注意事項

第２志望学科に合格した者は、入学手続期間終了時において第１志望学科の入学手続完了者が募集人員に満たなかった場合でも、入学する学科を第１志望学科に変更することはできません。

3）農学部の第２志望制（後期日程）

①出願に関する留意事項

ア）後期日程の農学部への出願にあたっては、食生命科学科と地域総合農学科から第１志望と第２志望を選択することができます。

イ）地域総合農学科を選択する場合は、併せて応用植物科学コース又は地域共生コースのどちらかを出願時に選択します。（地域総合農学科として両コースの人数を合わせた人員を募集します。合否判定にはコースによる影響はありません。）

ウ）第２志望を選択しないこともできます（選択しない場合でも不利益等が生じることはありません）。

②合否判定の方法について

農学部受験者全員を成績順に並べ、成績上位者から順に各学科の予定合格者数を充たすまで合格者を選考します。

受験者の順位が第１志望とする学科の予定合格者数の範囲内の場合、受験者は当該学科に合格となります。

また、第１志望とする学科の予定合格者数がすでに充たされており、かつ、第２志望とする学科の予定合格者数が充たされていない場合、受験者は第２志望とした学科での合格となります。

③第２志望学科に合格した者への注意事項

第２志望学科に合格した者は、入学手続期間終了時において第１志望学科の入学手続完了者が募集人員に満たなかった場合でも、入学する学科（コースも含む）を変更することはできません。

（５）「入試過去問題活用宣言」への参加について

本学は、「入試過去問題活用宣言」に参加しています。

１．本学のアドミッション・ポリシーを実現するため、必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学の入試過去問題を使用して出題することがあります（必ず使用するとは限りません）。

２．入試過去問題を使用する際は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。また、使用した過去問題については、入試終了後、本学ホームページで公表します。

３．「入試過去問題活用宣言」についての詳細及び参加大学の一覧については、「入試過去問題活用宣言」のホームページ【https://www.nyushikakomon.jp/】にて公表しています。

４．追加合格及び欠員補充第２次募集

入学手続完了者が入学定員に満たない等の場合は、追加合格又は欠員補充第２次募集を実施することがあります。

Ⅳ. 総合型選抜

1．選抜日程及び注意事項

出願期間	令和８年９月30日（水）から10月２日（金）まで
試験期日	令和８年10月17日（土） ※地域未来共創学環のみ10月18日（日）にも実施します。
合格者発表	令和８年11月１日（日）

【総合型選抜を実施する学部、学科・課程等】

- 教育学部　学校教育教員養成課程　教育実践科学コース
  教科教育コース
  言語・社会教育系　英語選修
  理数教育系　理科選修
  技術教育系　技術選修
  特別支援教育コース
- 工学部　都市システム工学科
- 農学部　地域総合農学科 地域共生コース
- 地域未来共創学環

【注意事項】

（１）本学の総合型選抜で不合格だった者は、学校推薦型選抜に出願することが可能です。
（２）本学の総合型選抜に出願した者は、一般選抜（前期日程及び後期日程）に出願することが可能です。その場合、本学の一般選抜への出願は、10月上旬にホームページで公表予定の「令和９年度（2027年度）一般選抜学生募集要項」に従ってください。ただし、総合型選抜に合格した者は、特別の事情により入学辞退を許可された場合を除き、他の国立大学も含めて一般選抜の合格者になりません。
（３）本学の総合型選抜では、大学入学共通テストを課しません。
（４）本学の各学部、学科・課程等が課す面接、プレゼンテーション、口述試験、口頭試問、集団活動及び集団討論等の結果を総合して評価します。なお、それぞれが課す**面接、プレゼンテーション、口述試験、口頭試問、集団活動及び集団討論等のうち一つでも受験しなかった者は、合否の判定対象にはなりません。**

2．出願資格

（１）●教育学部 学校教育教員養成課程 教育実践科学コース、教科教育コースの一部（言語・社会教育系英語選修、理数教育系理科選修、技術教育系技術選修）及び特別支援教育コース
●工学部 都市システム工学科

次の各号のいずれかに該当する者
①高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者及び令和９年３月卒業見込みの者
②通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和９年３月修了見込みの者
③文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び令和９年３月までに修了見込みの者

（２）●農学部 地域総合農学科 地域共生コース
●地域未来共創学環

次の各号のいずれかに該当する者
①高等学校（中等教育学校を含む）を令和８年３月以降に卒業した者及び令和９年３月卒業見込みの者
②通常の課程による12年の学校教育を令和８年３月以降に修了した者及び令和９年３月修了見込みの者
③文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を、令和７年４月から令和８年３月までに修了した者及び令和８年４月から令和９年３月までに修了又は修了見込みの者

３．出願要件・選抜方法・配点等

調査書は出願時において、発行可能な最新のものを提出してください。

（１）教育学部学校教育教員養成課程 教育実践科学コース、教科教育コースの一部（言語・社会教育系英語選修、理数教育系理科選修、技術教育系技術選修）及び特別支援教育コース

教育学部の総合型選抜は、「地域教員希望枠」の募集となります。「地域教員希望枠」で入学した学生は、入学後、所定の教育実践力養成プログラム等に参加し、これを修了することで、茨城県教員選考試験を特別選考枠で受験できる予定です。

なお、教育学部では、大学入学前から学校現場での体験機会を提供し、教職への意識を高めることを目的として、総合型選抜（地域教員希望枠）合格者を対象に、科目等履修生としての先取り履修制度を設けています。詳細については、合格通知時に案内します。

①出願要件

<table>
<tr><th>学部</th><th colspan="4">課程・コース等</th><th>出願要件</th></tr>
<tr><td rowspan="5">教育学部</td><td rowspan="5">学校教育教員養成課程</td><td colspan="3">教育実践科学コース</td><td rowspan="5">次の要件を全て満たし、合格した場合に必ず入学することを確約できる者

1）調査書の全体の学習成績の状況が3.5以上の者
2）茨城県採用教員として教職を目指す強い意欲がある者</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教科教育コース</td><td>言語・社会教育系</td><td>英語選修</td></tr>
<tr><td>理数教育系</td><td>理科選修</td></tr>
<tr><td>技術教育系</td><td>技術選修</td></tr>
<tr><td colspan="3">特別支援教育コース</td></tr>
</table>

②選抜方法

<table>
<tr><th>学部</th><th colspan="4">課程・コース等
〈地域教員希望枠のプログラム〉</th><th>選抜方法等</th></tr>
<tr><td rowspan="2">教育学部</td><td rowspan="2">学校教育教員養成課程</td><td colspan="3">教育実践科学コース
〈いじめ・不登校対応と子どもの居場所創設プログラム〉</td><td>調査書及びプレゼンテーション・面接の結果を総合して評価します。
〈プレゼンテーション〉設定されたテーマについて、「いじめ・不登校対応と子どもの居場所創設プログラム」と関連させながら「プレゼンテーション資料」に基づいてプレゼンテーション（10分程度）を行い、その内容について質疑応答して、言語表現力や論理的思考力及び学校教育に対する関心・意欲を評価します。（質疑を含めて20分程度）
「プレゼンテーション資料」は出願時に提出を求めます。出願後は一切返却しませんので、必ずコピーを取っておき、試験当日に持参（※）してください。なお、試験当日は黒板等に板書しても構いませんが、電子機器類の使用は認めません。
（「プレゼンテーション資料」の詳細はp.60に示します）
〈面接〉個人面接を行い、「いじめ・不登校対応と子どもの居場所創設プログラム」への関心、茨城県の教員を目指す意欲、小学校教員としての適性（コミュニケーション能力を含む）などを評価します。（15分程度）

※プレゼンテーションで受験者が当日使用できる資料は、出願時に提出した「プレゼンテーション資料」のコピーのみとなります。</td></tr>
<tr><td>教科教育コース</td><td>言語・社会教育系</td><td>英語選修
〈小学校実践英語教育プログラム〉</td><td>調査書及び口述試験・面接の結果を総合して評価します。
〈口述試験〉英語技能を測る課題を提示し、その結果ならびにそれについて英語を含む質疑応答を通して、小学校での英語授業実践を行うための基礎的な知識・技能（言語表現力や論理的思考力などを含む）を評価します。（質疑を含めて20分程度）
〈面接〉個人面接を行い、「小学校実践英語教育プログラム」への関心、茨城県の教員を目指す意欲、小学校の英語教員としての適性（コミュニケーション能力を含む）などを評価します。（15分程度）なお、質疑応答は日本語で行います。</td></tr>
</table>

			理数教育系	理科選修 **〈小学校実践理科教育プログラム〉**	調査書及び口述試験・面接の結果を総合して評価します。 **〈口述試験〉**理科に関する課題を出し、その内容について質疑応答をして、理科授業実践を行うための基礎的な知識・技能（言語表現力や論理的思考力などを含む）を評価します。（質疑を含めて20分程度） **〈面接〉**個人面接を行い、「小学校実践理科教育プログラム」への関心、茨城県の教員を目指す意欲、小学校の理科教員としての適性（コミュニケーション能力を含む）などを評価します。（15分程度）
			技術教育系	技術選修 **〈プログラミング教育指導力養成プログラム〉**	調査書及び口述試験・面接の結果を総合して評価します。 **〈口述試験〉**プログラミング教育に関連する教科（数学・理科・英語・情報など）に関する課題を出し、その内容について質疑応答をして、小学校でプログラミング実践を行うための基礎的な知識・技能（言語表現力や論理的思考力などを含む）を評価します。（質疑を含めて25分程度） **〈面接〉**個人面接を行い、「プログラミング教育指導力養成プログラム」への関心、茨城県の教員を目指す意欲、小学校でプログラミングを指導する教員としての適性（コミュニケーション能力を含む）などを評価します。（15分程度）
		特別支援教育コース **〈外国にルーツのある子どもを含む学習困難児の教育支援プログラム〉** **〈特別支援教育プログラム〉**			調査書及びプレゼンテーション・面接の結果を総合して評価します。 **〈プレゼンテーション〉**設定されたテーマについて、出願時に選択した「地域教員希望枠のプログラム」と関連させながらプレゼンテーションの概要（「プレゼンテーション概要」）に基づいてプレゼンテーション（10分程度）を行い、その内容について質疑応答して、言語表現力や論理的思考力及び学校教育に対する関心・意欲を評価します。（質疑を含めて20分程度） 「プレゼンテーション概要」は出願時に提出を求めます。出願後は一切返却しませんので、必ずコピーを取っておいてください。 なお、試験当日は「プレゼンテーション概要」のコピー及び「その他の資料」（※）を持参し、使用しても構いません。「その他の資料」について、電子機器類の使用は認めませんが、それ以外の制限はありません。 **（「プレゼンテーション概要」の詳細はp.60に示します）** **〈面接〉**個人面接を行い、選択した「地域教員希望枠のプログラム」への関心、茨城県の教員を目指す意欲、小学校教員としての適性（コミュニケーション能力を含む）などを評価します。（15分程度） ※プレゼンテーションにおいて使用することができる「プレゼンテーション概要」のコピー以外の「その他の資料」について、ポスターなどを掲示する場合には2、3メートル離れた位置にいる面接員に見えるように配慮してください。また、面接員への配付物がある場合には5部用意してください。

③配点

学部	課程・コース等			調査書 (*1)	志願理由書 (*2)	プレゼンテーション	口述試験	面接	合計
教育学部	学校教育教員養成課程	教育実践科学コース		30	(*2)	60	−	60	150
		教科教育コース 言語・社会教育系	英語選修	30	(*2)	−	60	60	150
		教科教育コース 理数教育系	理科選修	30	(*2)	−	60	60	150
		教科教育コース 技術教育系	技術選修	30	(*2)	−	60	60	150
		特別支援教育コース		30	(*2)	60	−	60	150

(*1) は面接の参考資料としても利用することを表します。
(*2) は面接の参考資料として利用することを表します。

＜教育学部プレゼンテーション資料・プレゼンテーション概要について＞

お問い合わせは、裏表紙の「その他の問い合わせ先（教育学部実技検査等について）」をご確認ください。

◇学校教育教員養成課程 教育実践科学コース

○プレゼンテーション資料

学校教育教員養成課程教育実践科学コースでは、出願時に「プレゼンテーション資料」の提出を求めます。
「プレゼンテーション資料」は、以下の要領で作成、提出してください。

【作成要領】

ア） テーマは「いじめ・不登校対応と子どもの居場所づくりについて必要だと思うこと」です。「プレゼンテーション資料」は、必ず図表などを用いて作成し、内容に応じたタイトルを付けてください。

イ） 「プレゼンテーション資料」は、表紙を含めて、**A4サイズ５ページ以内**で作成してください。表紙には、テーマ、タイトル及び氏名を記載してください。

ウ） 「プレゼンテーション資料」はコピーしておき、試験当日に持参してください。受験時には、この「プレゼンテーション資料」のコピーのみを用いてプレゼンテーションを行ってください。

◇学校教育教員養成課程 特別支援教育コース

○プレゼンテーション概要

学校教育教員養成課程特別支援教育コースでは、出願時に以下のプログラムから１つを選択し、「プレゼンテーション概要」の提出を求めます。
「プレゼンテーション概要」は、それぞれの要領に従って作成、提出してください。

【作成要領】

＜外国にルーツのある子どもを含む学習困難児の教育支援プログラム＞

ア） テーマは「外国にルーツのある子どもを含めて、学校が多様な文化を受け入れるときに大切だと思うこと」についてです。このテーマについて、高等学校で行ってきた探究活動をふまえて、プレゼンテーションを行ってください。「高等学校で行ってきた探究活動」とは、必ずしも「総合的な探究の時間」に限らず、課外活動において行ったものでも構いません。また、探究活動は、外国にルーツのある子どもたちに直接関係する内容でなくても構いません。

イ） プレゼンテーションの概要（「プレゼンテーション概要」）を、**A4サイズ１ページ（様式自由）**で作成してください。「プレゼンテーション概要」には、選択したプログラム、プレゼンテーションの内容を表すタイトル、及び氏名を記載してください。

ウ） 試験当日は、「プレゼンテーション概要」のコピー及び「その他の資料」を持参し、使用しても構いません。「その他の資料」について、電子機器の使用は認めませんが、それ以外の制限はありません。ポスターなどを掲示する場合には２、３メートル離れた位置にいる面接員に見えるように配慮してください。また、面接員への配布物がある場合には、５部用意してください。

＜特別支援教育プログラム＞

ア） テーマは「障害のある子どもとコミュニケーションをとるときに大切だと思うこと」についてです。このテーマについて、高等学校で行ってきた探究活動をふまえて、プレゼンテーションを行ってください。「高等学校で行ってきた探究活動」とは、必ずしも「総合的な探究の時間」に限らず、課外活動において行ったものでも構いません。また、探究活動は、特別支援教育に直接関係する内容でなくても構いません。

イ） プレゼンテーションの概要（「プレゼンテーション概要」）を、**A4サイズ１ページ（様式自由）**で作成してください。「プレゼンテーション概要」には、選択したプログラム、プレゼンテーションの内容を表すタイトル、及び氏名を記載してください。

ウ） 試験当日は、「プレゼンテーション概要」のコピー及び「その他の資料」を持参し、使用しても構いません。「その他の資料」について、電子機器の使用は認めませんが、それ以外の制限はありません。ポスターなどを掲示する場合には２、３メートル離れた位置にいる面接員に見えるように配慮してください。また、面接員への配布物がある場合には、５部用意してください。

（2）工学部 都市システム工学科

都市システム工学科の総合型選抜では、建築デザインプログラムでの勉学を志望する者を募集しています。社会基盤デザインプログラムでの勉学を志望する者は、学校推薦型選抜で都市システム工学科に出願してください。なお、一般選抜（前期日程・後期日程）、私費外国人留学生選抜は、社会基盤デザインプログラム、建築デザインプログラムのどちらを志望する者でも出願することができます（p.17参照）。

①出願要件

学部	学科	出願要件
工学部	都市システム工学科	次の要件を全て満たし、合格した場合に必ず入学することを確約できる者 1）建築デザインプログラムでの勉学を強く志望する者(＊) 2）p.62に示す英語資格・検定試験の得点換算表の得点で50点以上を有する者 (＊)総合型選抜の合格者は、入学後、２年次のプログラム選択において優先的に建築デザインプログラムを選択できます。

【参考】都市システム工学科の学校推薦型選抜・総合型選抜における志望について

	社会基盤デザインプログラムでの勉学を志望する者	建築デザインプログラムでの勉学を志望する者
学校推薦型選抜	○	
総合型選抜		○

②選抜方法

学部	学科	選抜方法等
工学部	都市システム工学科	英語資格・検定試験、プレゼンテーション、面接及び口頭試問の結果を総合して評価します。 〈**プレゼンテーション**〉出願時に提出する活動報告書（＊）に示された建築デザインに関する活動内容を５分程度で発表してもらい、続く５分程度の質疑応答を通して、建築デザインプログラムで学修する熱意、積極性、継続する力を評価します。 発表では、紙面による説明資料の持ち込み並びに黒板等の使用を認めます（電子機器類及びその他資料等の持ち込み及び使用は認めません）。紙面による説明資料は、下記の条件をすべて満たすものとします。 ・模造紙大（790mm×1090mm）以内の大きさの表面１枚のみ ・文字の大きさは、５m離れた所から読める程度 ・文字、図表、絵等（手書きが望ましい）並びに写真、図面等を用いて構成されたもの ※持ち込み資料は、試験当日持参し、試験室にて提出してください。試験終了後、資料は返却しますので持ち帰ってください。 （＊）活動報告書には、以下のような活動から、１件を選択し活動内容の概要を記載してください。 ≪建築分野に関連する活動≫例えば次のような活動から１件 ・建築デザイン分野の向学心を示す活動（自由研究、作品制作を含む） ・まちづくり・地域づくりに対する向学心を示す活動の経験 ・芸術（工芸、美術、音楽、書道など）分野の能力又は向学心を示す活動（作品制作含む）の経験 ・自己アピールできるものと建築との関係をまとめた（自由研究含む）経験 〈**面接**〉志願理由書の記載内容及び調査書に基づく個人面接を10分程度で行い、建築デザインに対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。 〈**口頭試問**〉数学及び理科の基礎的な問題に対して15分程度の口頭試問を行い、基礎学力、思考力、判断力、表現力などの資質をみます。出題範囲は数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ（図形の性質、場合の数と確率）、数学Ｂ（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面））と理科（物理基礎、物理）とします。なお、口頭試問を行う前に、45分程度の解答方針作成の時間が与えられます。

③配点

調査書	活動 報告書	志願 理由書	英語資格・ 検定試験	プレゼンテーション	面接	口頭試問	合計
(*1)	(*2)	(*1)	100	200	100	200	600

(*1) は面接の参考資料として利用することを表します。
(*2) はプレゼンテーションの参考資料として利用することを表します。

④英語資格・検定試験得点換算表

得点	CEFR (※1)	ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ 英語検定 (※2)	実用英語 技能検定 (※3)	GTEC (※4)	IELTS (※5)	TEAP	TOEFL iBT (※6)	TOEIC L&R / TOEIC S&W (※7) (※8)
100点	C2 C1 B2	160以上	2,300以上	1,180以上	5.5以上	309以上	72以上	1,560以上
90点	B1	140以上	1,950以上	930以上	4.0以上	225以上	42以上	1150以上
70点	A2-3	130以上	1,825以上	820以上	−	180以上	−	888以上
60点	A2-2	125以上	1,763以上	755以上	−	158以上	−	756以上
50点	A2-1	120以上	1,700以上	680以上	−	135以上	−	625以上

以上の全ての**英語資格・検定試験については、令和６年度（2024年度）以降に受験した成績で、かつ、出願期間最終日に有効なオフィシャルスコアに限ります。**また、出願時にスコア証明書等の写しの提出を求めます。複数の英語資格・検定試験の成績を有している場合は、換算後の得点が最も高くなる１つを提出してください。

(※1) 本学では、CEFRレベルにおいて、A2レベル及びA1レベルをさらに細分化して標記しています。
(※2) ケンブリッジ英語検定では、**「リンガスキル（４技能CBT）」の受験成績は利用できません。**
(※3) 実用英語技能検定については、従来型の「英検」（本会場実施、準会場実施）に加え「英検S-CBT」の成績も利用できます。
(※4) GTEC（Core／Basic／Advancedタイプ及びCBTタイプ）の成績は、**オフィシャルスコアのみを認めます（OFFICIAL SCORE CERTIFICATEに限る）。「アセスメント版」での受験成績は利用できません。**
(※5) IELTSは「アカデミック・モジュール」に加え、「ジェネラル・トレーニング・モジュール」の成績も利用できます。
(※6) TOEFL iBTにおいて、**「My Best スコア」は利用できません。**
(※7) TOEIC（L&R/S&W）は、「公開テスト」を受験した成績に限ります。
(※8) TOEIC L&R(990点満点)/TOEIC S&W(400点満点)については、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にした合算スコアを利用します。なお、TOEIC L&RとTOEIC S&Wのうち、１つのみを受験し表中の得点を取得している場合も出願要件を満たしていることとします。

（3）農学部地域総合農学科 地域共生コース

①出願要件

学部	学科・コース		出願要件
農学部	地域総合農学科	地域共生コース	次の要件を全て満たし、合格した場合に必ず入学することを確約できる者 1）地域共生コースでの学修を強く志望する者 2）調査書の全体の学習成績の状況が3.8以上の者

②選抜方法

学部	学科・コース		選抜方法等
農学部	地域総合農学科	地域共生コース	面接及び集団討論の結果を総合して評価します。 〈**面接**〉個人面接（15分程度）を実施します。出願時に提出する「調査書」、「活動報告書（※１）」、「学修設計書（※２）」を参考に、地域の発展に貢献するための学修・活動経験、農業技術や政策に対する幅広い関心と学習意欲、論理的思考力などをみます。 （※１）活動報告書：これまでに地域の環境や社会問題に関連して行った活動について、600字以内で記載してください。報告書には、どのような活動を行ったか、どのような成果が得られたか、成果に対してどのように貢献したか、何を学んだかを含めて記載してください。 なお、参考資料として発表資料やプログラム等を一つのみ添付できます。 ＊活動の例：高校等での探究活動、研究発表、大会やコンテストへの参加、部活動、ボランティア活動 など （※２）学修設計書：入学後に何を学びたいか、どのように学びに取り組むか、卒業後に地域の環境・社会問題の解決にどのように取り組みたいかを含めて、800字以内で記載してください。 〈**集団討論**〉１グループを数名程度とし、「地域の環境問題や社会問題の解決に農業が貢献できること」に関する具体的な事例や課題を提示し、それに対する考えや解決策を問う問題を出題します。 受験者は、まず10分間、個人で声に出さずに提示された問題に対する「回答」を考えます。 その後、35分間の集団討論を実施します。集団討論では、最初に、グループの各人が順番に意見を２分程度で発表します。全員が最初の意見を述べた後、他の受験者の意見を踏まえ、自由に討論します。 集団討論後、各個人が30分間で、集団討論の内容を踏まえ、提示された問題に対する「回答」を400字以内で作成します。 集団討論では、グループで課題に取り組む協調性と意欲（他者の意見を尊重しつつ、問題解決に向けて、より良い解決策を述べることができるか等）をみます。また作成した「回答」では、農業の観点から、課題解決に向けた総合的な思考力（黙考と討論を経て導出された意見が多面的・論理的なものかどうか等）をみます。

③配点

学部	課程・コース		面接	集団討論	出願書類 （調査書・活動報告書・学修設計書）	合計
農学部	地域総合農学科	地域共生コース	50	50	（＊）	100

（＊）面接の参考として利用することを表します。

（4）地域未来共創学環

①出願要件

学部等	出願要件
地域未来共創学環	次の要件を全て満たし、地域未来共創学環での勉学を強く志望し、合格した場合に必ず入学することを確約できる者 1）社会課題の解決に対する深い関心をもち、以下（ⅰ）、（ⅱ）のうちいずれかの主体的な活動経験を有する者（活動については、学校の内外、また文系理系など分野を問わない。）(*1) （ⅰ）社会や地域と関わる活動 （ⅱ）データの分析や活用 2）調査書の全体の学習成績の状況が3.8以上の者で、かつ、数学の学習成績の状況が4.0以上の者 3）数学の教科で以下（ⅰ）、（ⅱ）のうちいずれかを履修した者又は履修している者(*2) （ⅰ）数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bの全ての科目 （ⅱ）理数数学Ⅰ、理数数学Ⅱの全ての科目 (*1) 出願要件1）は、自身が、主体性をもって活動をしたと説明できる活動であれば、内容を問いません。また、オンラインによる活動経験も含みます。 (*2) 出願要件3）の科目が出身校で履修できない場合は、出身校以外で履修しても出願要件を満たすこととします。なお、数学の学習成績の状況等の取り扱いについては、出願受付期間開始日の1か月前までに入試・高大連携課へ問い合わせてください。

②選抜方法

学部等	選抜方法等
地域未来共創学環	集団活動及び面接の結果を総合して評価します。 〈**集団活動**〉1グループを5人程度とし、グループワーク（60分程度）を実施します。提示された社会や地域の課題について議論し、その結果を取りまとめ、ホワイトボードや模造紙等にまとめます。その後、30分間でグループワークを振り返った「作文」を各自で作成します。なお、グループワークでは、主に、基礎的な思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力、他者と協働する力、課題解決に向けた意欲や主体性を評価します。 〈**面接**〉個人面接（15分程度）で行います。出願時に提出した「志願理由書（＊）」、「調査書」及び集団活動の際に作成した「作文」を参考に、志望動機、本学環で学ぶことへの学習意欲、社会や地域の課題への関心などをみることを主眼とします。 （＊）志願理由書には、本学環を志望する理由のほかに、主体的な活動経験（社会や地域と関わる活動、又はデータの分析や活用。これらの活動は、学校の内外、また文系理系など分野を問わない。）とその活動を通して学んだこと等の記載も求めます。

③配点

集団活動	面接	出願書類 （志願理由書・調査書）	合計
40(*1)	60	(*2)	100

(*1) 集団活動の際に作成した「作文」は面接の参考資料として利用し、点数化はしません。

(*2) 面接の参考資料として利用することを表します。

Ⅴ．学校推薦型選抜（一般推薦、専門高校推薦）

１．選抜日程及び注意事項

次の日程で試験を実施します。

出願期間	令和８年11月３日（火）から11月５日（木）まで
試験期日	令和８年11月21日（土）
合格者発表日	令和８年12月４日（金）

【学校推薦型選抜を実施する学部、学科・課程等】

- 人文社会科学部　現代社会学科、法律経済学科、人間文化学科
- 教育学部　学校教育教員養成課程　教育実践科学コース
  教科教育コース
  言語・社会教育系　国語選修、社会選修、英語選修
  理数教育系　数学選修、理科選修
  音楽教育系　音楽選修
  美術教育系　美術選修
  保健体育教育系　保健体育選修
  技術教育系　技術選修
  生活科学教育系　家庭選修
  特別支援教育コース
  養護教諭養成課程
- 理学部　理学科　数学・情報数理コース、物理学コース、化学コース、生物科学コース、地球環境科学コース
- 工学部　機械システム工学科、電気電子システム工学科、物質科学工学科、情報工学科、都市システム工学科
- 農学部　食生命科学科
  地域総合農学科　応用植物科学コース、地域共生コース

【注意事項】

（１）国公立大学の学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課す場合、課さない場合を含む）への出願は、一つの大学・学部に限られます。複数の大学・学部への出願は認められません。

（２）出願要件に定める学習成績の状況については、調査書に記載された数値〔評定の合計数を評定数で除し、小数点以下第２位を四捨五入〕とします。

（３）スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業等により、本学が出願要件として指定する「履修した（している）教科・科目」と名称は異なるが、それに相当する教科・科目を設定している場合は、その対応関係を調査書の備考欄に記載してください。なお、記載しきれない場合は、対応関係を記載した別紙を付けてください。

（４）本学の学校推薦型選抜では、大学入学共通テストを課しません。

（５）本学の各学部、学科・課程等が課す小論文、個別テスト、面接、プレゼンテーション及び実技検査等の結果を総合して評価します。なお、それぞれが課す**小論文、個別テスト、面接、プレゼンテーション及び実技検査等のうち一つでも受験しなかった者は、合否の判定対象にはなりません**。

２．出願資格

次の各号のいずれかに該当する者で、合格した場合に必ず入学することを確約できる者とします。なお、専門高校推薦の出願資格については、３．（２）専門高校推薦（p.86～92）の各学部「出願要件」欄に示します。

（１）高等学校（中等教育学校を含む）を令和８年３月以降に卒業した者及び令和９年３月卒業見込みの者
（２）通常の課程による12年の学校教育を令和８年３月以降に修了した者及び令和９年３月修了見込みの者
（３）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を、令和７年４月から令和８年３月までに修了した者及び令和８年４月から令和９年３月までに修了又は修了見込みの者

３．出願要件・選抜方法・配点等

（１）一般推薦

１）人文社会科学部

①出願要件

学部	学科	出願要件
人文社会科学部	現代社会学科	学力、人物ともに優れ、調査書の全体の学習成績の状況が4.0以上の者で、現代社会学科の教育研究分野を真摯に学習する意欲があり、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ※校長が推薦できる人数に制限はありません。 ※英語資格・検定試験及びその他の資格・検定試験（p.68参照）は出願要件ではありませんので、それらの成績を取得していなくても出願することができます。
	法律経済学科	学力、人物ともに優れ、調査書の全体の学習成績の状況が3.8以上の者で、法律経済学科の教育研究分野を真摯に学習する意欲があり、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ※校長が推薦できる人数に制限はありません。 ※英語資格・検定試験及びその他の資格・検定試験（p.68参照）は出願要件ではありませんので、それらの成績を取得していなくても出願することができます。
	人間文化学科	学力、人物ともに優れ、調査書の全体の学習成績の状況が4.0以上の者で、人間文化学科の教育研究分野を真摯に学習する意欲があり、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ※校長が推薦できる人数は、１校につき３人までとします。 ※英語資格・検定試験（p.68参照）は出願要件ではありませんので、それらの成績を取得していなくても出願することができます。

②選抜方法

学部	学科	選抜方法等
人文社会科学部	現代社会学科	調査書、資格・検定試験、小論文及び面接の結果を総合して評価します。 〈**調査書及び資格・検定試験**〉調査書は調査書全体の内容を評価します。資格・検定試験は、調査書の配点の一部として評価します。評価する資格・検定試験の詳細は、p.67の別表を参照してください。 〈**小論文**〉（※1） 現代社会学科で学ぶために必要な基礎的能力（読解力、表記能力、論理的思考力、表現力など）をみるために、ひろく社会科学に関連するまとまった内容をもつ英文を示し、それについてのいくつかの日本語による設問に日本語で解答させます。解答は合計600字から800字程度です。 〈**面接**〉個人面接とし、１人あたり10～15分間程度を予定しています。調査書・志願理由書をもとに、高等学校等での授業外の活動経験（※2）、志望動機、現代社会学科の教育研究分野への学習意欲・適性等をみます。さらに、これらに関する表現力もみます。

	法律経済学科	調査書、資格・検定試験、小論文及び面接の結果を総合して評価します。 〈**調査書及び資格・検定試験**〉調査書は調査書全体の内容を評価します。資格・検定試験は、調査書の配点の一部として評価します。評価する資格・検定試験の詳細は、p.67の別表を参照してください。 〈**小論文**〉（※1） 法律経済学科で学ぶために必要な基礎的能力（読解力、表記能力、論理的思考力、表現力など）をみるために、ひろく社会科学に関連するまとまった内容をもつ英文を示し、それについてのいくつかの日本語による設問に日本語で解答させます。解答は合計600字から800字程度です。 〈**面接**〉個人面接とし、１人あたり10～15分間程度を予定しています。調査書・志願理由書をもとに、高等学校等での授業外の活動経験（※2）、志望動機、法律経済学科の教育研究分野への学習意欲・適性等をみます。さらに、これらに関する表現力もみます。
	人間文化学科	調査書、資格・検定試験、小論文及び面接の結果を総合して評価します。 〈**調査書及び資格・検定試験**〉調査書は調査書全体の内容を評価します。資格・検定試験は、調査書の配点の一部として評価します。評価する資格・検定試験の詳細は、p.67の別表を参照してください。 〈**小論文**〉人間文化学科で学ぶために必要な基礎的能力（読解力、表記能力、論理的思考力、表現力など）をみるために、ひろく人文科学に関連するまとまった内容をもつ文章等を示し、それについてのいくつかの設問に解答させます。解答は合計600字程度です。 〈**面接**〉個人面接とし、１人あたり10～15分間程度を予定しています。調査書・志願理由書をもとに、高等学校等での授業外の活動経験（※2）、志望動機、人間文化学科の教育研究分野への学習意欲・適性等をみます。さらに、これらに関する表現力もみます。

（※1）人文社会科学部現代社会学科及び法律経済学科で課す「小論文」は、両学科で共通の試験問題です。
（※2）「授業外の活動経験」には、生徒会役員等としての活動、部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等、取得資格・検定等、表彰・顕彰等、その他の記録が該当します。

③配点

学部	学科	調査書	推薦書	志願理由書	資格・検定試験等	面接	小論文	合計
人文社会科学部	現代社会学科	10（*1）	（*2）	（*3）	（*4）	30	60	100
	法律経済学科	20（*1）	（*2）	（*3）	（*4）	20	60	100
	人間文化学科	20（*1）	（*2）	（*3）	（*4）	20	60	100

（*1）は面接の参考資料としても利用することを表します。
（*2）は出願要件等の確認のために提出を求めるものを表します。
（*3）は面接の参考資料として利用することを表します。
（*4）は面接の参考資料としても利用することを表します。出願要件ではありませんので、それらの成績を取得していなくても出願することができます。なお、調査書の配点に含みます。

＜別表＞

○人文社会科学部　各学科で評価する資格・検定試験の内訳

評価する資格・検定試験の成績は、高等学校等入学以降、出願時点までに受験した成績に限ります。また、出願時に、スコア証明書等の写しの提出を求めます。なお、ここに記載する資格・検定試験で選択した資格・検定試験の種類によって評価が変わることはありません。

学科	英語資格・検定試験	その他の資格・検定試験	摘要
現代社会学科	○	○	「英語資格・検定試験」、「その他の資格・検定試験」から、それぞれ１つを評価します。
法律経済学科	○		「英語資格・検定試験」又は「その他の資格・検定試験」から、１つを評価します。
人間文化学科	○	×	「英語資格・検定試験」から１つを評価します。

評価する資格・検定試験の成績は以下のとおりです。

[英語資格・検定試験]

＜全学科共通＞

CEFR	ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ英語検定（※1）	実用英語技能検定（※2）	GTEC（※3）	IELTS（※4）	TEAP	TOEFL iBT（※5）	TOEIC L&R / TOEIC S&W（※6）（※7）
B1以上	140以上	1,950以上	930以上	4.0以上	225以上	42以上	1,150以上

（※1）ケンブリッジ英語検定では、**「リンガスキル（4技能CBT）」の受験成績は利用できません。**
（※2）実用英語技能検定については、従来型の「英検」（本会場実施、準会場実施）に加え、「英検S-CBT」の成績も利用できます。
（※3）GTEC（Core／Basic／Advancedタイプ及びCBTタイプ）の成績は、**オフィシャルスコアのみを認めます（OFFICIAL SCORE CERTIFICATEに限る）。「アセスメント版」での受験成績は利用できません。**
（※4）IELTSは「アカデミック・モジュール」に加え、「ジェネラル・トレーニング・モジュール」の成績も利用できます。
（※5）TOEFL iBTにおいて、**「My Best スコア」は利用できません。**
（※6）TOEIC（L&R/S&W）は、**「公開テスト」を受験した成績に限ります。**
（※7）TOEIC L&R（990点満点）/TOEIC S&W（400点満点）については、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にした合算スコアを利用します。

[その他の資格・検定試験]

＜現代社会学科＞

・日本漢字能力検定試験（CBTを含む）・・・２級以上
・実用数学技能検定試験　・・・・準１級以上
・統計検定試験　・・・・・・・・３級以上（CBTを含む）、統計調査士、専門統計調査士のいずれか
・基本情報技術者試験
・ITパスポート試験
・国際バカロレア資格（ディプロマ・プログラム）

＜法律経済学科＞

・日商簿記検定試験　・・・・・２級以上
・全商簿記実務検定試験　・・・１級
・基本情報技術者試験
・ITパスポート試験
・全商情報処理検定試験　・・・１級

2）教育学部

①出願要件

<table>
<tr><th colspan="4">学部</th><th colspan="2">課程・コース等</th><th>出願要件</th></tr>
<tr><td colspan="4" rowspan="14">教育学部</td><td colspan="7">次の各課程・コース等の固有の要件をすべて満たし、学業成績が優秀と認められ、かつ、教職を目指す意欲があり、出身校の校長が責任をもって推薦できる者

※校長が推薦できる人数は、以下の表に示す各募集単位（課程、コース又は選修）とも制限はありません。</td></tr>
<tr><td rowspan="12">学校教育教員養成課程</td><td colspan="2">教育実践科学コース</td><td></td><td>調査書の全体の学習成績の状況が3.5以上</td></tr>
<tr><td rowspan="11">教科教育コース</td><td rowspan="3">言語・社会教育系</td><td>国語選修</td><td>①調査書の全体の学習成績の状況が3.5以上
②調査書の国語の学習成績の状況が4.0以上</td></tr>
<tr><td>社会選修</td><td>調査書の全体の学習成績の状況が3.5以上</td></tr>
<tr><td>英語選修</td><td>①調査書の全体の学習成績の状況が3.5以上
②調査書の英語の学習成績の状況が4.0以上
③p.70の別表に示す英語資格・検定試験のいずれかで基準（CEFRのB1以上）を満たす者</td></tr>
<tr><td rowspan="2">理数教育系</td><td>数学選修</td><td>①調査書の全体の学習成績の状況が4.2以上
②調査書の数学の学習成績の状況が4.5以上</td></tr>
<tr><td>理科選修</td><td>①調査書の全体の学習成績の状況が3.5以上
②調査書の理科及び数学の各教科の学習成績の状況がともに4.0以上</td></tr>
<tr><td>音楽教育系</td><td>音楽選修</td><td>①調査書の全体の学習成績の状況が3.5以上
②音楽の分野において優秀と認められる者</td></tr>
<tr><td>美術教育系</td><td>美術選修</td><td>①調査書の全体の学習成績の状況が3.5以上
②美術の分野において優秀と認められる者</td></tr>
<tr><td>保健体育教育系</td><td>保健体育選修</td><td>①調査書の全体の学習成績の状況が3.5以上
②保健体育の分野において優秀と認められ、かつ、運動実技で全国大会に出場又はそれに準ずる成績を有する者（※1）</td></tr>
<tr><td>技術教育系</td><td>技術選修</td><td>調査書の全体の学習成績の状況が3.5以上</td></tr>
<tr><td>生活科学教育系</td><td>家庭選修</td><td>調査書の全体の学習成績の状況が3.5以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">特別支援教育コース</td><td></td><td>調査書の全体の学習成績の状況が3.8以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">養護教諭養成課程</td><td></td><td>調査書の全体の学習成績の状況が4.0以上</td></tr>
</table>

（※1）学校教育教員養成課程 教科教育コース 保健体育教育系 保健体育選修の出願要件でいう「全国大会」とは、インターハイや国体等、各競技団体等主催の全国大会を指しますが、全国規模での選抜チーム代表としての試合出場も対象とします。また、「準ずる成績」とは、ブロック大会（関東大会、東北大会など）やブロック又は県選抜チーム代表としての出場成績も含みます。**出願書類と併せて特技とする運動種目の成績・記録を証明できる資料等を必要とします。なお、ここでの運動特技は志願者本人のプレーヤーとしての競技実績を指し、マネージャーやアシスタントコーチといったサポートスタッフ等としての貢献は運動特技に含みません。**

＜別表＞

○教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育コース 言語・社会教育系 英語選修の出願要件

英語資格・検定試験の成績は、高等学校等入学以降、出願時点までに受験した成績に限ります。また、出願時に、スコア証明書等の写しの提出を求めます。

CEFR	ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ 英語検定 （※1）	実用英語 技能検定 （※2）	GTEC （※3）	IELTS （※4）	TEAP	TOEFL iBT （※5）	TOEIC L&R/ TOEIC S&W （※6）（※7）
B1以上	140以上	1,950以上	930以上	4.0以上	225以上	42以上	1,150以上

（※1）ケンブリッジ英語検定では、**「リンガスキル（4技能CBT）」の受験成績は利用できません。**
（※2）実用英語技能検定については、従来型の「英検」（本会場実施、準会場実施）に加え、「英検S-CBT」の成績も利用できます。
（※3）GTEC（Core／Basic／Advancedタイプ及びCBTタイプ）の成績は、**オフィシャルスコアのみを認めます（OFFICIAL SCORE CERTIFICATEに限る）。「アセスメント版」での受験成績は利用できません。**
（※4）IELTSは「アカデミック・モジュール」に加え、「ジェネラル・トレーニング・モジュール」の成績も利用できます。
（※5）TOEFL iBTにおいて、**「My Best スコア」は利用できません。**
（※6）TOEIC（L&R/S&W）は、**「公開テスト」を受験した成績に限ります。**
（※7）TOEIC L&R（990点満点）/TOEIC S&W（400点満点）については、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にした合算スコアを利用します。

②選抜方法

<table>
<tr><th>学部</th><th colspan="4">課程・コース等</th><th>選抜方法等</th></tr>
<tr><td rowspan="4">教育学部</td><td rowspan="4">学校教育教員養成課程</td><td colspan="3">教育実践科学コース</td><td>調査書及びプレゼンテーションの結果を総合して評価します。
〈プレゼンテーション〉高等学校等までの学習で理解できる現代の教育問題について、「プレゼンテーション資料」に基づいてプレゼンテーション（８分程度）を行い、その内容について質疑応答をします。質疑応答を含めた試験時間は15分程度とします。本コースで学ぶために必要な能力（分析力、判断力、論理構成力、表現力等）をみることを主眼とします。
「プレゼンテーション資料」は出願時に提出を求めます。出願後は一切返却しませんので、必ずコピーを取っておき、試験当日に持参（※1）してください。なお、試験当日は黒板等に板書しても構いませんが、電子機器類の使用は認めません。
（「プレゼンテーション資料」の詳細はp.75に示します）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教科教育コース</td><td rowspan="3">言語・社会教育系</td><td>国語選修</td><td>調査書、小論文及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して評価します。
〈小論文〉本選修で学ぶのに必要な能力（論理構成力、表現力等）をみることを主眼とします。課題を与えて論述させます。字数は800字程度です。
〈面接〉個人面接（10分程度）。志望動機、教育・国語教育に対する関心、学習意欲、学習状況、表現力などをみることを主眼とします。</td></tr>
<tr><td>社会選修</td><td>調査書、小論文及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して評価します。
〈小論文〉社会選修で学ぶのに必要な能力（教科についての関心とその内容の探究に必要な思考力・判断力・表現力等）をみることを主眼とします。課題を与えて論述させます。字数は800字程度です。
〈面接〉個人面接（10分程度）。履修した地理歴史科・公民科の学習内容及び「調査・研究活動に関する報告書」についての質問を含みます。志望動機、教育・社会科教育に対する関心、学習意欲などをみることを主眼とします。
（「調査・研究活動に関する報告書」の詳細はp.73に示します）</td></tr>
<tr><td>英語選修</td><td>調査書及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して評価します。
〈面接〉個人面接（15分程度）。学習意欲、日本語及び英語の表現力などをみることを主眼とします。
なお、英語による質疑応答を含みます。</td></tr>
</table>

（※1）学校教育教員養成課程 教育実践科学コースのプレゼンテーションで受験者が当日使用できる資料は、出願時に提出した「プレゼンテーション資料」のコピーのみとなります。

学部	課程・コース等				選抜方法等
教育学部	学校教育教員養成課程	教科教育コース	理数教育系	数学選修	調査書及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して評価します。 〈**面接**〉個人面接（10～15分程度）。数学の基本的事項に関する知識、理解力、数学教育に対する学習意欲、自己表現力等をみることを主眼とします。 口頭試問の解答時には、黒板等への記述を求める場合があります。
				理科選修	調査書及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して評価します。 〈**面接**〉個人面接（10分程度）。志望動機、表現力、理科及び理科教育に対する知識・関心、学習意欲などをみることを主眼とします。
			音楽教育系	音楽選修	調査書、実技検査（音楽）及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して評価します。 〈**面接**〉個人面接（10分程度）。学習意欲と自己表現力、専門に関わる基礎的学力、コミュニケーション能力等をみることを主眼とします。 〈**実技検査（音楽）**〉**課題はp.72～73に示します。**
			美術教育系	美術選修	調査書、「ポートフォリオ、付属資料１点」及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して評価します。 〈**面接**〉個人面接（20分程度）。提出された「ポートフォリオ」、「付属資料１点」を参考にして本選修志願理由、意欲、適性、将来性、コミュニケーション能力、高等学校等での学習状況をみることを主眼とします。 （「**ポートフォリオ、付属資料１点**」**の詳細はp.74に示します**）
			保健体育教育系	保健体育選修	調査書、「運動特技に関する調書」及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して評価します。 〈**面接**〉個人面接（10分程度）。志望動機、学習意欲、教員としての資質・能力・適性及び高等学校等卒業までの学習状況等を評価します。 （「**運動特技に関する調書**」**の詳細はp.73に示します**）
			技術教育系	技術選修	調査書及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して評価します。 〈**面接**〉個人面接（20～30分程度）。中学校技術科の教員を目指す意欲、教員としての資質・能力・適性等の素養をみます。同時に口頭試問では、高等学校等で履修した範囲で、数学・理科・英語の基礎学力について問います。口頭試問の解答時には、黒板等への記述を求める場合があります。
			生活科学教育系	家庭選修	調査書及びプレゼンテーションの結果を総合して評価します。 〈**プレゼンテーション**〉高等学校等までの学習で理解できる生活にかかわる問題について、「プレゼンテーション資料」に基づいてプレゼンテーション（５分程度）を行い、その内容について質疑応答をします。質疑応答を含めた試験時間は10～15分程度とします。本選修で学ぶために必要な能力（分析力、判断力、論理的構成力、表現力等）をみることを主眼とします。 「プレゼンテーション資料」は出願時に提出を求めます。出願後は一切返却しませんので、必ずコピーを取っておき、試験当日に持参（※2）してください。なお、当日は黒板等に板書しても構いませんが、電子機器類の使用は認めません。 （「**プレゼンテーション資料**」**の詳細はp.75に示します**）

（※2）学校教育教員養成課程 教科教育コース生活科学教育系 家庭選修のプレゼンテーションで受験者が当日使用できる資料は、出願時に提出した「プレゼンテーション資料」のコピーのみとなります。

学部	課程・コース等		選抜方法等
教育学部	学校教育教員養成課程	特別支援教育コース	調査書及びプレゼンテーションの結果を総合して評価します。 〈**プレゼンテーション**〉「活動報告・資料」に基づいて、プレゼンテーション（５分程度）を行い、その内容について質疑応答をします。質疑応答を含めた試験時間は10～15分程度とします。志願者の意欲と適性、自己表現力、高等学校等在籍時の活動内容について評価します。「活動報告・資料」は出願時に提出を求めます。出願後は一切返却しませんので、必ずコピーを取っておいてください。 なお、試験当日は「活動報告・資料」のコピー及び「その他の資料」（※3）を持参し、使用しても構いません。「その他の資料」について、電子機器類の使用は認めませんが、それ以外の制限はありません。 （**「活動報告・資料」の詳細はp.73に示します**）
	養護教諭養成課程		調査書及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して評価します。 〈**面接**〉集団面接（１グループ50分程度）で課題についての討論と質疑を行います。高等学校等卒業程度に求められる国内外の自然的、人間的及び社会的諸事象への関心とそれらへの分析力、判断力及び養護教諭としての適性について評価します。その際、提出された「活動報告・資料」を参考とします。新聞やテレビ・ラジオなどのニュースで話題となる事象を中心とします。集団面接は４～８人程度で行います。ただし、受験者数により変更する場合があります。 （**「活動報告・資料」の詳細はp.74に示します**）

（※3）学校教育教員養成課程特別支援教育コースのプレゼンテーションにおいて使用することができる「活動報告・資料」のコピー以外の「その他の資料」について、ポスターなどを掲示する場合には２、３メートル離れた位置にいる面接員に見えるように配慮してください。また、面接員への配付物がある場合には５部用意してください。

＜教育学部実技検査等の課題＞

お問い合わせは、裏表紙の「その他の問い合わせ先（教育学部実技検査等について）」をご確認ください。

❶＜実技検査（音楽）＞

◇学校教育教員養成課程 教科教育コース 音楽教育系 音楽選修

音楽の基礎的能力と表現力をみることを主眼とします。課題は以下のとおりとします。

１．共通課題（全員受験すること。楽譜を見て演奏してもよい）	
１）ソルフェージュ	ア）聴音　８小節の単旋律を書き取らせる。 イ）コールユーブンゲン第１巻原書番号60番から85番中、当日２曲を指定する。 ただし、数字譜及び音階練習は除く。唱法は、移動ド唱法又は固定ド唱法とする。
２）ピアノ練習曲	ア）ピアノ練習曲１（「２．選択課題」からB、C、D、Eを選んだ者） Ｊ．Ｓ．バッハ 作曲「二声インヴェンション」より任意の１曲を演奏する。 イ）ピアノ練習曲２（「２．選択課題」からAを選んだ者） Ｊ．Ｓ．バッハ 作曲「三声シンフォニア」より任意の１曲を演奏する。
２．選択課題（次のA、B、C、D、Eのいずれか一つを選択し、暗譜で演奏する）	
A．ピアノ	ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、ウェーバー、シューベルト、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、リスト、ブラームス、フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、スクリャービン、ラフマニノフ、プロコフィエフの作品より10分以内の任意の楽曲を１曲演奏する。 ※楽譜は、氏名及び作曲者名を１頁目の余白に明記し、A3横置き判１部（コピー可）を出願書類と併せて提出すること。
B．声楽	任意の声楽曲を１曲演奏する。伴奏はつけない。開始音を与える。 ※楽譜は、氏名を１頁目の余白に明記し、A3横置き判１部（コピー可）を出願書類と併せて提出すること。

C．管楽器	楽器はフルート、オーボエ、クラリネット、サキソフォーン、ファゴット、トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバの中より、一つを選択すること。５分程度の任意の楽曲を１曲演奏する。伴奏はつけない。 ※楽器は当日各自持参すること。楽譜（パート譜が望ましい）は、氏名及び楽器名を１頁目の余白に明記し、A3横置き判１部（コピー可）を出願書類と併せて提出すること。
D．弦楽器	楽器はヴァイオリン又はチェロのいずれかを選択すること。５分程度の任意の楽曲を１曲演奏する。伴奏はつけない。 ※楽器は当日各自持参すること。楽譜（パート譜が望ましい）は、氏名及び楽器名を１頁目の余白に明記し、A3横置き判１部（コピー可）を出願書類と併せて提出すること。
E．打楽器	楽器はマリンバとする。５分程度の任意の楽曲を１曲演奏する。伴奏はつけない。 ※マリンバ（Ｆ～Ｆの５オクターヴ）は本学で用意するが、マレットは当日各自持参すること。楽譜は、氏名を１頁目の余白に明記し、A3横置き判１部（コピー可）を出願書類と併せて提出すること。

（注意）１．共通課題及び選択課題は、曲の一部の省略を求めることがあります。なお、繰り返しは省略します。
２．入学後、選択課題と同一の研究分野を引き続き履修できるとは限りません。

❷＜運動特技に関する調書＞

◇学校教育教員養成課程 教科教育コース 保健体育教育系 保健体育選修

学校教育教員養成課程教科教育コース保健体育教育系保健体育選修では、出願時に「運動特技に関する調書」の提出を求めます。

「運動特技に関する調書」は、志願者の運動特技について出身学校の担当者（保健体育主任又は担当顧問教員等の指導的な立場にある者）が責任をもって記入してください。

また、競技経験等のうち競技成績を裏付ける客観的な資料を添付してください。なお、ここでの運動特技は志願者本人のプレーヤーとしての競技実績（＊）を指し、マネージャーやアシスタントコーチといったサポートスタッフ等としての貢献は運動特技に含みません。

（＊）団体競技などチームで行う活動の場合は、チームの競技実績に加え、チーム内における志願者本人の役割・実績等を具体的に記入してください。

❸＜調査・研究活動に関する報告書＞

◇学校教育教員養成課程 教科教育コース 言語・社会教育系 社会選修

学校教育教員養成課程教科教育コース言語・社会教育系社会選修では、出願時に「調査・研究活動に関する報告書」の提出を求めます。

「調査・研究活動に関する報告書」とは、志願者による社会科あるいは地理歴史科及び公民科の内容に関わる調査や研究等の活動をまとめたファイルのことです。**A4サイズ３ページ以内**に自由な形式でまとめてください。文章が中心となる場合には１ページ1,000字程度を基準としてください。

なお、表紙、目次の作成は任意ですが、作成した場合は、ページ数に含みます。

※上記「調査・研究活動」とは、志願者の高等学校在学時における高等学校内外（授業等を含む）での諸活動を指します。社会的事象に関連する調査・研究活動であれば、志願者個人で自主的に取り組んだ活動のほか、授業や夏休みの課題などで取り組んだ活動でも構いません。ただし、グループや組織による活動の場合は、志願者個人が果たした役割・成果等を具体的に記入してください。

❹＜活動報告・資料＞

◇学校教育教員養成課程 特別支援教育コース

学校教育教員養成課程特別支援教育コースでは、出願時に「活動報告・資料」の提出を求めます。

「活動報告・資料」とは、志願者の高等学校等在籍時の活動をまとめたファイルのことです。資料（原本が提出不可能な場合はコピーでも可）を含めて、**A4サイズ８ページ以内**に自由な形式でまとめてください。文章が中心となる場合には１ページ1,000字程度を基準としてください。

なお、表紙、目次の作成は任意ですが、作成した場合は、ページ数に含みます。

※上記「活動報告・資料」の内容は、障害児・者に関わる具体的な活動・経験あるいは調査・研究などであり、特定の社会的評価や資格等の有無は問いません。ただし、グループや組織で行った活動・経験あるいは調査・研究については、志願者個人が果たした役割・実績等を具体的に記入してください。

※上記「活動報告・資料」以外の「その他の資料」について、ポスターなどを掲示する場合には２、３メートル離れた位置にいる面接員に見えるように配慮してください。また、面接員への配付物がある場合には５部用意してください。

◇養護教諭養成課程

養護教諭養成課程では、出願時に「活動報告・資料」の提出を求めます。

「活動報告・資料」とは、志願者の高等学校等内又は学校外での活動をまとめたファイルのことです。

資料（原本が提出不可能な重要な資料についてはコピーも可）を含めて、**A4サイズ３ページ以内**に自由な形式でまとめてください。文章が中心となる場合には１ページ1,000字程度を基準としてください。

なお、表紙、目次の作成は任意ですが、作成した場合は、ページ数に含みます。

※上記「活動報告・資料」の内容は、部活動、生徒会活動、その他の学校内外での文化活動、地域活動、ボランティア活動、製作・発表活動等の実績であり、特定の社会的評価や資格等の有無は問いません。ただし、グループや組織による活動の場合は、志願者個人が果たした役割・実績等を具体的に記入してください。

❺＜ポートフォリオ、付属資料１点＞

◇学校教育教員養成課程 教科教育コース 美術教育系 美術選修

学校教育教員養成課程教科教育コース美術教育系美術選修では、出願時に「ポートフォリオ」及び「付属資料１点」の提出を求めます。

「ポートフォリオ」とは、志願者が高等学校等内又は学校外での学習・美術に関わる活動内容を自ら構成したファイルのことです。これまで自分が取り組んできた学習・美術に関わる活動内容や成果物（作品等）の紹介、それを大学でどのように深め広げて大学の学習・研究活動に活かしていきたいか等を、**A4サイズ10ページ以内**に自由な形式で分かりやすくまとめ構成してください。

ただし、文章が中心になる場合には、１ページ1,000字程度を基準とします。

なお、表紙、目次の作成は任意ですが、作成した場合は、ページ数に含みます。

※上記「学習・美術に関わる活動内容」とは、主に高校生活又はその周辺での学習活動（生徒会、部活動、美術教育支援、造形活動支援、ボランティア等）や表現活動（美術、芸術、映像、企画運営、作品発表等）であり、特定の社会的評価や資格等の有無は問いません。

「付属資料１点」とは、上記「ポートフォリオ」に記載されている活動内容の中で、志願者のこれまでの活動を代表する作品等の資料のことです。「付属資料１点」については、次のいずれかにより提出してください。

◇作品等の場合

・平面、立体を問わず、大きさの規定はありません。ただし、梱包して送付、移動が可能なものに限ります。
・梱包後、３辺合計260cm又は重さ25kgを超える場合は、必ずA4サイズの写真で提出してください。立体作品の場合は、多方向からの撮影により写真が複数枚になっても結構です。
・提出作品に直接ガムテープ等を貼らないようご注意ください。
・送付、移動の際に破損の恐れのある作品の場合、また、安全管理及び保健衛生上支障のある作品の場合は、大きさを問わず写真で提出してください。
・その他、送付、移動が困難な作品であると判断する場合は、写真で提出して構いません。
・写真の提出により不利になることはありません。

◇映像・音声資料の場合

CD-R、DVD-R、USBメモリ等の媒体に記録され、再生時間５分以内のもの。

データファイルとして提出する場合は、できる限り以下のデータ形式で記録してください。

・静止画の場合　jpegフォーマット
・動画の場合　　MPEG４形式
・音声の場合　　WAV又はAIFF形式

選択した記録媒体及びデータ形式が、市販の再生機器で正常に再生できることを、提出前に確認してください。

※データファイルで提出の場合は、再生環境等について大学から志願者へ問い合わせることがあります。

◇文章主体の資料の場合

・企画運営報告書等で冊子としてまとまっている場合は１冊提出してください。
・書き下ろしの場合はレポート用紙に8,000字以内で提出してください。

❻＜プレゼンテーション資料＞

◇学校教育教員養成課程 教育実践科学コース

学校教育教員養成課程 教育実践科学コースでは、出願時に「プレゼンテーション資料」の提出を求めます。「プレゼンテーション資料」は、以下の要領で作成、提出してください。

ア）今回のプレゼンテーションの題目は「コミュニケーション力を高める教育」です。「プレゼンテーション資料」は必ず図表などを用いて作成し、内容に応じたタイトルを付けてください。
イ）「プレゼンテーション資料」は、表紙を含めて、**A4サイズ５ページ以内**で作成してください。表紙には、テーマ、タイトル、氏名及び学校名を記載してください。
ウ）「プレゼンテーション資料」はコピーしておき、試験当日に持参してください。受験時には、この「プレゼンテーション資料」のコピーのみを用いてプレゼンテーションを行ってください。

◇学校教育教員養成課程 教科教育コース 生活科学教育系 家庭選修

学校教育教員養成課程教科教育コース生活科学教育系家庭選修では、出願時に「プレゼンテーション資料」の提出を求めます。

「プレゼンテーション資料」は、以下の要領で作成、提出してください。
ア）テーマは「生活にかかわる問題」についてです。「生活にかかわる問題」とは、現代社会における衣食住、家庭・子ども、高齢者・福祉、消費生活・環境などをめぐり生じている生活問題を指します。「生活にかかわる問題」から１つを取り上げ、志願者の視点から課題を設定し、その問題状況について説明するための「プレゼンテーション資料」を作成してください。「プレゼンテーション資料」は必ず図表などを用いて作成し、内容に応じたタイトルを付けてください。
イ）「プレゼンテーション資料」は、表紙を含めて、**A4サイズ５ページ以内**で作成してください。表紙には、テーマ、タイトル、氏名及び学校名を記載してください。
ウ）「プレゼンテーション資料」はコピーしておき、試験当日に持参してください。受験時には、この「プレゼンテーション資料」のコピーのみを用いてプレゼンテーションを行ってください。

③配点

学部	課程・コース等			調査書	推薦書	志願理由書	調査・研究活動に関する報告書/活動報告・資料/ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ資料/英語資格・検定試験	運動特技に関する調書/ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・付属資料	面接/ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ	小論文	実技検査	合計
教育学部	学校教育教員養成課程	教育実践科学コース		20 (*1)	(*2)	(*2)	(*2)		100			120
		教科教育コース 言語・社会教育系	国語選修	20 (*1)	(*2)	(*2)			60	40		120
			社会選修	20 (*1)	(*2)	(*2)	(*2)		60	40		120
			英語選修	20 (*1)	(*2)	(*2)	(*3)		100			120
		理数教育系	数学選修	20 (*1)	(*2)	(*2)			100			120
			理科選修	20 (*1)	(*2)	(*2)			100			120
		音楽教育系	音楽選修	20 (*1)	(*2)	(*2)			40		60	120
		美術教育系	美術選修	20 (*1)	(*2)	(*2)		20 (*1)	80			120
		保健体育教育系	保健体育選修	20 (*1)	(*2)	(*2)		40	60			120
		技術教育系	技術選修	20 (*1)	(*2)	(*2)			100			120
		生活科学教育系	家庭選修	20 (*1)	(*2)	(*2)	(*2)		100			120
		特別支援教育コース		20 (*1)	(*2)	(*2)	(*2)		100			120
	養護教諭養成課程			20 (*1)	(*2)	(*2)	(*2)		100			120

(*1) は面接又はプレゼンテーションの参考資料としても利用することを表します。
(*2) は面接又はプレゼンテーションの参考資料として利用することを表します。
(*3) は出願要件等の確認のために提出を求めるものを表します。

3）理学部
①出願要件

学部	学科・コース		出願要件
理学部	理学科	数学・情報数理コース	次の①又は②のいずれか一つを満たし、学習意欲、人物ともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者で、下記の別表に示す英語資格・検定試験のうちいずれか１つを高等学校等入学以降に受験していること（点数等の条件はありません）。 ①調査書の全体の学習成績の状況が3.8以上の者で、かつ、数学の学習成績の状況が4.4以上の者 ②自然科学の分野において「特記すべき経験」を有する者（スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業による教育を受けて所定の単位を修得し、特記すべき経験を有する者を含む） ※「特記すべき経験」とは、課題研究や探求活動に関する研究発表会での成果発表などを指します。 ※出願要件②で出願する者は、その事実を証明できる書類等の写しを出願時に添付してください。 ※校長が推薦できる人数に制限はありません。
		物理学コース	次の①又は②のいずれか一つを満たし、学習意欲、人物ともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者で、下記の別表に示す英語資格・検定試験のうちいずれか１つを高等学校等入学以降に受験していること（点数等の条件はありません）。 ①調査書の全体の学習成績の状況が3.8以上の者で、かつ、理科又は数学の学習成績の状況が4.2以上の者 ②自然科学の分野において「特記すべき経験」を有する者（スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業による教育を受けて所定の単位を修得し、特記すべき経験を有する者を含む） ※「特記すべき経験」とは、課題研究や探求活動に関する研究発表会での成果発表などを指します。 ※出願要件②で出願する者は、その事実を証明できる書類等の写しを出願時に添付してください。 ※校長が推薦できる人数に制限はありません。
		化学コース	
		生物科学コース	
		地球環境科学コース	

＜別表＞

○理学部 理学科 全コースの出願要件

英語資格・検定試験の成績は、高等学校等入学以降に受験した成績で、かつ、出願期間最終日に有効なオフィシャルスコアに限ります（点数等の条件はありません）。また、出願時に、スコア証明書等の写しの提出を求めます。

ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ英語検定（※1）	実用英語技能検定（※2）	GTEC（※3）	IELTS（※4）	TEAP	TOEFL iBT（※5）	TOEIC L&R/ TOEIC S&W（※6）

（※1）ケンブリッジ英語検定では、**「リンガスキル（４技能CBT）」の受験成績は利用できません。**

（※2）実用英語技能検定については、従来型の「英検」（本会場実施、準会場実施）に加え、「英検S-CBT」の成績も利用できます。

（※3）GTEC（Core／Basic／Advancedタイプ及びCBTタイプ）の成績は、**オフィシャルスコアのみを認めます（OFFICIAL SCORE CERTIFICATEに限る）。「アセスメント版」での受験成績は利用できません。**

（※4）IELTSは「アカデミック・モジュール」に加え、「ジェネラル・トレーニング・モジュール」の成績も利用できます。

（※5）TOEFL iBTにおいて、**「My Best スコア」は利用できません。**

（※6）TOEIC（L&R/S&W）は、**「公開テスト」を受験した成績に限ります。**なお、TOEIC L&RとTOEIC S&Wのうち、１つのみを受験している場合も出願要件を満たしていることとします。

②選抜方法

学部	学科・コース		選抜方法等
理学部	理学科	数学・情報数理コース	調査書、数学及び面接の結果を総合して評価します。 〈**数学**〉数学の基礎学力、論理的思考力、表現力などをみるために、数学の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）とします。 〈**面接**〉個人面接で、面接時間は10分程度で行います。志望動機、志望コースに対する関心の深さ（授業以外の自然科学に関する活動状況等を含む）、学習意欲、コミュニケーション能力等の資質をみます。
		物理学コース	調査書及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して評価します。 〈**面接**〉個人面接形式で行います。面接の約30分前に準備室に移動して、20分程度で口頭試問の質問用紙を見て解答方針メモを作成します。続いて面接室での面接を口頭試問を含めて20分程度で行います。まず口頭試問として、数学と理科（物理）の出題に対する解答及び解答方針を問い、基礎学力、論理的思考力及び判断力を確認します。解答時には、先に作成した解答方針メモを使用することができ、黒板等への記述を求めます。続いて、志望動機、志望コースに対する関心の深さ（授業以外の自然科学に関する活動状況等を含む）、学習意欲、コミュニケーション能力等の資質をみます。 口頭試問の質問用紙では、数学の問題と理科（物理）の問題を出題します。出題範囲は以下のとおりです。 数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面） 理科：物理基礎、物理
		化学コース	調査書、化学及び面接の結果を総合して評価します。 〈**化学**〉化学の基礎学力、論理的思考力、表現力などをみるために、化学の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は化学基礎、化学とします。 〈**面接**〉個人面接で、面接時間は10分程度で行います。志望動機、志望コースに対する関心の深さ（授業以外の自然科学に関する活動状況等を含む）、学習意欲、コミュニケーション能力等の資質をみます。
		生物科学コース	調査書、論述問題（生物）及び面接の結果を総合して評価します。 〈**論述問題（生物）**〉生物の基礎学力、論理的思考力、表現力、記述力などをみるために、生物の基礎的な内容に関する記述式解答を求める問題を主に出題します。出題範囲は、生物基礎を中心に、生物を含めた全てとします。 〈**面接**〉個人面接で、面接時間は10分程度で行います。志望動機、志望コースに対する関心の深さ（授業以外の自然科学に関する活動状況等を含む）、学修意欲、コミュニケーション能力等の資質をみます。
		地球環境科学コース	調査書、総合問題（数学、理科）及び面接の結果を総合して評価します。 〈**総合問題（数学、理科）**〉地球環境科学に関する設問に対し論述させ、論理的思考力、文章表現力などをみます。なお、地学基礎又は地学を履修していることを前提としません。 〈**面接**〉個人面接で、面接時間は10分程度で行います。志望動機、志望コースに対する関心の深さ（授業以外の自然科学に関する活動状況等を含む）、学習意欲、コミュニケーション能力等の資質をみます。

③配点

学部	学科・コース		調査書	推薦書	志願理由書	英語資格・検定試験	面接	個別テスト（*4）	合計
理学部	理学科	数学・情報数理コース	50(*1)	(*2)	(*2)	(*3)	50	200	300
		物理学コース	50(*1)	(*2)	(*2)	(*3)	250		300
		化学コース	50(*1)	(*2)	(*2)	(*3)	50	200	300
		生物科学コース	50(*1)	(*2)	(*2)	(*3)	50	200	300
		地球環境科学コース	50(*1)	(*2)	(*2)	(*3)	50	200	300

(*1) は面接の参考資料としても利用することを表します。
(*2) は面接の参考資料として利用することを表します。
(*3) は出願要件等の確認のために提出を求めるものを表します。
(*4) は「②選抜方法」に示す教科・科目に関する試験を指します。

4）工学部

性別によらず出願できる入試区分を「一般枠」、女性のみ出願できる枠を「女子枠」と称します。
機械システム工学科、電気電子システム工学科又は情報工学科を志願する女性は、出願する枠を以下の中から選択することができます。

（1）一般枠　　（2）女子枠　　（3）一般枠と女子枠の併願（※）

なお、機械システム工学科、電気電子システム工学科又は情報工学科を志願する男性、物質科学工学科及び都市システム工学科の志願者は、「一般枠」のみの選択となります。

（※）「一般枠」と「女子枠」の併願は同一学科のみ可能です。「一般枠」と「女子枠」の併願者は、まず「女子枠」で選考を行い、不合格となった場合は、「一般枠」で選考を行います。なお、「一般枠」と「女子枠」の 併願者は、「女子枠」で課す選抜方法等を受験することで、「一般枠」も受験したものとみなします。

①出願要件

学部	学科	一般枠	女子枠	出願要件
工学部	機械システム工学科	○	○	次の要件を全て満たし、学業成績・学習意欲・人物がともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①調査書の学習成績の状況が4.0以上である者又は茨城大学工学部の一般選抜の個別テスト等に合格できる程度以上の学力を有する者 ②p.80の別表に示す英語資格・検定試験得点換算表の得点で50点以上を有すること ※校長が推薦できる人数に制限はありません。 ※女子枠については、上記に該当する女性とします。
	電気電子システム工学科	○	○	次の要件を全て満たし、学業成績・学習意欲・人物がともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①調査書の学習成績の状況が4.0以上である者又は茨城大学工学部の一般選抜の個別テスト等に合格できる程度以上の学力を有する者 ②p.80の別表に示す英語資格・検定試験得点換算表の得点で50点以上を有すること ※校長が推薦できる人数に制限はありません。 ※女子枠については、上記に該当する女性とします。
	物質科学工学科	○		次の要件を全て満たし、学業成績・学習意欲・人物がともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①調査書の学習成績の状況が4.0以上である者又は茨城大学工学部の一般選抜の個別テスト等に合格できる程度以上の学力を有する者 ②p.80の別表に示す英語資格・検定試験得点換算表の得点で50点以上を有すること ※校長が推薦できる人数に制限はありません。
	情報工学科	○	○	次の要件を全て満たし、学業成績・学習意欲・人物がともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①調査書の学習成績の状況が4.0以上である者又は茨城大学工学部の一般選抜の個別テスト等に合格できる程度以上の学力を有する者 ②p.80の別表に示す英語資格・検定試験得点換算表の得点で50点以上を有すること ※校長が推薦できる人数に制限はありません。 ※女子枠については、上記に該当する女性とします。

	都市システム工学科	○		次の要件を全て満たし、社会基盤デザインプログラムでの勉学を強く志望し（＊）、基礎学力を有し、安全で快適な社会環境づくりに情熱があり、リーダーシップを発揮できる資質があると出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①調査書の学習成績の状況が4.0以上である者又は茨城大学工学部の一般選抜の個別テスト等に合格できる程度以上の学力を有する者 ②p.80の別表に示す英語資格・検定試験得点換算表の得点で50点以上を有すること ※校長が推薦できる人数に制限はありません。

（＊）学校推薦型選抜の合格者は、入学後、２年次のプログラム選択において優先的に社会基盤デザインプログラムを選択できます。
都市システム工学科の学校推薦型選抜では社会基盤デザインプログラムでの勉学を志望する者を募集しています。建築デザインプログラムでの勉学を志望する者は、総合型選抜で都市システム工学科に出願してください。なお、一般選抜（前期日程・後期日程）、私費外国人留学生選抜は、社会基盤デザインプログラム、建築デザインプログラムのどちらを志望する者でも出願することができます（p.17参照）。

【参考】都市システム工学科の学校推薦型選抜・総合型選抜における志望について

	社会基盤デザインプログラムでの勉学を志望する者	**建築デザインプログラムでの勉学を志望する者**
学校推薦型選抜	○	
総合型選抜		○

＜別表＞

○工学部の英語資格・検定試験得点換算表

令和６年度（2024年度）以降に受験した成績で、かつ、出願期間最終日に有効なオフィシャルスコアに限ります。また、出願時にスコア証明書等の写しの提出を求めます。複数の英語資格・検定試験の成績を有している場合は、換算後の得点が最も高くなる１つを提出してください。

得点	**CEFR（※1）**	**ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ英語検定（※2）**	**実用英語技能検定（※3）**	**GTEC（※4）**	**IELTS（※5）**	**TEAP**	**TOEFL iBT（※6）**	**TOEIC L&R/ TOEIC S&W（※7）（※8）**
100点	C2 C1 B2	160以上	2,300以上	1,180以上	5.5以上	309以上	72以上	1,560以上
90点	B1	140以上	1,950以上	930以上	4.0以上	225以上	42以上	1,150以上
70点	A2-3	130以上	1,825以上	820以上	−	180以上	−	888以上
60点	A2-2	125以上	1,763以上	755以上	−	158以上	−	756以上
50点	A2-1	120以上	1,700以上	680以上	−	135以上	−	625以上

（※1）本学では、CEFRレベルにおいて、A2レベル及びA1レベルをさらに細分化して標記しています。
（※2）ケンブリッジ英語検定では、**「リンガスキル（４技能CBT）」の受験成績は利用できません。**
（※3）実用英語技能検定については、従来型の「英検」（本会場実施、準会場実施）に加え、「英検S-CBT」の成績も利用できます。
（※4）GTEC（Core／Basic／Advancedタイプ及びCBTタイプ）の成績は、**オフィシャルスコアのみを認めます（OFFICIAL SCORE CERTIFICATEに限る）。「アセスメント版」での受験成績は利用できません。**
（※5）IELTSは「アカデミック・モジュール」に加え、「ジェネラル・トレーニング・モジュール」の成績も利用できます。
（※6）TOEFL iBTにおいて、**「My Best スコア」は利用できません。**
（※7）TOEIC（L&R/S&W）は、**「公開テスト」を受験した成績に限ります。**
（※8）TOEIC L&R（990点満点）/TOEIC S&W（400点満点）については、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にした合算スコアを利用します。なお、TOEIC L&RとTOEIC S&Wのうち、１つのみを受験し表中の得点を取得している場合も出願要件を満たしていることとします。

②選抜方法

学部	学科	一般枠	女子枠	選抜方法等
工学部	機械システム工学科	○	○	調査書、総合問題（数学、理科）、英語資格・検定試験及び面接の結果を総合して評価します。 **【一般枠・女子枠共通】** **〈総合問題（数学、理科）〉**基礎学力、思考力、判断力、表現力などをみるために、数学及び理科の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面））と理科（物理基礎、物理）とします。 **〈面接〉**志願理由書・推薦書の記載内容及び調査書に基づく個人面接を10分程度で行い、機械システム工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。 **【女子枠のみ追加で実施】** **〈面接(女子枠用)〉**「課題作文」の記載内容に基づく個人面接を10分程度で行い、機械システム工学を学ぶことで、自身がどのように社会に貢献していけるかについて、論理的に説明できる資質をみます。 「課題作文」は出願時に提出を求めます。出願後は一切返却しませんので、必ずコピーを取っておき、試験当日に持参（※）してください。 **（「課題作文」の詳細はp.83に示します）**
	電気電子システム工学科	○	○	調査書、総合問題（数学、理科）、英語資格・検定試験及び面接の結果を総合して評価します。 **【一般枠・女子枠共通】** **〈総合問題（数学、理科）〉**基礎学力、思考力、判断力、表現力などをみるために、数学及び理科の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面））と理科（物理基礎、物理）とします。 **〈面接〉**志願理由書・推薦書の記載内容及び調査書に基づく個人面接を10分程度で行い、電気電子システム工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。 **【女子枠のみ追加で実施】** **〈面接(女子枠用)〉**「課題作文」の記載内容に基づく個人面接を10分程度で行い、電気電子システム工学を学ぶことで、自身がどのように社会に貢献していけるかについて、論理的に説明できる資質をみます。 「課題作文」は出願時に提出を求めます。出願後は一切返却しませんので、必ずコピーを取っておき、試験当日に持参（※）してください。 **（「課題作文」の詳細はp.83に示します）**
	物質科学工学科	○	－	調査書、総合問題（数学、理科）、英語資格・検定試験及び面接の結果を総合して評価します。 **〈総合問題（数学、理科）〉**基礎学力、思考力、判断力、表現力などをみるために、数学及び理科の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面））と理科（物理基礎、化学基礎、生物基礎）とします。理科については列記した３分野から２つを選択することとします。 **〈面接〉**志願理由書・推薦書の記載内容及び調査書に基づく個人面接を10分程度で行い、物質科学工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。

	情報工学科	○	○	調査書、総合問題（数学、理科）、英語資格・検定試験及び面接の結果を総合して評価します。 **【一般枠・女子枠共通】** **〈総合問題（数学、理科）〉**基礎学力、思考力、判断力、表現力などをみるために、数学及び理科の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面））と理科（物理基礎、物理）とします。 **〈面接〉** 志願理由書・推薦書の記載内容及び調査書に基づく個人面接を10分程度で行い、情報工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。 **【女子枠のみ追加で実施】** **〈面接（女子枠用）〉**「課題作文」の記載内容に基づく個人面接を10分程度で行い、情報工学を学ぶことで、自身がどのように社会に貢献していけるかについて、論理的に説明できる資質をみます。 「課題作文」は出願時に提出を求めます。出願後は一切返却しませんので、必ずコピーを取っておき、試験当日に持参（※）してください。 **（「課題作文」の詳細はp.83に示します）**
	都市システム工学科	○	－	調査書、総合問題（数学、理科）、英語資格・検定試験及び面接の結果を総合して評価します。 **〈総合問題（数学、理科）〉**基礎学力、思考力、判断力、表現力などをみるために、数学及び理科の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面））と理科（物理基礎、物理）とします。 **〈面接〉**志願理由書・推薦書の記載内容及び調査書に基づく個人面接を10分程度で行い、安全で快適な社会環境づくりに対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。

（※）面接（女子枠用）で受験者が当日使用できる資料は、出願時に提出した「課題作文」のコピーのみとなります。

③配点

学部	学科・コース	出願枠	調査書	推薦書	志願理由書	課題作文	英語資格・検定試験	面接	面接（女子枠用）	個別テスト（*4）	合計
工学部	機械システム工学科	一般枠	50（*1）	（*2）	（*2）		100	150		300	600
	電気電子システム工学科										
	情報工学科	女子枠	50（*1）	（*2）	（*2）	（*3）	100	150	100	300	700
	物質科学工学科	一般枠	50（*1）	（*2）	（*2）		100	150		300	600
	都市システム工学科										

（*1）は面接の参考資料としても利用することを表します。
（*2）は面接の参考資料として利用することを表します。
（*3）は面接（女子枠用）の参考資料として利用することを表します。工学部機械システム工学科・電気電子システム工学科・情報工学科の「課題作文」は、女子枠に出願する場合にのみ提出が必要となります。
（*4）は「②選抜方法」に示す教科・科目に関する試験を指します。

④女子枠の留意事項

○面接(女子枠用)の課題作文

機械システム工学科・電気電子システム工学科・情報工学科の学校推薦型選抜一般推薦の女子枠では、出願時に「課題作文」の提出を求めます。以下の要領で「課題作文」を作成して、提出してください。

1）様式は、A4判で印刷の上、作成してください。
2）直筆で記入する場合は、黒インクのペン又は黒ボールペンを使用してください。
PCにより作成する場合は、10.5ポイント以上の文字（11ポイント、游ゴシック推奨）で作成してください。半角文字は使用しないでください。枠線と文字がずれる場合は、直筆で作成してください。
3）身の回りの製品やシステムについて、あなたから見て、こうであれば誰にでも使いやすいユニバーサルな製品・システムになるだろうという提案を300字以内で記入してください。
4）作成した原本を提出してください。またコピーを試験当日に持参してください。なお、このコピーにメモ書きをしても問題ありません。
5）面接(女子枠用)の「課題作文」は返却しません。

5）農学部
①出願要件

学部	学科・コース		出願要件
農学部	食生命科学科		次の①、②の要件を両方とも満たし、学業成績及び人物がともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①調査書の全体の学習成績の状況が3.8以上の者で、かつ、理科の学習成績の状況が4.0以上の者 ②下記の別表に示す英語資格・検定試験のいずれかで基準（CEFRのA2-3以上）を満たす者 ※校長が推薦できる人数に制限はありません。 **※高等学校又は中等教育学校の農業に関する学科又は総合学科（農業に関する科目を20単位以上修得した者又は修得見込みの者）を卒業した者又は卒業見込みの者は、学校推薦型選抜（一般推薦）での出願はできません。**
	地域総合農学科	応用植物科学コース	次の①、②の要件を両方とも満たし、学業成績及び人物がともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①調査書の全体の学習成績の状況が3.8以上の者 ②下記の別表に示す英語資格・検定試験のいずれかで基準（CEFRのA2-3以上）を満たす者 ※校長が推薦できる人数に制限はありません。 **※高等学校又は中等教育学校の農業に関する学科又は総合学科（農業に関する科目を20単位以上修得した者又は修得見込みの者）を卒業した者又は卒業見込みの者は、学校推薦型選抜（一般推薦）での出願はできません。**
		地域共生コース	

＜別表＞

○農学部食生命科学科及び地域総合農学科の出願要件

英語資格・検定試験の成績は、令和６年度（2024年度）以降に受験した成績で、かつ、出願期間最終日に有効なオフィシャルスコアに限ります。また、出願時にスコア証明書等の写しの提出を求めます。

CEFR（※1）	ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ英語検定（※2）	実用英語技能検定（※3）	GTEC（※4）	IELTS（※5）	TEAP	TOEFL iBT（※6）	TOEIC L&R/TOEIC S&W（※7）（※8）
A2-3以上	130以上	1,825以上	820以上	4.0以上（※9）	180以上	42以上（※9）	888以上

（※1）本学では、CEFRレベルにおいて、A2レベル及びA1レベルをさらに細分化して標記しています。
（※2）ケンブリッジ英語検定では、**「リンガスキル（４技能CBT）」の受験成績は利用できません。**
（※3）実用英語技能検定については、従来型の「英検」（本会場実施、準会場実施）に加え、「英検S-CBT」の成績も利用できます。
（※4）GTEC（Core／Basic／Advancedタイプ及びCBTタイプ）の成績は、**オフィシャルスコアのみを認めます（OFFICIAL SCORE CERTIFICATEに限る）。「アセスメント版」での受験成績は利用できません。**
（※5）IELTSは「アカデミック・モジュール」に加え、「ジェネラル・トレーニング・モジュール」の成績も利用できます。
（※6）TOEFL iBTにおいて、「My Best スコア」は利用できません。
（※7）TOEIC（L&R/S&W）は、「公開テスト」を受験した成績に限ります。
（※8）TOEIC L&R（990点満点）/TOEIC S&W（400点満点）については、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にした合算スコアを利用します。
（※9）基準がないためB1相当の点数とします。

②選抜方法

学部	学科・コース		選抜方法等
農学部	食生命科学科		総合問題（生物、化学）及び面接の結果を総合して評価します。 〈**総合問題（生物、化学）**〉生物と化学の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は「生物基礎、生物」、「化学基礎、化学」とします。 〈**面接**〉個人面接で、志望学科に対する関心と適性、学習意欲と質疑応答力などの資質を10分程度でみます。
	地域総合農学科	応用植物科学コース	生物及び面接の結果を総合して評価します。 〈**生物**〉生物の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は「生物基礎、生物」とします。 〈**面接**〉個人面接で、志望学科に対する関心と適性、学習意欲と質疑応答力などの資質を10分程度でみます。
		地域共生コース	面接により評価します。 〈**面接**〉個人面接で、志望学科に対する関心と適性、学習意欲と質疑応答力などの資質を20分程度でみます。

③配点

学部	学科・コース		調査書	推薦書	志願理由書	英語資格・検定試験	面接	個別テスト（*3）	合計
農学部	食生命科学科		（*1）	（*1）	（*1）	（*2）	100	200	300
	地域総合農学科	応用植物科学コース	（*1）	（*1）	（*1）	（*2）	100	200	300
		地域共生コース	（*1）	（*1）	（*1）	（*2）	100	－	100

（*1）は面接の参考資料として利用することを表します。
（*2）は出願要件等の確認のために提出を求めるものを表します。
（*3）は「②選抜方法」に示す教科・科目に関する試験を指します。

（2）専門高校推薦

1）教育学部

①出願要件

学部	課程・コース等				出願要件
教育学部	学校教育教員養成課程	教科教育コース	技術教育系	技術選修	高等学校又は中等教育学校の農業、工業、商業、水産、情報に関する学科又は総合学科（農業、工業、商業、水産、情報に関する科目から合計して20単位以上修得した者又は修得見込みの者）を令和９年３月卒業見込みの者で、調査書の全体の学習成績の状況が3.5以上の者とし、学業成績が優秀と認められ、かつ、教職を目指す意欲があり、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ※校長が推薦できる人数に制限はありません。

②選抜方法

学部	課程・コース等				選抜方法等
教育学部	学校教育教員養成課程	教科教育コース	技術教育系	技術選修	調査書及び面接（口頭試問を含む）の結果を総合して評価します。 〈**面接**〉個人面接（20～30分程度）。中学校技術科又は高等学校工業科の教員を目指す意欲、教員としての資質・能力・適性等の素養をみます。同時に口頭試問では、高等学校等で履修した範囲で、数学・理科・英語の基礎学力について問います。口頭試問の解答時には、黒板等への記述を求める場合があります。

③配点

学部	学科・課程等				調査書	推薦書	志願理由書	面接	合計
教育学部	学校教育教員養成課程	教科教育コース	技術教育系	技術選修	20（*1）	（*2）	（*2）	100	120

（*1）は面接の参考資料としても利用することを表します。
（*2）は面接の参考資料として利用することを表します。

2）工学部

①出願要件

学部	学科	出願要件
工学部	機械システム工学科	高等学校又は中等教育学校の工業に関する学科又は総合学科（工業に関する科目を25単位以上修得した者又は修得見込みの者）を令和９年３月に卒業見込みの者 次の要件を全て満たし、学業成績・学習意欲・人物がともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①調査書の学習成績の状況が4.0以上である者又は茨城大学工学部の一般選抜の個別テスト等に合格できる程度以上の学力を有する者 ②p.88の別表に示す英語資格・検定試験得点換算表の得点で50点以上を有すること ※校長が推薦できる人数に制限はありません。
	電気電子システム工学科	高等学校又は中等教育学校の工業に関する学科又は総合学科（工業に関する科目を25単位以上修得した者又は修得見込みの者）を令和９年３月に卒業見込みの者 次の要件を全て満たし、学業成績・学習意欲・人物がともに優れ、出身校の校長が責任を持って推薦できる者 ①調査書の学習成績の状況が4.0以上である者又は茨城大学工学部の一般選抜の個別テスト等に合格できる程度以上の学力を有する者 ②p.88の別表に示す英語資格・検定試験得点換算表の得点で50点以上を有すること ※校長が推薦できる人数に制限はありません。
	物質科学工学科	高等学校又は中等教育学校の工業に関する学科又は総合学科（工業に関する科目を25単位以上修得した者又は修得見込みの者）を令和９年３月に卒業見込みの者 次の要件を全て満たし、学業成績・学習意欲・人物がともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①調査書の学習成績の状況が4.0以上である者又は茨城大学工学部の一般選抜の個別テスト等に合格できる程度以上の学力を有する者 ②p.88の別表に示す英語資格・検定試験得点換算表の得点で50点以上を有すること ※校長が推薦できる人数に制限はありません。
	情報工学科	高等学校又は中等教育学校の工業、情報に関する学科又は総合学科（工業、情報に関する科目から合計して25単位以上修得した者又は修得見込みの者）を令和９年３月に卒業見込みの者 次の要件を全て満たし、学業成績・学習意欲・人物がともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①調査書の学習成績の状況が4.0以上である者又は茨城大学工学部の一般選抜の個別テスト等に合格できる程度以上の学力を有する者 ②p.88の別表に示す英語資格・検定試験得点換算表の得点で50点以上を有すること ※校長が推薦できる人数に制限はありません。
	都市システム工学科	高等学校又は中等教育学校の工業に関する学科又は総合学科（工業に関する科目を25単位以上修得した者又は修得見込みの者）を令和９年３月に卒業見込みの者 次の要件を全て満たし、社会基盤デザインプログラムでの勉学を強く志望し（＊）、基礎学力を有し、安全で快適な社会環境づくりに情熱があり、リーダーシップを発揮できる資質があると出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①調査書の学習成績の状況が4.0以上である者又は茨城大学工学部の一般選抜の個別テスト等に合格できる程度以上の学力を有する者 ②p.88の別表に示す英語資格・検定試験得点換算表の得点で50点以上を有すること ※校長が推薦できる人数に制限はありません。

（＊）学校推薦型選抜の合格者は、入学後、２年次のプログラム選択において優先的に社会基盤デザインプログラムを選択できます。
都市システム工学科の学校推薦型選抜では社会基盤デザインプログラムでの勉学を志望する者を募集して

います。建築デザインプログラムでの勉学を志望する者は、総合型選抜で都市システム工学科に出願してください。なお、一般選抜（前期日程・後期日程）、私費外国人留学生選抜は、社会基盤デザインプログラム、建築デザインプログラムのどちらを志望する者でも出願することができます（p.17参照）。

【参考】都市システム工学科の学校推薦型選抜・総合型選抜における志望について

	社会基盤デザインプログラムでの勉学を志望する者	**建築デザインプログラムでの勉学を志望する者**
学校推薦型選抜	○	
総合型選抜		○

＜別表＞

○工学部の英語資格・検定試験得点換算表

令和６年度（2024年度）以降に受験した成績で、かつ、出願期間最終日に有効なオフィシャルスコアに限ります。また、出願時にスコア証明書等の写しの提出を求めます。複数の英語資格・検定試験の成績を有している場合は、換算後の得点が最も高くなる１つを提出してください。

得点	CEFR（※1）	ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ英語検定（※2）	実用英語技能検定（※3）	GTEC（※4）	IELTS（※5）	TEAP	TOEFL iBT（※6）	TOEIC L&R/ TOEIC S&W（※7）（※8）
100点	C2 C1 B2	160以上	2,300以上	1,180以上	5.5以上	309以上	72以上	1,560以上
90点	B1	140以上	1,950以上	930以上	4.0以上	225以上	42以上	1,150以上
70点	A2-3	130以上	1,825以上	820以上	－	180以上	－	888以上
60点	A2-2	125以上	1,763以上	755以上	－	158以上	－	756以上
50点	A2-1	120以上	1,700以上	680以上	－	135以上	－	625以上

（※1）本学では、CEFRレベルにおいて、A2レベル及びA1レベルをさらに細分化して標記しています。
（※2）ケンブリッジ英語検定では、**「リンガスキル（４技能CBT）」の受験成績は利用できません。**
（※3）実用英語技能検定については、従来型の「英検」（本会場実施、準会場実施）に加え、「英検S-CBT」の成績も利用できます。
（※4）GTEC（Core／Basic／Advancedタイプ及びCBTタイプ）の成績は、**オフィシャルスコアのみを認めます（OFFICIAL SCORE CERTIFICATEに限る）。「アセスメント版」での受験成績は利用できません。**
（※5）IELTSは「アカデミック・モジュール」に加え、「ジェネラル・トレーニング・モジュール」の成績も利用できます。
（※6）TOEFL iBTにおいて、**「My Best スコア」は利用できません。**
（※7）TOEIC（L&R/S&W）は、**「公開テスト」を受験した成績に限ります。**
（※8）TOEIC L&R（990点満点）/TOEIC S&W（400点満点）については、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にした合算スコアを利用します。なお、TOEIC L&RとTOEIC S&Wのうち、１つのみを受験し表中の得点を取得している場合も出願要件を満たしていることとします。

②選抜方法

学部	学科	選抜方法等
工学部	機械システム工学科	調査書、総合問題（数学、理科）、英語資格・検定試験及び面接の結果を総合して評価します。 **〈総合問題（数学、理科）〉**基礎学力、思考力、判断力、表現力などをみるために、数学及び理科の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ（図形の性質、場合の数と確率）、数学Ｂ（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面））と理科（物理基礎、物理）とします。 **〈面接〉**志願理由書・推薦書の記載内容及び調査書に基づく個人面接を10分程度で行い、機械システム工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。
	電気電子システム工学科	調査書、総合問題（数学、理科）、英語資格・検定試験及び面接の結果を総合して評価します。 **〈総合問題（数学、理科）〉**基礎学力、思考力、判断力、表現力などをみるために、数学及び理科の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ（図形の性質、場合の数と確率）、数学Ｂ（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面））と理科（物理基礎、物理）とします。 **〈面接〉**志願理由書・推薦書の記載内容及び調査書に基づく個人面接を10分程度で行い、電気電子システム工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。
	物質科学工学科	調査書、総合問題（数学、理科）、英語資格・検定試験及び面接の結果を総合して評価します。 **〈総合問題（数学、理科）〉**基礎学力、思考力、判断力、表現力などをみるために、数学及び理科の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ（図形の性質、場合の数と確率）、数学Ｂ（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面））と理科（物理基礎、化学基礎、生物基礎）とします。理科については列記した３分野から２つを選択することとします。 **〈面接〉**志願理由書・推薦書の記載内容及び調査書に基づく個人面接を10分程度で行い、物質科学工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。
	情報工学科	調査書、総合問題（数学、理科）、英語資格・検定試験及び面接の結果を総合して評価します。 **〈総合問題（数学、理科）〉**基礎学力、思考力、判断力、表現力などをみるために、数学及び理科の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ（図形の性質、場合の数と確率）、数学Ｂ（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面））と理科（物理基礎、物理）とします。 **〈面接〉**志願理由書・推薦書の記載内容及び調査書に基づく個人面接を10分程度で行い、情報工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。
	都市システム工学科	調査書、総合問題（数学、理科）、英語資格・検定試験及び面接の結果を総合して評価します。 **〈総合問題（数学、理科）〉**基礎学力、思考力、判断力、表現力などをみるために、数学及び理科の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Ａ（図形の性質、場合の数と確率）、数学Ｂ（数列、統計的な推測）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面））と理科（物理基礎、物理）とします。 **〈面接〉**志願理由書・推薦書の記載内容及び調査書に基づく個人面接を10分程度で行い、安全で快適な社会環境づくりに対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。

③配点

学部	学科・課程等	調査書	推薦書	志願理由書	英語資格・検定試験	面接	個別テスト (*3)	合計
工学部	機械システム工学科	50（*1）	（*2）	（*2）	100	150	300	600
	電気電子システム工学科	50（*1）	（*2）	（*2）	100	150	300	600
	物質科学工学科	50（*1）	（*2）	（*2）	100	150	300	600
	情報工学科	50（*1）	（*2）	（*2）	100	150	300	600
	都市システム工学科	50（*1）	（*2）	（*2）	100	150	300	600

（*1）は面接の参考資料としても利用することを表します。
（*2）は面接の参考資料として利用することを表します。
（*3）は「②選抜方法」に示す教科・科目に関する試験を指します。

3）農学部

①出願要件

学部	学科・コース		出願要件
農学部	食生命科学科		次の①から③の要件を全て満たし、学業成績及び人物がともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①高等学校又は中等教育学校の農業に関する学科又は総合学科（農業に関する科目を20単位以上修得した者又は修得見込みの者）を令和８年３月以降に卒業した者及び令和９年３月卒業見込みの者 ②調査書の全体の学習成績の状況が4.5以上の者 ③下記の別表に示す英語資格・検定試験のいずれかで基準（CEFRのA2-3以上）を満たす者 ※校長が推薦できる人数に制限はありません。
	地域総合農学科	応用植物科学コース	次の①から③の要件を全て満たし、学業成績及び人物がともに優れ、出身校の校長が責任をもって推薦できる者 ①高等学校又は中等教育学校の農業に関する学科又は総合学科（農業に関する科目を20単位以上修得した者又は修得見込みの者）を令和８年３月以降に卒業した者及び令和９年３月卒業見込みの者 ②調査書の全体の学習成績の状況が4.3以上の者 ③下記の別表に示す英語資格・検定試験のうちいずれか１つを受験している者 ※校長が推薦できる人数に制限はありません。
		地域共生コース	

＜別表＞

○英語資格・検定試験得点換算表〔農学部地域総合農学科（専門高校推薦のみ）〕

令和６年度（2024年度）以降に受験した成績で、かつ、出願期間最終日に有効なオフィシャルスコアに限ります。また、出願時にスコア証明書等の写しの提出を求めます。複数の英語資格・検定試験の成績を有している場合は、換算後の得点が最も高くなる１つを提出してください。

得点	CEFR（※1）	ｹﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ英語検定（※2）	実用英語技能検定（※3）	GTEC（※4）	IELTS（※5）	TEAP	TOEFL iBT（※6）	TOEIC L&R/ TOEIC S&W（※7）（※8）
100点	C2 C1 B2	160以上	2,300以上	1,180以上	5.5以上	309以上	72以上	1,560以上
90点	B1	140以上	1,950以上	930以上	4.0以上（※9）	225以上	42以上（※9）	1,150以上
70点	A2-3（※9）	130以上	1,825以上	820以上	（※9）	180以上	（※9）	888以上
60点	A2-2	125以上	1,763以上	755以上	－	158以上	－	756以上
50点	A2-1	120以上	1,700以上	680以上	－	135以上	－	625以上
30点	A1-2	110以上	1,550以上	470以上	－	－	－	473以上
10点	A1-1	100以上	1,400以上	260以上	－	－	－	320以上

（※1）本学では、CEFRレベルにおいて、A2レベル及びA1レベルをさらに細分化して標記しています。

（※2）ケンブリッジ英語検定では、**「リンガスキル（４技能CBT）」の受験成績は利用できません。**

（※3）実用英語技能検定については、従来型の「英検」（本会場実施、準会場実施）に加え、「英検S-CBT」の成績も利用できます。

（※4）GTEC（Core／Basic／Advancedタイプ及びCBTタイプ）の成績は、**オフィシャルスコアのみを認めます（OFFICIAL SCORE CERTIFICATEに限る）。「アセスメント版」での受験成績は利用できません。**

（※5）IELTSは「アカデミック・モジュール」に加え、「ジェネラル・トレーニング・モジュール」の成績も利用できます。

（※6）TOEFL iBTにおいて、**「My Best スコア」は利用できません。**

（※7）TOEIC（L&R/S&W）は、**「公開テスト」を受験した成績に限ります。**

（※8）TOEIC L&R（990点満点）/TOEIC S&W（400点満点）については、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にした合算スコアを利用します。なお、TOEIC L&RとTOEIC S&Wのうち、１つのみを受験している場合も出願要件を満たしていることとします。

（※9）**食生命科学科において、出願要件としている基準です。**IELTS及びTOEFL iBTはA2-3の基準がないため、B1の点数を基準とします。

②選抜方法

学部	学科・コース		選抜方法等
農学部	食生命科学科		生物又は化学及び面接の結果を総合して評価します。 〈**生物又は化学**〉生物及び化学のうち、出願時に届け出た１科目について、基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は「生物基礎、生物」、「化学基礎、化学」とします。 〈**面接**〉個人面接で、志望学科に対する関心と適性、学習意欲と質疑応答力などの資質を10分程度でみます。
	地域総合農学科	応用植物科学コース	生物、面接及び英語資格・検定試験の結果を総合して評価します。 〈**生物**〉生物の基礎的な問題を出題し、論述的に解答させます。出題範囲は「生物基礎、生物」とします。 〈**面接**〉個人面接で、志望学科に対する関心と適性、学習意欲と質疑応答力などの資質を10分程度でみます。
		地域共生コース	面接及び英語資格・検定試験の結果を総合して評価します。 〈**面接**〉個人面接で、志望学科に対する関心と適性、学習意欲と質疑応答力などの資質を20分程度でみます。

③配点

学部	学科・課程等		調査書	推薦書	志願理由書	英語資格・検定試験	面接	個別テスト (*3)	合計
農学部	食生命科学科		(*1)	(*1)	(*1)	(*2)	100	200	300
	地域総合農学科	応用植物科学コース	(*1)	(*1)	(*1)	100	100	200	400
		地域共生コース	(*1)	(*1)	(*1)	100	100	−	200

(*1) は面接の参考資料として利用することを表します。
(*2) は出願要件等の確認のために提出を求めるものを表します。
(*3) は「②選抜方法」に示す教科・科目に関する試験を指します。

Ⅵ．私費外国人留学生選抜

１．選抜日程及び注意事項

出願期間	令和９年１月19日（火）から１月21日（木）まで
試験期日	令和９年２月13日（土）
合格者発表日	令和９年２月19日（金）

【注意事項】

出願前に必ず以下のことについて、確認してください。

（１）在留資格「留学」の申請には、合格後、「在留資格認定証明書（COE）」を日本の出入国在留管理局から取得することが必要です。この交付申請は日本国内でしか行うことができません（海外からの郵送等で手続きを行うことはできません）。本学では、日本国外に居住する外国籍の合格者のために、出入国在留管理庁へ「在留資格認定証明書（COE）」（留学）の代理申請を行っています。代理申請の方法については、合格者に別途詳細をお知らせします。

なお、交付には申請書提出後３か月かかる見込みです。入学式や授業開始に間に合わない可能性が高いので、あらかじめ、グローバルエンゲージメントセンターのホームページで詳細をよく確認の上、下記**〈在留資格についての問合せ先〉**に必ずご連絡ください。短期滞在ビザで大学に在籍し続けることはできません。

（２）本学では、出入国管理及び難民認定法に定める在留資格「留学」を取得した者を“外国人留学生”としています。したがって、入学後に「留学」の在留資格を有しない者は、本学国際交流会館への入居や奨学金の申請など、外国人留学生向け各種取り扱いの対象とはなりませんので、注意してください。

（３）地域未来共創学環では、3年次に必修で有給実習（コーオプ実習）を実施します。そのため、3年次までに資格外活動許可の取得が必要となります。出願時に取得していない場合でも、出願は可能です。

〈在留資格についての問合せ先〉

茨城大学グローバルエンゲージメントセンター

電話　029-228-8593

Email　adm-international.sbx@vc.ibaraki.ac.jp

ホームページ　http://cge.lae.ibaraki.ac.jp/international_student/license.html

２．出願要件

次の（１）から（４）までの要件を全て満たす者

（１）日本国の国籍を有しない者のうち日本国の永住許可を取得していない者

※日本国の高等学校等を卒業した者又は令和９年３月卒業見込みの者は、一般の入学志願者と同じ扱いになり、この選抜には出願できません。

（２）日本国の出入国管理及び難民認定法において、大学入学に支障のない在留資格を有する者又は取得できる見込みの者

（３）次の①、②のいずれか一つを満たす者

①外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び令和９年３月31日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

②次のいずれか一つの資格を有する者

ア）スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格

イ）ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格

ウ）フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格

エ）グレート・ブリテン及び北アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているGCE Aレベル(General Certificate of Education Advanced Level)資格又は国際Aレベル（International A Level）資格を有する者

オ）欧州連合構成国において大学入学資格として認められている「欧州バカロレア資格」を有する者

（４）独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験（令和８年６月実施回又は令和８年11月実施回。出題言語は日本語とする）を受験し、各学部、学科・課程等で設定する基準をp.94の表のとおり満たしている者

※本学の各学部、学科・課程等が指定する日本留学試験の教科・科目及びその他の必要な試験を受験しなかった者は出願できません。

＜出願要件として必要とする日本留学試験の科目及び基準点＞

表中の○印は受験を要することを示し、×印は受験を要しないことを示します。

学部	学科・課程等	日本留学試験（出題言語：日本語）				
		日本語	総合科目	理科	数学	得点要件
人文社会科学部	現代社会学科	○	○	×	×	次の①～③の全てで平均点以上取得していること。 ①日本語の聴解・聴読解、読解の合計点 ②日本語の記述の得点 ③総合科目の得点
	法律経済学科					
	人間文化学科					
教育学部	学校教育教員養成課程 教科教育コース 言語･社会教育系 英語選修	○	×	×	×	次の①及び②をともに平均点以上取得していること。 ①日本語の聴解・聴読解、読解の合計点 ②日本語の記述の得点
	養護教諭養成課程					
理学部	理学科 数学・情報数理コース	○	×	○（＊）	○（ｺｰｽ2）	日本語（聴解・聴読解、読解、記述の合計点）の得点を300点以上取得していること
	理学科 物理学コース					
	理学科 化学コース					
	理学科 生物科学コース					
	理学科 地球環境科学コース					
	理学科 総合理学コース					
工学部	機械システム工学科	○	×	○（物理及び化学）	○（ｺｰｽ2）	次の①～③の合計点で550点以上取得していること。 ①日本語（聴解・聴読解、読解、記述の合計点） ②理科（物理及び化学） ③数学（ｺｰｽ2）
	電気電子システム工学科					
	情報工学科					
	都市システム工学科					
	物質科学工学科	○	×	○（＊）	○（ｺｰｽ2）	次の①～③の合計点で550点以上取得していること。 ①日本語（聴解・聴読解、読解、記述の合計点） ②理科（物理・化学・生物のうち２科目） ③数学（ｺｰｽ2）
農学部	食生命科学科	○	×	○（＊）	○（ｺｰｽ1又は2）	次の①～③の合計点で550点以上取得していること。 ①日本語（聴解・聴読解、読解、記述の合計点） ②理科（物理・化学・生物のうち２科目） ③数学（ｺｰｽ1又は2）
	地域総合農学科					
地域未来共創学環		○	×	×	○（ｺｰｽ2）	次の①～③の全てで平均点以上取得していること。 ①日本語の聴解・聴読解、読解の合計点 ②日本語の記述の得点 ③数学（ｺｰｽ2）の得点

（＊）物理・化学・生物から２科目を自由選択する。

3．選抜方法等

出願要件で指定する日本留学試験の教科・科目の成績及び下記の表に示す学力検査等の結果を総合して評価します。なお、日本語能力については、「日本語教育の参照枠」B2相当以上（高度に自立して日本語を理解し使用することができる水準）の能力を有することを判定の目安とします。

本学の各学部、学科・課程等が課す面接を受験しなかった者は、合否の判定対象になりません。

学部	学科・課程等		学力検査等	選抜方法等
人文社会科学部	現代社会学科		面接	個人面接を10～15分程度で行い、志望動機、志望学科の教育研究分野への学習意欲・適性、表現力をみます。なお、面接の参考とするため、面接の前に日本語で作文を書かせます。
	法律経済学科			
	人間文化学科			
教育学部	学校教育教員養成課程 教科教育コース 言語・社会教育系　英語選修		面接	面接は口頭試問を含み、個人面接を10～20分程度で行います。志望動機、教育研究分野への学習意欲・適性、表現力をみるため、日本語及び英語による質疑応答を含みます。口頭試問の質問時には文書等で提示する場合や、解答時には黒板等への記述を求める場合があります。
	養護教諭養成課程			面接は口頭試問を含み、個人面接を10～20分程度で行います。志望動機、教育研究分野への学習意欲・適性、表現力をみるため、日本語による質疑応答を含みます。
理学部	理学科	数学･情報数理コース	面接	面接は口頭試問を含み、個人面接を20分程度で行い、志望動機や適性、勉学意欲及び日本語による会話能力をみます。同時に口頭試問では、数学及び英語の基礎学力と日本語表現の適切さをみます。口頭試問の解答時には、黒板等への記述を求める場合があります。
		物理学コース		面接は口頭試問を含み、個人面接を20分程度で行い、志望動機や適性、勉学意欲及び日本語による会話能力をみます。同時に口頭試問では、数学、物理及び英語の基礎学力と日本語表現の適切さをみます。口頭試問の解答時には、黒板等への記述を求める場合があります。
		化学コース		面接は口頭試問を含み、個人面接を20分程度で行い、志望動機や適性、勉学意欲及び日本語による会話能力をみます。同時に口頭試問では、化学及び英語の基礎学力と日本語表現の適切さをみます。口頭試問の解答時には、黒板等への記述を求める場合があります。
		生物科学コース		面接は口頭試問を含み、個人面接を20分程度で行い、志望動機や適性、勉学意欲及び日本語による会話能力をみます。同時に口頭試問では、生物及び英語の基礎学力と日本語表現の適切さをみます。口頭試問の解答時には、黒板等への記述を求める場合があります。
		地球環境科学コース		面接は口頭試問を含み、個人面接を20分程度で行い、志望動機や適性、勉学意欲及び日本語による会話能力をみます。同時に口頭試問では、地球科学及び英語の基礎学力と日本語表現の適切さをみます。口頭試問の解答時には、黒板等への記述を求める場合があります。
		総合理学コース		面接は口頭試問を含み、個人面接を20分程度で行い、志望動機や適性、勉学意欲及び日本語による会話能力をみます。同時に口頭試問では、物理、化学、生物、地球科学のうち出願時に届け出た２科目及び英語の基礎学力と日本語表現の適切さをみます。口頭試問の解答時には、黒板等への記述を求める場合があります。

学部	学科・課程等	学力検査等	選抜方法等
工学部	機械システム工学科	面接	日本語による個人面接を10分程度で行い、機械システム工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。
	電気電子システム工学科		日本語による個人面接を10分程度で行い、電気電子システム工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。
	物質科学工学科		日本語による個人面接を10分程度で行い、物質科学工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。
	情報工学科		日本語による個人面接を10分程度で行い、情報工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。
	都市システム工学科		日本語による個人面接を10分程度で行い、都市システム工学に対する知的関心、意欲、適性を評価し、また、思考力、判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度などの資質をみます。
農学部	食生命科学科	面接	個人面接を15分程度で行い、それぞれの学科で学ぶ目的意識、一般知識及び日本語能力をみます。
	地域総合農学科		
地域未来共創学環		面接	日本語による個人面接を15～20分程度で行い、志望動機、本学環で学ぶことへの学習意欲、社会や地域の課題への関心などをみることを主眼とします。

4．配点

表中の斜線は、「学力検査等を課さないもの」又は「提出を要しないもの」を表します。（*1）は、「出願要件確認のために提出を求めるもの」を表します。（*2）は、面接の参考資料として利用することを表します。

学部	学科・課程等	日本留学試験				出身学校成績証明書等	面接	合計
		日本語			総合科目			
		聴解聴読解	読解	記述				
人文社会科学部	現代社会学科	200	200	50	200	(*1)	200	850
	法律経済学科	200	200	50	200	(*1)	100	750
	人間文化学科	200	200	50	200	(*1)	100	750
教育学部	学校教育教員養成課程 教科教育コース 言語・社会教育系　英語選修	200	200	50		(*2)	600	1,050
	養護教諭養成課程	200	200	50		(*2)	200	650

学部	学科・課程等		日本留学試験							出身学校成績証明書等	面接	合計
			日本語			理科			数学			
			聴解聴読解	読解	記述	物理	化学	生物				
理学部	理学科	数学・情報数理コース	200	200	50	200（100＋100）			200	(*2)	300	1,150
		物理学コース	200	200	50	200（100＋100）			200	(*2)	300	1,150
		化学コース	200	200	50	200（100＋100）			200	(*2)	300	1,150
		生物科学コース	200	200	50	200（100＋100）			200	(*2)	300	1,150
		地球環境科学コース	200	200	50	200（100＋100）			200	(*2)	300	1,150
		総合理学コース	200	200	50	200（100＋100）			200	(*2)	300	1,150
工学部	機械システム工学科		200	200	50	100	100		200	(*2)	200	1,050
	電気電子システム工学科		200	200	50	100	100		200	(*2)	200	1,050
	物質科学工学科		200	200	50	200（100＋100）			200	(*2)	200	1,050
	情報工学科		200	200	50	100	100		200	(*2)	200	1,050
	都市システム工学科		200	200	50	100	100		200	(*2)	200	1,050
農学部	食生命科学科		200	200	50	200（100＋100）			200	(*2)	200	1,050
	地域総合農学科		200	200	50	200（100＋100）			200	(*2)	200	1,050

学部、学科・課程等	日本留学試験				出身学校成績証明書等	面接	合計
	日本語			数学			
	聴解聴読解	読解	記述				
地域未来共創学環	200	200	50	200	(*2)	300	950

Ⅶ. 個別の入学資格審査の申請

一般選抜の出願資格で、本学における個別の入学資格審査が必要な場合は、以下の方法で資格認定の申請を行ってください。

１．申請書類

（１）入学資格審査申請書（添付書類含む）

※様式は、本学ホームページ【https://www.ibaraki.ac.jp/admission/application/individual/index.html】からダウンロードしてください。
また、提出書類の表記が外国語の場合は、必ず日本語訳を添付してください。

（２）返信用封筒（長形３号／120mm×235mm）

※申請者の住所・氏名・郵便番号を明記の上、890円分（速達書留料金）の切手を貼り付けてください。
ただし、郵便料金の改定が行われた場合には、改定時から新料金が適用されます。

２．申請方法

郵送の場合は、封筒表面に「大学入学資格認定申請書在中」と朱書の上、必ず書留郵便としてください。
なお、持参の場合も所定の切手を貼り付けた上で返信用封筒を提出してください。

３．申請期間

（１）令和８年７月31日（金）～８月28日（金）<必着>
（大学入学共通テストの出願に際して本学を志望する者）

（２）令和９年１月18日（月）～１月21日（木）<必着>
（大学入学共通テストの出願に際して他大学の「個別の入学資格審査」を受けた者で本学に志望を変更する者）

４．申請書類の提出先及び問い合わせ先

〒310-8512　茨城県水戸市文京２－１－１
茨城大学学務部入試・高大連携課入学試験グループ
電話　029-228-8064・8066

５．審査方法

本学入学資格審査委員会において、提出書類等に基づき適正に審査を行います。
なお、必要に応じて面接を行うことがあります。

６．審査結果の通知

本学の定める様式により申請者本人に通知します。

Ⅷ. 災害救助法等の適用地域の被災者に対する入学検定料免除

茨城大学では、災害等で被災した受験者の進学の機会を確保する観点から、本学入学者選抜の出願に際し、入学検定料免除の特別措置を実施します。

１．特別措置の対象となる入学者選抜

令和８年度中に実施する本学の入学者選抜
（一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜、私費外国人留学生選抜）

２．措置内容

入学検定料の免除

３．対象者及び対象となる災害

上記１．の本学入学者選抜に出願する方で、次のいずれかに該当する者

（1）平成23年３月以降に指定された災害救助法適用地域において、地震、台風等の災害により被災した者で、次のいずれかに該当する場合
①主たる家計支持者が所有する家屋が、全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
②主たる家計支持者が災害により死亡又は行方不明である場合

（2）居住地が福島第一原子力発電所事故による帰還困難区域、居住制限区域又は避難指示解除準備区域に指定された者

４．申請方法

申請希望者は、各選抜の出願受付開始１週間前までに茨城大学学務部入試・高大連携課（029-228-8064、8066）に連絡し、相談してください。相談の結果、該当すると判断された場合には、「入学検定料免除申請書（注）」及び下記事由に関する証明書等（写し可）を下記提出先に提出してください。

（1）平成23年３月以降に指定された災害救助法適用地域において、地震、台風等の災害により被災
①主たる家計支持者が所有する自宅家屋が、全壊、大規模半壊、半壊、流失した場合
◆地方公共団体が発行する「罹災証明書」
②主たる家計支持者が災害により死亡又は行方不明である場合
◆主たる家計支持者の「死亡又は行方不明を証明する書類」

（2）居住地が福島第一原子力発電所事故による帰還困難区域、居住制限区域又は避難指示解除準備区域に指定された者
◆地方公共団体が発行する「罹災証明書」又は「被災証明書」等

（注）入学検定料免除申請書については、事前に本学ホームページからダウンロードし、必要事項を記入の上、入学検定料免除のための事由に関する証明書（罹災証明書等）を添付し、提出してください【ダウンロード場所：https://www.ibaraki.ac.jp/admission/support/exemption/index.html】。出願時までに、証明書を提出できない方は、出願期間内に入学検定料を納入し、出願手続きを行ってください。後日、入学検定料免除申請書類が揃いましたら、入学検定料相当額を返還いたします。

５．提出先

〒310-8512　茨城県水戸市文京２－１－１
茨城大学学務部入試・高大連携課入学試験グループ
電話　029-228-8064・8066

６．審査結果の通知

入学検定料免除の審査結果は、原則として出願受理後に本学から送付します。

Ⅸ．障害等のある入学志願者の事前相談

障害等のある者で、受験上又は修学上の配慮を必要とする者は、**随時相談に応じますので、茨城大学アクセシビリティ支援室に相談してください。**

相談は、志願者本人、保護者及び担任教諭等、本人の状態を詳しく説明できる者が行ってください。

１．受験上等配慮申請書の提出方法及び提出期限

相談の結果、配慮が必要と判断された場合は、以下の書類を原則各選抜の出願期間の開始日の１か月前までに提出してください。なお、期限までに提出できなかった者は、早急に茨城大学アクセシビリティ支援室まで連絡してください。期限を過ぎて提出した場合でも相談は受け付けますが、相談時期や内容等によっては対応できない場合があります。

・受験上等配慮申請書（以下の作成様式を参考に作成してください）
・医師の診断書の写し又は障害者手帳の写し
※診断書が発行されず、障害者手帳も所持していない場合は、その旨を申し出てください。
・大学入学共通テストの「受験上の配慮事項審査結果通知書」又は「受験上の配慮事項決定通知書」の写し（大学入学共通テスト受験者のみ）

２．受験上等配慮内容の決定

提出された書類により、受験上及び修学上の配慮について志願予定学部・学環と相談（必要な場合は、本学において、当該志願者又は保護者等若しくはその立場を代弁し得る出身学校関係者との面談等を行うことがあります）の上、配慮内容を決定し、受験上等配慮申請者に通知します。

なお、配慮内容等の協議、また配慮を講じるにあたり、本学の関係する教職員等に個人情報が通知されることとなりますので、申請にあたってはあらかじめご了承ください。

３．申請書類の提出先及び問い合わせ先

〒310-8512　茨城県水戸市文京２－１－１
茨城大学アクセシビリティ支援室
電話　029-228-8055

作成様式（A4判縦により作成してください）

令和　　年　　月　　日

茨城大学長　　殿

申請者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

受験上等配慮申請書

令和９年度茨城大学入学者選抜を受験するにあたり、下記のとおり配慮の申請をします。

記

１．志願者氏名　　○○　○○　　年　　月　　日生（　　歳）　男・女
２．卒業（見込）学校名　　年　　月　　日卒業（見込）
３．志願者住所　　〒　　TEL　：　（　　）　　－
４．志願予定選抜　一般選抜（前期・後期）、総合型選抜、学校推薦型選抜、私費外国人留学生選抜
５．志願予定学部・学環、学科・課程（コース・系・選修）等
６．受験上で希望する配慮内容及び理由
７．修学上で希望する配慮内容及び理由
８．出身学校での就学状況（出身学校関係者（担任教諭等）が具体的に記入）（記入者氏名・印）
９．添付書類

X．情報提供

1．入学者選抜個人成績の開示

当該年度の入学者選抜の個人成績を、試験終了後、受験者本人に限って開示します。

（1）申請期間等　令和９年４月22日（木）～４月30日（金）
※郵送の場合は４月30日（金）消印有効
※持参の場合の受付は平日の９時から12時まで及び13時から17時までに限ります。

（2）申請者　受験者本人に限ります。

（3）申請方法　次の書類を下記（4）の申請先に郵送で提出するか、又は持参してください。
①茨城大学入学者選抜情報開示申請書
本学ホームページに掲載する他、入試・高大連携課窓口で配布します。
②本学の受験票の写し
③本人確認のできる書類の写し（大学入学共通テストの受験票、学生証、免許証、パスポート 等）
※マイナンバーカードは使用できません。
④返信用封筒（長形３号／120mm×235mm）
申請者の住所・氏名・郵便番号を明記の上、460円分（簡易書留料金）の切手を貼り付けてください。ただし、郵便料金の改定が行われた場合には、改定時から新料金が適用されます。
※電話での申し込みは受け付けません。

（4）申請先　〒310-8512　茨城県水戸市文京２－１－１
茨城大学学務部入試・高大連携課入学試験グループ
電話　029-228-8064・8066

（5）開示方法　申請者あてに、簡易書留郵便で６月上旬頃に発送します。

（6）開示内容

●一般選抜
【得点】　大学入学共通テストと個別テスト等のそれぞれの得点の合計及び総得点を開示します。
【評価】　合格者には、Ａ・Ｂ・Ｃのランクにより開示します。
不合格者には、段階別（５段階程度）に区分して開示します。ただし、不合格者が５人未満の場合は開示しません。
【調査書】開示しません。

●総合型選抜、学校推薦型選抜、私費外国人留学生選抜
【得点】　開示しません。
【評価】　合格者には、開示しません。
不合格者には、段階別（３段階程度）に区分して開示します。ただし、不合格者が５人未満の場合は開示しません。
【調査書】「総合的な探究の時間の内容・評価」、「指導上参考となる諸事項」及び「備考」欄を除いた調査書の写し（コピー）を開示します。ただし、調査書を出願書類にしていない選抜を除きます。

（7）その他順位についてはいずれの試験区分も開示しません。

2．その他の情報提供について

当該年度の入学者選抜の志願者数、受験者数及び合格者数等の情報については、本学ホームページ【https://www.ibaraki.ac.jp/admission/situation/index.html】で随時提供します。

また、前年度の選抜結果及び過去の入試問題、一般選抜合格者成績情報（合格者の最高点・平均点・最低点）についても、本学ホームページに掲載しています。

ＸＩ．個人情報の取扱い

本学は、「個人情報の保護に関する法律」及び本学が定める「国立大学法人茨城大学個人情報の保護及び管理規程」等に基づき、個人情報の適正な管理と保護を行っています。

出願及び入学手続時に取得する受験者・入学志願者の氏名、生年月日、性別、試験成績その他の個人情報等は次の目的に利用します。

・入学者選抜並びに合格者発表及び入学手続に関する業務
・合格者の入学後の教務（学籍管理、修学指導等）、学生支援（健康管理、奨学金、授業料免除、就職支援等）、授業料等に関する業務
・入学者選抜方法等の改善や広報のための調査、分析及び研究
・個人が特定できない形での統計データへの加工及び利用

また、「個人情報の保護に関する法律」第27条第１項各号に規定された場合を除いて、本人の同意を得ることなく個人情報の第三者への提供は行いません。ただし、国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、本学の受験番号、志望学部等の名称、高等学校名、氏名、性別及び生年月日、合否並びに入学手続等に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に提供します。

ＸⅡ．令和10年度（2028年度）入学者選抜（予告）

「令和10年度（2028年度）入学者選抜の概要について（予告）」については、本学ホームページで公表する予定です。（茨城大学ホームページ【https://www.ibaraki.ac.jp/admission/index.html#support】）

その他、変更がある場合には、上記ホームページにおいて随時お知らせします。

ⅩⅢ．試験場

本学の学力検査等を実施する試験場は、志願学部等により下記のとおり異なりますので注意してください。

なお、**実際に受験する試験場については、出願受付後に発行される受験票に記載**しますので必ず確認してください。

※受験票に記載の試験場以外では、いかなる理由があっても受験できませんので注意してください。

実施学部・学環	試験場	所在地
人文社会科学部	人文社会科学部試験場	茨城県水戸市文京２－１－１ （水戸キャンパス）
教育学部	教育学部試験場	
理学部	理学部試験場	
地域未来共創学環	地域未来共創学環試験場	
工学部	工学部試験場	茨城県日立市中成沢町４－１２－１ （日立キャンパス）
農学部	農学部試験場	茨城県稲敷郡阿見町中央３－２１－１ （阿見キャンパス）

（注意）１．志願状況等によっては、試験場を変更又は追加することがあります。
２．各試験場には駐車場はありません。試験場周辺にも民間の駐車場は大変少なく、受験者の送迎も含め、試験場周辺での駐停車は近隣住民の迷惑になります。試験場にお越しになる際には、公共交通機関を利用してください。

ⅩⅣ．不正行為・迷惑行為

カンニングなどの不正行為や他の受験者への迷惑行為を行った場合は、試験の公正・公平性を損なう行為となるため、受験を取りやめさせ、すべての試験の成績を無効とすることがあります。また、本学が特に悪質だと判断した場合は警察に被害届を提出するなど、厳正に対処します。

（このページは空白ページです）

各選抜の学生募集要項等について

出願方法はインターネット出願です（紙媒体の願書の配布は行っていません）。
学生募集要項は以下の本学ホームページで閲覧できます。

▶ https://www.ibaraki.ac.jp/admission/index.html

【本学ホームページ　⇒　受験者の方へ】

1．公表時期等

募集要項・ガイドブック	公表時期等	備考
入学ガイドブック（Admission Guide）	現在公表中	大学紹介のパンフレットです。
総合型選抜学生募集要項	7月下旬	出願方法等記載（Web公開のみ）。
学校推薦型選抜学生募集要項	9月上旬	出願方法等記載（Web公開のみ）。
私費外国人留学生選抜学生募集要項	10月上旬	出願方法等記載（Web公開のみ）。
一般選抜学生募集要項	10月上旬	出願方法等記載（Web公開のみ）。

2．冊子の請求方法

（1）本学ホームページから「入学ガイドブック」、「入学者選抜要項」、「各学部案内」を請求する

本学のホームページから、**テレメール及びモバっちょ**による資料請求ができます。出願の際は、本学ホームページ上の学生募集要項を参照してインターネット出願してください。

【本学ホームページ　⇒　受験者の方へ　⇒　資料・パンフレット】

（2）テレメールの請求方法

①テレメールのサイトにアクセスしてください。

テレメール	**ＱＲコード**	https://telemail.jp
		※対応する端末で読み取れます。読み取れない場合は、上記アドレスを入力してください。なお、ＱＲコードからアクセスした場合は②資料請求番号の入力不要です。

②資料請求番号（6桁）を入力してください。

資料名	資料請求番号	料金（送料含む）	発送開始日
入学ガイドブックのみ	561402	215円	7月下旬
入学者選抜要項＋入学ガイドブック	794342	250円	
入学者選抜要項のみ	794332	215円	

③あとはガイダンスに従って登録してください。

※発送開始日までの請求は予約受付となり、発送開始日になりましたら一斉に発送されます。その際は、発送開始日から3～5日ほどで資料が届きます。

※料金等は、送付された資料に同封されている支払方法に従いお支払いください（支払いに際して手数料が必要になります）。また、料金は変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

（3）以下の窓口で直接受け取る

①茨城大学学務部入試・高大連携課（水戸キャンパス）
②茨城大学工学部学務グループ（日立キャンパス）
③茨城大学農学部学務グループ（阿見キャンパス）

◆受付時間：平日9:00～17:00（年末年始を除く土、日、祝日は守衛所で配付します）

入学者選抜に関する問い合わせ先

※問い合わせは、志願者本人が行ってください。
受付時間：９時00分～17時00分（12時00分～13時00分、土・日曜日及び祝日を除く）

○茨城大学学務部入試・高大連携課入学試験グループ

電話　　０２９－２２８－８０６４・８０６６
〒310-8512　茨城県水戸市文京２－１－１

その他の問い合わせ先

○学費の減免・徴収猶予について	電話　０２９－２２８－８０６７
○奨学金について	電話　０２９－２２８－８０５９
○学生寮について	電話　０２９－２２８－８０６０
○入学手続について	電話　０２９－２２８－８４１４
○教育学部実技検査等について	電話　０２９－２２８－８２０３
○工学部（日立キャンパス）	電話　０２９４－３８－５２２３
○農学部（阿見キャンパス）	電話　０２９－８８８－８５１９

茨城大学ホームページ

https://www.ibaraki.ac.jp

パソコン・スマートフォンからご覧いただけます。

【ＱＲコード】